

特記仕様書

工事名称	幸崎中学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）
工事場所	三原市幸崎能地三丁目
工事内容	幸崎中学校における、屋内運動場の長寿命化改修工事を行う。 【工事概要】 <ul style="list-style-type: none">・内装改修工事・外装改修工事・屋上防水改修工事
準則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書（各 最新版 国土交通省官房官庁営繕部監修）に基づき施工する。
別途発注工事	・幸崎中学校屋内運動場長寿命化改修工事（電気設備工事）
支払条件等	前払金及び中間前金払・部分払等の支払については、令和8年度は請負金額の10分の4以内の額とする。
関係法令等	本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 <ul style="list-style-type: none">・建築基準法、同施行令、同施行規則・消防法、同施行令・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則・建設業法、同施行令、同施行規則・建設工事公衆災害防止対策要綱・石綿障害予防規則・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令・その他関係法令
疑義変更	本設計図書は、設計の概要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 別途発注工事の設計図書について、取り合いなどの整合を確認すること。 施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の指示により施工すること。ただし、これらにおいて受注金額の増減はなきものとする。 本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。 設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工期	本工事は請負契約締結の後、令和9年6月30日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和9年6月17日。）
留意事項	<ul style="list-style-type: none">・図面に明示されていない事項であっても、工事上必要とされる事は工事範囲とする。・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工日とすること。・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、

あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。

- ・本工事は「発注者指定型」による週休2日適用工事の対象工事であり、「三原市週休2日適用工事等実施要領（建築工事）」（令和7年6月24日改定）により工事を行うこと。
- ・工事着手前までに「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出すること。
- ・「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
- ・月単位の週休2日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所（現場休息）の状況に応じた補正係数により労務費を減額する。
- ・当該施設の営業及び運営等への支障を最小限にするため、工事工程及び作業手順等は最大限の配慮をすること。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・生成AIを積極的に活用して工事を進めること。提出書類については、必ず生成AIによるチェックを行った上で提出すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議（現場事務所と市役所を想定）併用とする。現場でのWeb会議の環境設定（受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。）は、工事に含む。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出し、出席者に内容を共有すること。
- ・現場事務所には、HDMI規格により出力できるモニター（50インチ以上）を設置すること。
- ・現場事務所内は、無線通信（会議にて同時接続10台以上）が可能な環境とすること。
- ・著しい騒音・振動等の発生が予想される作業については、施設の使用時間を避けるなど配慮して作業するように計画すること。また、施設使用者の動線作業についても配慮すること。
- ・騒音・振動等の発生が予想される作業を含めた工事全般について、学校と協議の上でなるべく児童・生徒等に配慮した作業計画すること。授業時間等に十分配慮して作業すること。
- ・使用する塗料は原則として水性塗料とするなど、学校に配慮すること。
- ・現場作業は令和8年8月1日以降とすること。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・騒音計・振動計・デジタル粉塵計・表示盤等を設置し、常時監視をしながら作業を行うこと。
- ・騒音計・振動計の表示盤は、近隣に対して1カ所以上を掲示すること。
- ・騒音測定については、騒音規制法（特定建設作業）の測定方法により測定して、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。
- ・振動測定については、振動規制法（特定建設作業）の測定方法により測定して、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、現状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲い（高さ3m以上）を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。

- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・敷地南側の道路は大型車両進入禁止表示があるため事前に許可を得た上で通行すること。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・監視カメラ・仮設照明・養生用鉄板を適切に設置すること。
- ・敷地の出入口付近には、敷鉄板（下部に砕石敷）を敷き、高圧洗浄機・水中ポンプ・ノッチタンク等を適切に設置すること。工事車両のタイヤ洗浄等により、道路を汚さないように配慮すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
- ・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道使用料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材（可能な範囲で三原市産材）とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日翌日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。（改修工事については、本工事の範囲）
- ・図面に水勾配がある箇所については、施工図に勾配のパーセントを記載すると共に、完成図にも勾配のパーセントを計測して記載すること。計測する箇所については監督員と協議すること。
- ・塗装の下塗り、中塗り、上塗りは原則的に色を塗り分けること。
- ・鍵のプランについては、協議の上で同一キーとする箇所を確認すること。
- ・シリンダーキーについては、既存のグランドマスターキー及びマスターキーに取り込むこと。
- ・外壁劣化状況の調査費用は本工事で見込んでいる。
- ・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に石綿等に関する事項を報告すること。
- ・石綿含有建材の調査（書面・目視調査、分析調査及び検体採取を含む）について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
- ・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性（JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。）による。（4検体）
- ・石綿含有塗材除去作業に当たっては、原則として事前に試験施工を行い、除去後の検体を採取することによって、石綿が除去されることを確認すること。分析調査費等は見込んでいる。
- ・外壁の石綿除去作業については、学校の夏季休業日期間中に施工すること。

- ・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の使用位置を確認させること。
- ・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
- ・石綿含有建材の除去専門業者については、建設技術審査証明協議会による「建設技術審査証明事業」の提出、又は本工事に相応した技術を有することが分かる施工実績証明等が確認できること。
- ・石綿含有建材の除去業者については、一般健康診断・石綿健康診断・じん肺健康診断の3種類を定期的に受診していることが確認できること。
- ・石綿を含有する建築物の解体等を行う際には届出を行うこと。レベル1・2については「工事計画届」「特定粉じん排出等作業届書」「事前届出の実施」「建築物解体等作業届」等遅滞なく提出すること。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
- ・工程計画、取り合い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
- ・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途発注工事業者も使用できるものとする。(維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。)
- ・品質証明員(技術士、1級施工管理技士もしくは1級建築士の資格を有するもので、当該工事に従事していない者)を定める場合は、「総合施工計画書」に品質証明計画と品質証明員の氏名・資格を記載し、資格証明書の写しを添付すること。
- ・品質証明員を定める場合は、品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般に行うこと。また、社内検査を実施し、報告書等を適宜提出すること。
- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。(理由については、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。)
- ・熱中症対策として、従業員及び作業員が必要に応じて水分を補給できるよう作業所に給水設備を設置すること。
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況(写真、進捗率等を月2回程度)を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
- ・工事書類については、工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-R(2部)にて提出すること。
- ・書面での提出が必要なもの(建退共の掛金収納書、試験結果、保証書等)については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
- ・請負代金額300万円以上の工事について、建設業退職金共済事業部の「建設業退職金共済制度事務処理手引き(令和7年10月改訂版)」に基づき、「掛金収納書提出用台紙」及び「建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表」を提出すること。
- ・完成写真(竣工写真)の撮影を外注する場合は、撮影データを三原市が利用することについての承諾書を提出すること。(押印した原本)
- ・製本図面(A3縮小版・二つ折り)として完成図を3部提出すること。
(契約図について、変更があれば変更部分を修正し、完成図であることを明記して一式を製本する。)
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。(縮小率約70.7%)

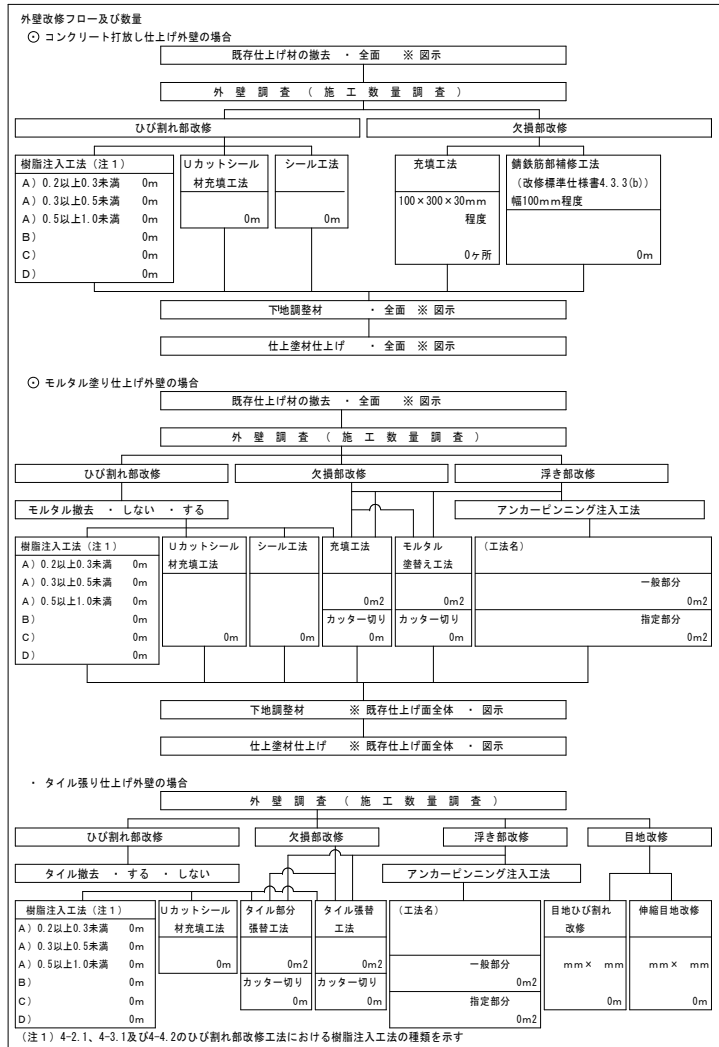
2 仮設工事	1	騒音・粉じん等の対策 騒音・粉じん等の対策 ・ 防音パネル ○ 防音シート 防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲	[2.1.3]
	2	足場等 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行用足場方式により行う。 外部足場 ○ 設置する(範囲 ※ 工事に必要な範囲) ・ 設置しない 防音シート ○ 設置する(範囲 ※ 工事に必要な範囲) ・ 設置しない 内部足場 ○ 設置する(※ 脚立、足場板等) ・ 設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 C種: 利用可能なエレベーター() D種: 利用可能な階段()	[2.2.1] [表2.2.1]
	3	既存部分の養生 養生方法等 ○ 既存部分の養生方法 ※ ビニルシート、合板等による ○ 既存家具、既存設備等の養生方法 ※ ビニルシート等 ・ 既存ブラインド、カーテン等の養生方法 ※ ビニルシート等(取外し再取付を行う) 保管場所 ※ 構内既存施設内 ・ 固定された家具等(備品、机、ロッカー等)の移動 ※ 行う(図示) 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。	[2.3.1]
	4	仮設間仕切り 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※ 図示 仮設間仕切りの種類と材質等 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示 A、B種の上上げ材 ※ セッコウボード(図-R 厚さ9.5mm) ・ 合板(普通合板 厚さ9mm) A、B種の片面への塗装等 ※ 行わない ・ 行う A種のグラスウールの充填 ※ 行う(JIS A 6301グラスウール吸音材32K厚50mm) ・ 行わない 仮設扉の種類 ※ 木製(合板張り程度)	[2.3.2]
	5	監督職員事務所等 ○ 設ける m2程度 ※ 設けない 現場に設置する備品は、現場説明書の施工条件明示による	[2.4.1]
	6	工事用水 構内既存の施設 ・ 利用できる(※ 有償 ・ 無償) ※ 利用できない	
	7	工事用電力 構内既存の施設 ・ 利用できる(※ 有償 ・ 無償) ※ 利用できない	
	8	仮囲い等の安全施設 別紙設計図による	
	9	工事現場の表示 現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する ⓐ 工事名等の表示板(900mm×600mm) ○ 工事概要等の説明看板(900mm×600mm)	
	10	交通誘導員 ※ 配置しない ※ 大型車両進入時()人/日 ○ 常時配置()人/日 ()作業期間()人/日	

3 防水改修工事	1	降雨等に対する養生方法 ※ 改修標準仕様書3.1.3(5)①～④による。	[3.1.3]
	2	既存防水の処理 既存保護層の撤去 ・ 行う(範囲 ※ 図示) ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う(範囲 ※ 図示) ・ 行わない 既存露出防水層表面の仕上げ塗装の撤去 ・ 行う(※ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X) ・ 行わない	[3.2.3, 4, 6]
	3	既存下地の処置 既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 POS工法及びPPOS工法(構造的固定工法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4)①②③による 設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する	[3.2.6]
	4	アスファルト防水 屋根保護防水 防水層の種類 工法 種類 施工箇所 断熱材 絶縁用シート 立上り部の保護 ・ P2A ・ A-1 ※ A-2 ・ A-3 ・ P1B ※ B-1 ※ B-2 ・ B-3 ・ P2A1 ・ A1-1 ※ A1-2 ・ A1-3 ・ P1B1 ・ B1-1 ※ B1-2 ・ B1-3 (材質) JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキャン付き) (厚さ) ※25mm ・ 50mm ※フラット ヤーンクロス 70g/m2程度	[3.3.2~5]
	5	改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による 平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ こて仕上げ ※ 水下 80mm以上 床タイル張り ※ 水下 60mm以上 乾式保護材 窯業系パネル: 無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したものを。 金属複合板: 金属板と樹脂を積層一体化したもの。	
	6	屋根露出防水 防水層の種類 工法 種類 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考 ・ M4C ・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4 ・ W3D ・ D-1 ・ POD ※ D-2 ・ D-3 ・ D-4 ・ POD1 ・ D1-1 ・ W3D1 ※ D1-2 ・ M4D1 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	7	改質アスファルトシート 防水 防水層の種類 工法 種類 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考 ・ POS ・ S-F1 ・ S4S ・ S-F2 ・ S-M1 ・ S-M2 ・ S-M3 ・ S3S ・ S-F1 ・ S-F2 ・ M4S ・ S-M1 ・ S-M2 ・ S-M3 ・ POS1 ・ SI-F1 (材質) ※改修標準仕様書3.5.2 (C)③(④)による ・ S3S1 ・ S4S1 ・ M4S1 ・ SI-F2 (厚さ) ※25mm ・ 50mm ・ SI-M1 (材質) ※改修標準仕様書3.5.2 (C)③(④)による ・ SI-M2 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	[3.5.2~4] [表3.5.1~3]
	8	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	9	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	

5 改質アスファルトシート防水	1	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	[3.4.2, 3]
	2	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	3	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	4	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	5	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	6	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	7	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	8	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	9	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	
	10	改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による 断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 断熱材2種 1号又は2号 (厚さ) ※25mm ・ 50mm	

7 塗膜防水	1	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	[3.5.2, 3]
	2	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	3	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	4	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	5	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	6	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	7	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	8	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	9	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	
	10	屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの	

4-1 外壁改修工事 共通事項	<p>1 ポリマーセメントモルタル</p> <p>(品質・性能) [4. 2. 2]</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">項目</th><th>品質・性能</th></tr> <tr><td rowspan="2">だれ</td><td>下がり量 (mm)</td><td>5以内</td></tr> <tr><td>表面の状態</td><td>ひび割れの発生が無いこと。</td></tr> <tr><td>曲げ強さ (N/mm²)</td><td></td><td>6.0以上</td></tr> <tr><td>圧縮強さ (N/mm²)</td><td></td><td>20.0以上</td></tr> <tr><td rowspan="2">接着強さ (N/mm²)</td><td>標準条件</td><td>1.0以上</td></tr> <tr><td>特殊条件</td><td>0.8以上</td></tr> <tr><td rowspan="2">透水性</td><td>遅延時間</td><td>0.5以上</td></tr> <tr><td>低露時</td><td>0.5以上</td></tr> </table> <p>その他</p>	項目		品質・性能	だれ	下がり量 (mm)	5以内	表面の状態	ひび割れの発生が無いこと。	曲げ強さ (N/mm ²)		6.0以上	圧縮強さ (N/mm ²)		20.0以上	接着強さ (N/mm ²)	標準条件	1.0以上	特殊条件	0.8以上	透水性	遅延時間	0.5以上	低露時	0.5以上	<p>4-2 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁</p>	<p>1 ひび割れ部改修工法</p> <p>※ 樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 5]</p> <table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>50~100</td><td>※70</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示</p> <p>○ Uカットシール材充填工法</p> <p>○ シーリング材</p> <p>充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・ シール工法</p> <p>※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40	※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※70	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>4-4 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁</p>	<p>1 タイル張替え工法用材料</p> <p>タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 [4. 2. 2]</p> <p>・ ポリマーセメントモルタル</p> <p>・ JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系</p> <p>・ JIS A 5551による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系</p> <p>タイルの形状、寸法等</p> <table border="1"> <tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">形状/寸法 (mm)</th><th colspan="2">再塗材料</th><th colspan="2">吸水率による区分</th><th rowspan="2">うわぐすり</th><th rowspan="2">発色</th><th rowspan="2">耐凍害性</th><th rowspan="2">耐凍害性</th><th rowspan="2">耐凍害性</th></tr> <tr><th>1種</th><th>2種</th><th>3種</th><th>4種</th></tr> <tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> </table> <p>耐凍害性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法-第12部: 耐凍害性試験方法) で規定する C.S.値は0.4~1.0とする。</p> <p>接着剤の使用箇所</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">内装</th><th colspan="2">外装</th></tr> <tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> </table>	施工箇所	形状/寸法 (mm)	再塗材料		吸水率による区分		うわぐすり	発色	耐凍害性	耐凍害性	耐凍害性	1種	2種	3種	4種	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	内装		外装		・	・	・	・	<p>4-5 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁</p>	<p>1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整</p> <p>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上げ外壁)、4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上げ外壁) による</p> <p>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>石積含有仕上げ塗材の除去は、9章環境配慮改修工事による</p>	<p>2 下地調整材</p> <p>※ 下地調整塗材 ・ ポリマーセメントモルタル [4. 6. 3]</p> <p>3 仕上げ塗材仕上げ</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 6. 5] [表4. 2. 4]</p> <p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外</p> <p>※ 厚付け仕上げ塗材</p> <table border="1"> <tr><th>呼び名</th><th>仕上げの形状</th><th>工法</th><th>吸気湿度</th><th>防火材料</th></tr> <tr><td>※ 外装薄塗材E</td><td>砂壁状</td><td></td><td>・ 適用する</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・ 適用する</td><td>・</td></tr> </table> <p>○ 複層仕上げ塗材</p> <table border="1"> <tr><th>呼び名</th><th>仕上げの形状</th><th>工法</th><th>吸気湿度</th><th>上塗り材</th><th>防火材料</th></tr> <tr><td>※ 複層塗材E</td><td>凹凸状</td><td></td><td>・ 適用する</td><td>・ 適用する</td><td>・</td></tr> <tr><td>○ 防水部層塗材E</td><td>凹凸状</td><td></td><td>・ 適用する</td><td>・ 適用する</td><td>・</td></tr> </table> <p>軽量骨材仕上塗料</p> <table border="1"> <tr><th>呼び名</th><th>防火材料</th></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>・</td></tr> </table> <p>4 マスチック塗材塗り</p> <p>[4. 1. 5] [4. 7. 2] [表4. 7. 1]</p> <p>5 外壁用塗膜防水材塗り</p> <p>[4. 1. 5] [4. 2. 2] [4. 8. 2] [表4. 2. 6]</p> <p>仕上げの形状</p> <p>工法</p> <p>外壁用仕上げ塗材の耐凍害性 ※ JIS A 6909の耐凍害1種の品質基準に適合するもの</p> <p>下地準拠塗材 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>横線材の種類 ・ (所要量 ※ 改修標準仕様書表4.2.6による) ・ kg/m²</p> <p>外壁用仕上げ塗料の種類</p> <p>(所要量 ※ 改修標準仕様書表4.2.6による) ・ kg/m²</p>	呼び名	仕上げの形状	工法	吸気湿度	防火材料	※ 外装薄塗材E	砂壁状		・ 適用する	・	・	・	・	・ 適用する	・	呼び名	仕上げの形状	工法	吸気湿度	上塗り材	防火材料	※ 複層塗材E	凹凸状		・ 適用する	・ 適用する	・	○ 防水部層塗材E	凹凸状		・ 適用する	・ 適用する	・	呼び名	防火材料	・	・	・	・
	項目		品質・性能																																																																																																																														
だれ	下がり量 (mm)	5以内																																																																																																																															
	表面の状態	ひび割れの発生が無いこと。																																																																																																																															
曲げ強さ (N/mm ²)		6.0以上																																																																																																																															
圧縮強さ (N/mm ²)		20.0以上																																																																																																																															
接着強さ (N/mm ²)	標準条件	1.0以上																																																																																																																															
	特殊条件	0.8以上																																																																																																																															
透水性	遅延時間	0.5以上																																																																																																																															
	低露時	0.5以上																																																																																																																															
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																														
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																														
※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※70																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																														
施工箇所	形状/寸法 (mm)	再塗材料		吸水率による区分		うわぐすり	発色	耐凍害性	耐凍害性	耐凍害性																																																																																																																							
		1種	2種	3種	4種																																																																																																																												
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																							
内装		外装																																																																																																																															
・	・	・	・																																																																																																																														
呼び名	仕上げの形状	工法	吸気湿度	防火材料																																																																																																																													
※ 外装薄塗材E	砂壁状		・ 適用する	・																																																																																																																													
・	・	・	・ 適用する	・																																																																																																																													
呼び名	仕上げの形状	工法	吸気湿度	上塗り材	防火材料																																																																																																																												
※ 複層塗材E	凹凸状		・ 適用する	・ 適用する	・																																																																																																																												
○ 防水部層塗材E	凹凸状		・ 適用する	・ 適用する	・																																																																																																																												
呼び名	防火材料																																																																																																																																
・	・																																																																																																																																
・	・																																																																																																																																
<p>2 ポリマーセメントスラリー</p> <p>(品質・性能) [4. 2. 2]</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>品質・性能</th><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> <tr><td>広がり速度 (cm/a)</td><td>長さ変化率 (収縮) (材齢28日) (%)</td><td>引張接着性 (材齢28日) (N/mm²)</td><td>曲げ性能 (材齢28日) (N/mm²)</td></tr> <tr><td>保水係数</td><td>0.35~0.55</td><td>吸水率 (72時間) (%)</td><td>耐水性 (劣化曲げ強さ) (N/mm²)</td></tr> <tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td><td>単位容積質量</td><td>0.4N/mm²以上</td></tr> <tr><td>標準時</td><td>0.6N/mm²以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>遅延時間</td><td>0.4N/mm²以上</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>3 吸水調整材</p> <p>改修標準仕様書表4.2.2による [4. 2. 2]</p> <p>4 既製調合モルタル</p> <p>[4. 2. 2]</p> <p>モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、遅延剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>品質・性能</th><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> <tr><td>保水率</td><td>70.0%以上</td><td>長さ変化率</td><td>0.2%以下</td></tr> <tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td><td>曲げ強さ</td><td>0.4N/mm²以上</td></tr> <tr><td>標準時</td><td>0.6N/mm²以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>遅延時間</td><td>0.4N/mm²以上</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試料の調製</p> <p>製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。</p> <p>練りばちに用意した水を入れ、撈拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(2) 保水率の試験方法</p> <p>JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰め込む。</p> <p>その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になよよにして静置する。60分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位で測定する。</p> <p>試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求め、</p> <p>保水率 = 50 / 平均値 × 100 (注) 50: リング型わくの直径 mm</p> <p>(3) 単位容積質量の試験方法</p> <p>JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。</p> <p>(4) 接着強さ (標準時) の試験方法</p> <p>① 適用タイルが「モザイクタイル」の場合</p> <p>(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による面地厚の「150mmユニットタイル (外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。</p> <p>(試験方法) JIS A 6909「建築用仕上げ塗料」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取る。(全てが0.6N/mm²以上を確保していること)</p> <p>② 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合</p> <p>(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による面地厚の「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。</p> <p>(試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。</p> <p>(5) 接着強さ (温冷縮後) の試験方法</p> <p>(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4)接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。</p> <p>(温冷縮後試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上げ塗料」に規定する7.11温冷縮後試験に準じて行う。</p> <p>試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。</p> <p>(温冷縮後後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷縮後試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm²以上を確保していること)</p> <p>(6) 長さ変化率の試験方法</p> <p>JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。</p> <p>(7) 曲げ強さの試験方法</p> <p>JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。</p> <p>試験室の状態: 試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。</p>	項目	品質・性能	項目	品質・性能	広がり速度 (cm/a)	長さ変化率 (収縮) (材齢28日) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm ²)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm ²)	保水係数	0.35~0.55	吸水率 (72時間) (%)	耐水性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)	単位容積質量	1.80kg/L以上	単位容積質量	0.4N/mm ² 以上	標準時	0.6N/mm ² 以上			遅延時間	0.4N/mm ² 以上			項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.2%以下	単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	0.4N/mm ² 以上	標準時	0.6N/mm ² 以上			遅延時間	0.4N/mm ² 以上			<p>4-3 外壁改修工事 モルタル塗仕上げ外壁</p>	<p>2 欠損部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]</p> <p>※ 充填工法</p> <p>・ エポキシ樹脂モルタル</p> <p>○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>3 ひび割れ部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 5~7]</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示</p> <p>○ Uカットシール材充填工法</p> <p>・ シーリング材</p> <p>充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・ シール工法</p> <p>※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・ モルタルを撤去して改修</p> <p>モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上げ外壁) による</p> <p>モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による</p> <p>4 欠損部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 8, 9]</p> <p>※ 充填工法 (欠損部の面積が0.25m²/箇所程度以下の場合)</p> <p>充填材料の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ モルタル塗替え工法</p> <p>モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料</p> <p>既製目地材 ・ 使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>5 浮き部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10~15]</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修</p> <p>○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径6mm</p> <p>・ モルタルを撤去して改修</p> <p>モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料</p> <p>・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル</p> <p>・ モルタル塗替え工法 既製目地材 ・ 使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>6 外壁複合改修工法</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40	※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>2 ひび割れ部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 5, 6]</p> <p>※ タイルを撤去して改修</p> <p>下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上げ外壁) による</p> <p>モルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上げ外壁) による</p> <p>タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、3 欠損部改修工法による</p> <p>・ タイルを撤去しないで改修</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示</p> <p>○ Uカットシール材充填工法</p> <p>・ シーリング材</p> <p>充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>3 欠損部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 7, 8]</p> <p>・ タイル部分張替え工法 (欠損部の面積が0.25m²/箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合)</p> <p>接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤強りの接着剤</p> <p>・ タイル張替え工法 (下地モルタルを撤去する場合)</p> <p>貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料</p> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 改修標準仕様書表4.5.11による</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <p>タイル張りの工法 ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り</p> <p>・ ユニットタイル (・ マスク張り ・ モザイクタイル張り)</p> <p>・ 有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <p>下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理</p> <p>※ 目直し工法</p> <p>シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・</p> <p>4 浮き部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 9~15]</p> <p>・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法</p> <p>注入口付アンカーピン本数</p> <p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径6mm程度</p> <p>5 目地改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 5. 16]</p> <p>・ 目地ひび割れ部改修工法</p> <p>・ 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※ 図示</p> <p>6 外壁複合改修構工法</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40	※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>3 欠損部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 5~7]</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td>※ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示</p> <p>○ Uカットシール材充填工法</p> <p>・ シーリング材</p> <p>充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>4 欠損部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 8, 9]</p> <p>※ 充填工法 (欠損部の面積が0.25m²/箇所程度以下の場合)</p> <p>充填材料の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ モルタル塗替え工法</p> <p>モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料</p> <p>既製目地材 ・ 使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>5 浮き部改修工法</p> <p>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10~15]</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修</p> <p>○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径6mm程度</p> <p>6 外壁複合改修構工法</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40	※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130									
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																														
広がり速度 (cm/a)	長さ変化率 (収縮) (材齢28日) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm ²)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm ²)																																																																																																																														
保水係数	0.35~0.55	吸水率 (72時間) (%)	耐水性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)																																																																																																																														
単位容積質量	1.80kg/L以上	単位容積質量	0.4N/mm ² 以上																																																																																																																														
標準時	0.6N/mm ² 以上																																																																																																																																
遅延時間	0.4N/mm ² 以上																																																																																																																																
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																														
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.2%以下																																																																																																																														
単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	0.4N/mm ² 以上																																																																																																																														
標準時	0.6N/mm ² 以上																																																																																																																																
遅延時間	0.4N/mm ² 以上																																																																																																																																
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																														
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																														
※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																														
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																														
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																														
※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																														
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																														
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																														
※ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																														
※ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																														



5	1	改修工法	[5.1.3]			
			建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
5	1	アルミニウム製建具	・ 耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による
			・ 断熱性能 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による
			・ 遮音性能 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による
			・ 耐火性能 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による
			・ 防犯性能 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による	※ 改修標準仕様書表5.2.1による
2	防火戸	・ 適用する 指定箇所 (※ 建具表による)			[5.1.4]	
3	建具見本の製作	※ 製作しない ・ 製作する (・ 納まり等が分かる程度のもの)			[5.1.5]	
4	防犯建物部品	・ 適用する 適用箇所 (※ 建具表による)			[5.1.7]	
5	アルミニウム製建具	性能値等 [5.2.2~5] [表5.2.2]	・ 耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	※ 改修標準仕様書表5.2.1による		
<p>新設に建具を設ける場合</p> <p>壁部分の開口の開け方 ※ 図示</p> <p>新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示</p>						

6	網戸等	[5.2.3]			
		種類	材質	線径	網目
6	網戸等	・ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※ 0.25mm以上	※ 16~18メッシュ
		・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法15mm
7	樹脂製建具	[5.2.2] [5.3.2~5]			
		性能値等	・ 耐風圧性の等級 ()、機密性の等級 ()、水密性の等級 ()	※ 改修標準仕様書表5.3.1による	
8	鋼製建具	[5.2.2] [5.4.2~4] [表5.4.2]			
		性能等級 (建具符号:)	・ 建具表による		
9	鋼製軽量建具	[5.2.2] [5.5.2~4]			
		性能等級 (建具符号:)	・ 建具表による		
10	ステンレス製建具	[5.2.2] [5.4.2] [5.6.2~5]			
		性能等級 (建具符号:)	・ 建具表による		
11	建具用金物	[5.7.2, 3]			
		金物の種類及び見え掛り部の材質等	※ 改修標準仕様書表5.1.1及び適用は建具表による		

12	自動ドア開閉装置	[5.7.4]					
		種類	材質	線径	網目	性能値	備考
12	自動ドア開閉装置	3) 握り玉のねじり強度試験 (3KN・cm) を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施設時握り玉が固定される場合は、施設状態が維持され、かつ、施設後操作に支障がない。					
		4) ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施設時ハンドルが固定される場合は、施設状態が維持され、かつ、施設後操作に支障がない。					
13	引き戸用駆動装置	[5.8.2, 3]					
		性能値	※ 改修標準仕様書表5.8.1による				

14	自動式上吊り引戸装置	[5.9.3]			
		性能値	備考	備考	備考
14	自動式上吊り引戸装置	多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置			
		性能値	※ 改修標準仕様書表5.8.2による		
15	重量シャッター	[5.10.2, 3]			
		シャッターの種類	・ 管理用シャッター 耐風圧強度 () N/m ²		
16	軽量シャッター	[5.11.2~4]			
		開閉方式の種類	※ 手動式 ・ 上部電動式 (手動併用)		
17	オーバヘッドドア	[5.12.2, 3]			
		セクション材料	耐風圧性能	開閉方式	収納方式
18	木製建具	[16.7.2~4]			
		建具材の加工、組立時の含水率	※ 日曬		

18	ガラス	(16.9.7.14.2~4)(表16.14.1)																																									
		<p>下記のガラス以外の種類、厚さの呼びによる種類等</p> <p>※ 建具表による</p> <p>合わせガラスの材料ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの会計厚さ及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による</p> <table border="1"> <tr> <th>材料ガラスの種類、組合せ</th> <th>落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類</th> </tr> <tr> <td>・フロート板、フロート板合わせガラス</td> <td>・Ⅰ類・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類・Ⅲ類</td> </tr> </table> <p>強化ガラスの形状による種類、材料ガラスの種類による名称及び特性による種類</p> <p>※ 下記以外は建具表による</p> <table border="1"> <tr> <th>材料ガラスによる名称</th> <th>材料ガラス</th> <th>破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類</th> </tr> <tr> <td>・フロート強化ガラス</td> <td>・フロート板ガラス</td> <td>・Ⅰ類・Ⅱ類</td> </tr> </table> <p>熱線吸収ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類</p> <p>※ 下記以外は建具表による</p> <table border="1"> <tr> <th>材料ガラスによる種類</th> <th>性能による種類</th> <th>色調</th> </tr> <tr> <td>・熱線吸収フロート板ガラス</td> <td>・1種・2種</td> <td>・グリーン</td> </tr> <tr> <td>・熱線吸収入り磨き板ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>複層ガラスの材料ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ</p> <p>※ 下記以外は建具表による</p> <table border="1"> <tr> <th>断熱性による区分</th> <th>乾燥気体の種類</th> </tr> <tr> <td>・T1・T2・T3・T4・T5・T6</td> <td>・空気・アルゴン</td> </tr> </table> <p>日射取得性、日射遮蔽性による区分</p> <table border="1"> <tr> <th>乾燥気体の種類</th> </tr> <tr> <td>・G・S</td> </tr> </table> <p>熱線反射ガラスの材料ガラスの種類及び厚さによる種類</p> <p>※ 下記以外は建具表による</p> <table border="1"> <tr> <th>材料ガラスによる種類</th> <th>日射遮蔽性による区分</th> <th>耐久性による区分</th> </tr> <tr> <td>・色調(ブルー・グレー)</td> <td>・1種 ・2種 ・3種</td> <td>・A類 ・B類 ・B類</td> </tr> </table> <p>反射皮膜面 内面・外面 映像調整 行わない・行う</p> <p>ガラスの留め材及び溝の大きさ</p> <table border="1"> <tr> <th>建具の種類</th> <th>ガラス留め材</th> <th>ガラス溝の大きさ(mm)</th> </tr> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※ シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形</td> <td>※ 建具の製造時の仕様による</td> </tr> <tr> <td>鋼製及び鋼製軽量</td> <td>※ シーリング材</td> <td>※ 建具の製造時の仕様による</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>※ シーリング材</td> <td>※ 建具の製造時の仕様による</td> </tr> </table> <p>防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による</p>	材料ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類	・フロート板、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類・Ⅲ類	材料ガラスによる名称	材料ガラス	破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類	・フロート強化ガラス	・フロート板ガラス	・Ⅰ類・Ⅱ類	材料ガラスによる種類	性能による種類	色調	・熱線吸収フロート板ガラス	・1種・2種	・グリーン	・熱線吸収入り磨き板ガラス			断熱性による区分	乾燥気体の種類	・T1・T2・T3・T4・T5・T6	・空気・アルゴン	乾燥気体の種類	・G・S	材料ガラスによる種類	日射遮蔽性による区分	耐久性による区分	・色調(ブルー・グレー)	・1種 ・2種 ・3種	・A類 ・B類 ・B類	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	※ シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	※ 建具の製造時の仕様による	鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材	※ 建具の製造時の仕様による	ステンレス製
材料ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類																																										
・フロート板、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類・Ⅲ類																																										
材料ガラスによる名称	材料ガラス	破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類																																									
・フロート強化ガラス	・フロート板ガラス	・Ⅰ類・Ⅱ類																																									
材料ガラスによる種類	性能による種類	色調																																									
・熱線吸収フロート板ガラス	・1種・2種	・グリーン																																									
・熱線吸収入り磨き板ガラス																																											
断熱性による区分	乾燥気体の種類																																										
・T1・T2・T3・T4・T5・T6	・空気・アルゴン																																										
乾燥気体の種類																																											
・G・S																																											
材料ガラスによる種類	日射遮蔽性による区分	耐久性による区分																																									
・色調(ブルー・グレー)	・1種 ・2種 ・3種	・A類 ・B類 ・B類																																									
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)																																									
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	※ 建具の製造時の仕様による																																									
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材	※ 建具の製造時の仕様による																																									
ステンレス製	※ シーリング材	※ 建具の製造時の仕様による																																									
19	ガラスブロック組み	[5.13.5]																																									
		<table border="1"> <tr> <th>表面形状</th> <th>呼び寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>色調</th> <th>目地幅(mm)</th> <th>伸縮調整目地位置(mm)</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>・正方形</td> <td>・125×125 ・160×160</td> <td>80 95 125</td> <td>・クリア ・乳白</td> <td>平積み ※8-15 曲面積み ※15以下</td> <td>位置 ※6mm以下 ごとくに幅10-25 ・図示</td> <td>※無し ・有り</td> </tr> <tr> <td>・長方形</td> <td>・200×200 ・320×320 ・250×125 ・320×160</td> <td>85 95 80 95</td> <td></td> <td>内側 ※6以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>建用金属枠及び補修材の材質・形状 ※ 図示</p> <p>力骨 材質 ※ ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※ 径5.5mm 形状 ※ はしご形状複筋及び単筋</p> <p>化粧目地モルタルの色() 金属化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ※ 図示 形状 ※ 図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法</p> <p>目地部の横力骨の納まり ※ ガラスブロック製造時の仕様による 図示</p>	表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能	・正方形	・125×125 ・160×160	80 95 125	・クリア ・乳白	平積み ※8-15 曲面積み ※15以下	位置 ※6mm以下 ごとくに幅10-25 ・図示	※無し ・有り	・長方形	・200×200 ・320×320 ・250×125 ・320×160	85 95 80 95		内側 ※6以上																						
表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能																																					
・正方形	・125×125 ・160×160	80 95 125	・クリア ・乳白	平積み ※8-15 曲面積み ※15以下	位置 ※6mm以下 ごとくに幅10-25 ・図示	※無し ・有り																																					
・長方形	・200×200 ・320×320 ・250×125 ・320×160	85 95 80 95		内側 ※6以上																																							
20	ガラス用フィルム																																										
		<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>その他性能等</th> </tr> <tr> <td>・日射調整フィルム</td> <td>・SC-1 ・SC-2</td> <td>日射遮蔽性能による区分 ・A・B・C・D・E</td> </tr> <tr> <td>・低放射フィルム</td> <td>LE</td> <td>熱線透過率による区分 ・A・B・C・D</td> </tr> <tr> <td>・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム</td> <td>・GI-1 ・GI-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・相関部位破壊対応ガラス飛散防止フィルム</td> <td>・GD-1 ・GD-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ガラス貫通防止フィルム</td> <td>SF</td> <td>ガラスの貫通防止性能による区分 ・A・B</td> </tr> </table> <p>品質 JIS A5759による</p>	種類	記号	その他性能等	・日射調整フィルム	・SC-1 ・SC-2	日射遮蔽性能による区分 ・A・B・C・D・E	・低放射フィルム	LE	熱線透過率による区分 ・A・B・C・D	・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI-1 ・GI-2		・相関部位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD-1 ・GD-2		・ガラス貫通防止フィルム	SF	ガラスの貫通防止性能による区分 ・A・B																							
種類	記号	その他性能等																																									
・日射調整フィルム	・SC-1 ・SC-2	日射遮蔽性能による区分 ・A・B・C・D・E																																									
・低放射フィルム	LE	熱線透過率による区分 ・A・B・C・D																																									
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI-1 ・GI-2																																										
・相関部位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD-1 ・GD-2																																										
・ガラス貫通防止フィルム	SF	ガラスの貫通防止性能による区分 ・A・B																																									

6	内装改修工事	1	他の部位との取り合い等	既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より側面600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う 図示 既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※ 既存のまま 図示	[6.1.3]
		2	既存床の撤去及び下地補修	ビニルシート等の撤去 ※ 仕上材のみ(接着剤とも) 撤去範囲(全て) 下地モルタルとも(図示の範囲) 撤去範囲(全て) 合成樹脂塗料の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目貫し工法 既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外装改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※ 改修部の端部より1m程度	[6.2.2]
3	既存壁の撤去及び下地補修	3	間仕切り壁の撤去及び下地補修	間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※ 改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り(仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処理 ※ 図示)	[6.3.2]
		4	木下地の表面仕上げ	表面仕上げの種類 適用箇所 機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種 手加工 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種	[6.5.1]
5	製材	5	「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材	施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 保存処理 間伐材等の適用	[6.5.2]
		6	「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材	施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 保存処理 間伐材等の適用	[6.5.2]
6	造作用集成材	6	「製材の日本農林規格」以外の製材	施工箇所 樹種 寸法(mm) 材面の品質 防火処理 含水率 間伐材等の適用	[6.5.2]
		7	「集成材の日本農林規格」による造作用集成材	施工箇所 樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用	[6.5.2]
7	造作用単板積層材	7	ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外	「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材	[6.5.2]
		8	床張り用合板等	ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外	[6.5.2]
9	防霉・防蟻処理	9	防霉、防蟻処理を省略できる樹種による製材	適用部位: ()	[6.5.5]
		10	薬剤の加圧注入による防霉防蟻処理	適用部位 ()	[6.5.5]

10	軽量鉄骨天井下地	10	野縁等の種類	野縁(※25形) 屋内(※19形・25形)	[6.6.2~4]		
		11	軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類 ※ 改修標準仕様書表6.7.11によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 図示 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 標準仕様書14.5.4.(5)による	[6.7.3][表6.7.1]		
12	ビニル床シート	12	種類の記号	色柄	特殊機能		
		13	ビニル床タイル	種類の記号	色柄	寸法	特殊機能
14	接着剤	14	接着剤は可塑剤(揮発性の可塑剤を除く)が添加されていないものとする。	[6.5.3.4][6.8.2][6.9.3][6.11.4.5]			
		15	ビニル幅木	材質の種類 ※ 軟質 ・ 硬質 高さ(mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100 厚さ(mm) ※ 1.5以上	[6.8.2]		
16	ゴム床タイル	16	種類	・ 単層品 ・ 複層品	[6.8.2]		
		17	カーペット敷き	・ 織じゅうたん ・ 織り方 ・ ウルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンターカーペット ・ カット、ループ併用	[6.9.3.4][表6.9.1]		
17	カーペット敷き	17	カーペットの種類等	※ 模様の無い無地のもの(改修標準仕様書表6.9.1による種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種)	[6.9.3.4][表6.9.1]		
		18	カーペットの種類等	・ タフテッドカーペット ・ カットバイル ・ ルーフバイル ・ カット、ループ併用	[6.9.3.4][表6.9.1]		

18	合成樹脂塗床	[6.1.0.2、3]				・化粧パーティクルボード G ・単板オーバレイ DV ・プラスチックオーバレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃)	・ハードボード(素地) G HB ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) NN ・研磨板(・スタンダード・テンパード) RS ・ハードボード(化粧) G ・内装用DI・外装用DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード IB A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18	(4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「50ユニットタイル(外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上げ塗料」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シロメ接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り取る。(全てが0.6N/mm ² 以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。	③ 錆止め塗料塗り ④ 仕上げ塗料塗り	⑧ 耐震改修工事 ⑨ 環境配慮改修工事
		種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フローリング ボード1等 ・ 釘留め工法(樫大張り) ※ なら ・ 15 ・ ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フローリング ブロック1等 ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・									
19	防じん用塗床	[6.1.1.2~6]				・化粧パーティクルボード G ・単板オーバレイ DV ・プラスチックオーバレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃)	・ハードボード(素地) G HB ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) NN ・研磨板(・スタンダード・テンパード) RS ・ハードボード(化粧) G ・内装用DI・外装用DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード IB A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18	(4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「50ユニットタイル(外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上げ塗料」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シロメ接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り取る。(全てが0.6N/mm ² 以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。	③ 錆止め塗料塗り ④ 仕上げ塗料塗り	⑧ 耐震改修工事 ⑨ 環境配慮改修工事
		種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フローリング ボード1等 ・ 釘留め工法(樫大張り) ※ なら ・ 15 ・ ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フローリング ブロック1等 ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・									
20	フローリング張り	[6.1.1.2~6]				・化粧パーティクルボード G ・単板オーバレイ DV ・プラスチックオーバレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃)	・ハードボード(素地) G HB ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) NN ・研磨板(・スタンダード・テンパード) RS ・ハードボード(化粧) G ・内装用DI・外装用DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード IB A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18	(4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「50ユニットタイル(外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上げ塗料」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シロメ接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り取る。(全てが0.6N/mm ² 以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。	③ 錆止め塗料塗り ④ 仕上げ塗料塗り	⑧ 耐震改修工事 ⑨ 環境配慮改修工事
		種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フローリング ボード1等 ・ 釘留め工法(樫大張り) ※ なら ・ 15 ・ ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フローリング ブロック1等 ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・									
21	畳敷き	[6.1.2.2]				・化粧パーティクルボード G ・単板オーバレイ DV ・プラスチックオーバレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃)	・ハードボード(素地) G HB ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) NN ・研磨板(・スタンダード・テンパード) RS ・ハードボード(化粧) G ・内装用DI・外装用DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード IB A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18	(4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「50ユニットタイル(外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上げ塗料」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シロメ接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り取る。(全てが0.6N/mm ² 以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。	③ 錆止め塗料塗り ④ 仕上げ塗料塗り	⑧ 耐震改修工事 ⑨ 環境配慮改修工事
		種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フローリング ボード1等 ・ 釘留め工法(樫大張り) ※ なら ・ 15 ・ ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フローリング ブロック1等 ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・									
22	せつこうボードその他ボード及び合板張り	[6.1.3.2、3]				・化粧パーティクルボード G ・単板オーバレイ DV ・プラスチックオーバレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃)	・ハードボード(素地) G HB ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) NN ・研磨板(・スタンダード・テンパード) RS ・ハードボード(化粧) G ・内装用DI・外装用DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード IB A級(・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18	(4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「50ユニットタイル(外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上げ塗料」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シロメ接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さを試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り取る。(全てが0.6N/mm ² 以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A537「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施す「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。	③ 錆止め塗料塗り ④ 仕上げ塗料塗り	⑧ 耐震改修工事 ⑨ 環境配慮改修工事
		種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フローリング ボード1等 ・ 釘留め工法(樫大張り) ※ なら ・ 15 ・ ・ 釘留め工法(直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フローリング ブロック1等 ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・									

Measurement methods table for asbestos and fire safety. Includes sections for 'Asbestos Measurement' and 'Fire Safety Measurement' with various test parameters and results.

Construction specifications table for '断熱・防震改修工事' (Thermal and seismic renovation). Details materials like 'フェノールフォーム' (Phenolic foam) and 'グラスウール' (Glass wool), along with their properties and installation methods.

Structural specifications table for 'フリーアクセスフロア' (Free access floor). Includes details on '構造' (Structure), '耐力性能' (Strength performance), and '耐震性能' (Seismic performance).

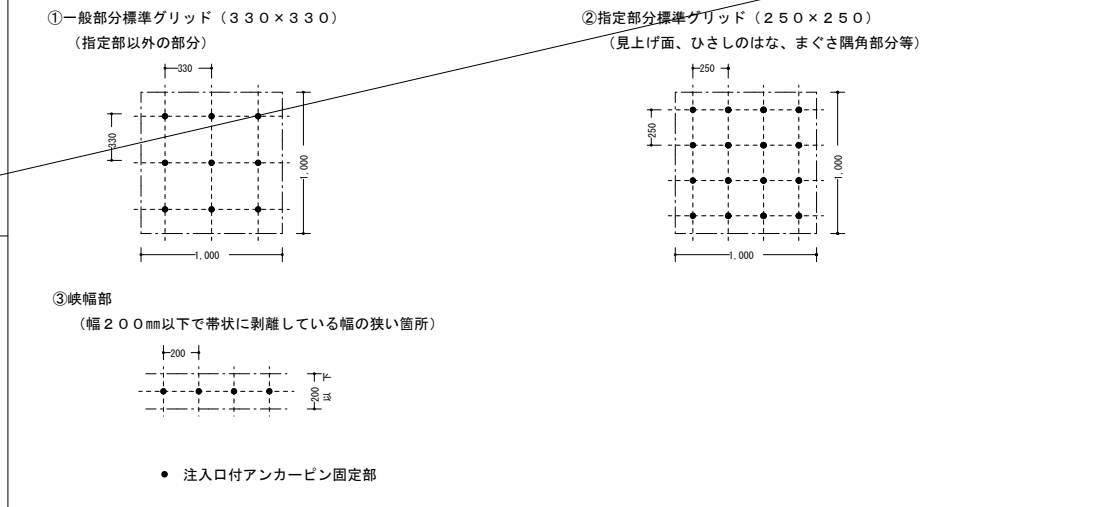
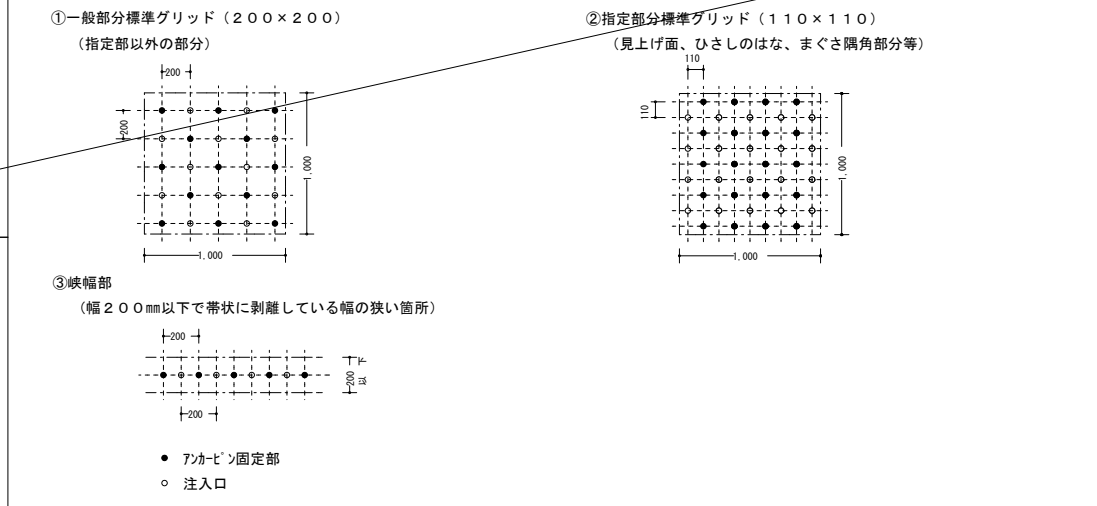
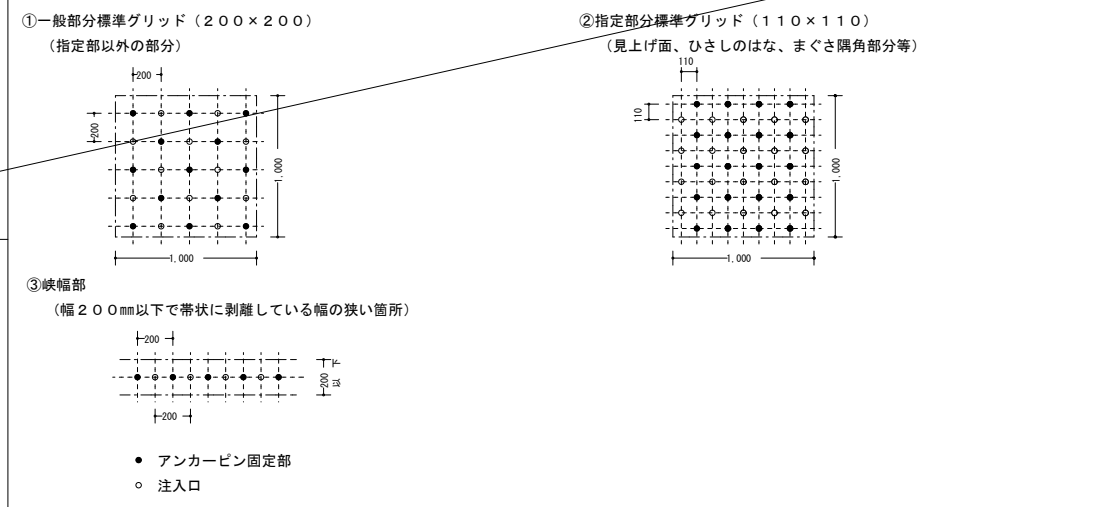
Interior and exterior specifications table for '表示', 'ブラインド', 'カーテン', and '天井点検口'. Details materials like 'アルミブラインド' (Aluminum blinds) and 'カーテンレール' (Curtain rods), including dimensions and performance standards.

9	床点検口	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製</td> <td>・450×450 ※600×600</td> <td>○一般形 ・密閉形 ○屋内外用 ○屋内用</td> <td>・壁付き</td> </tr> <tr> <td colspan="4">密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)</td> </tr> <tr> <th>部材名</th> <th>材質</th> <th>屋内外用</th> <th>屋内用</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">受枠材 蓋枠材</td> <td>アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材</td> <td>JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度</td> <td>JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">二重蓋の中蓋</td> <td>鋼製</td> <td>JIS G 5501のFC150、FC200</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>塩化ビニル樹脂製等</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目地材</td> <td>黄銅</td> <td>JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ステンレス</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">底板材コーナーステンレス底板補強材</td> <td>ステンレス鋼板</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304</td> <td>JIS G 4305のSUS430</td> </tr> <tr> <td>アルミニウム板</td> <td>JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>鋼材</td> <td>-</td> <td>鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td> </tr> <tr> <td>パッキン材</td> <td colspan="3">塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの</td> </tr> <tr> <td>アンカー材 取手</td> <td colspan="3">鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの 黄銅鋼製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする</td> </tr> <tr> <td>鍵</td> <td colspan="3">黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施設・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする</td> </tr> <tr> <td>蓋の耐荷重性能</td> <td colspan="3">蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。</td> </tr> <tr> <td>受け枠寸法の許容差</td> <td colspan="3">±0.5mm以下</td> </tr> <tr> <td>蓋付寸法の許容差</td> <td colspan="3">±0.5mm以下</td> </tr> <tr> <td>受け枠と蓋枠のクリアランス</td> <td colspan="3">片側2.0mm以内 (試験方法)</td> </tr> <tr> <td>耐荷重試験</td> <td colspan="3">試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。</td> </tr> </table>	材種	寸法 (mm)	形式	備考	○アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600	○一般形 ・密閉形 ○屋内外用 ○屋内用	・壁付き	密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)				部材名	材質	屋内外用	屋内用	受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15		ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度	二重蓋の中蓋	鋼製	JIS G 5501のFC150、FC200		その他	塩化ビニル樹脂製等		目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604		ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304		底板材コーナーステンレス底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	-	鋼材	-	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	パッキン材	塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの			アンカー材 取手	鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの 黄銅鋼製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする			鍵	黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施設・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする			蓋の耐荷重性能	蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。			受け枠寸法の許容差	±0.5mm以下			蓋付寸法の許容差	±0.5mm以下			受け枠と蓋枠のクリアランス	片側2.0mm以内 (試験方法)			耐荷重試験	試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。		
		材種	寸法 (mm)	形式	備考																																																																												
		○アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600	○一般形 ・密閉形 ○屋内外用 ○屋内用	・壁付き																																																																												
		密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)																																																																															
		部材名	材質	屋内外用	屋内用																																																																												
		受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15																																																																													
			ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度																																																																												
		二重蓋の中蓋	鋼製	JIS G 5501のFC150、FC200																																																																													
			その他	塩化ビニル樹脂製等																																																																													
		目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604																																																																													
ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304																																																																																
底板材コーナーステンレス底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430																																																																														
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	-																																																																														
	鋼材	-	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																																																																														
パッキン材	塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの																																																																																
アンカー材 取手	鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの 黄銅鋼製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする																																																																																
鍵	黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施設・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする																																																																																
蓋の耐荷重性能	蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。																																																																																
受け枠寸法の許容差	±0.5mm以下																																																																																
蓋付寸法の許容差	±0.5mm以下																																																																																
受け枠と蓋枠のクリアランス	片側2.0mm以内 (試験方法)																																																																																
耐荷重試験	試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。																																																																																
10	手すり	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径 (mm)</th> <th>取付箇所</th> </tr> <tr> <td>・集成材</td> <td>・クリアラッカー</td> <td>・35・45</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ステンレスパイプ</td> <td>・HL程度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼製パイプ</td> <td>・SOP</td> <td>・EP-G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル製ハンドル</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	・集成材	・クリアラッカー	・35・45		・ステンレスパイプ	・HL程度			・鋼製パイプ	・SOP	・EP-G		・ビニル製ハンドル																																																														
		材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所																																																																												
・集成材	・クリアラッカー	・35・45																																																																															
・ステンレスパイプ	・HL程度																																																																																
・鋼製パイプ	・SOP	・EP-G																																																																															
・ビニル製ハンドル																																																																																	
11	天井見切り縁等	壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質 ※ アルミニウム既製品 ・ ビニル既製品																																																																															
12	視覚障害者用床 タイル (視覚障害者誘導 用ブロック)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td>・塩化ビニル製</td> <td>※300×300</td> <td>・7.0</td> </tr> <tr> <td>・セラミックタイル</td> <td>※300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋外</td> <td>・レジンコンクリート製</td> <td>※300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>・セラミックタイル</td> <td>※300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・レジンコンクリート製</td> <td>※300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	屋内	・塩化ビニル製	※300×300	・7.0	・セラミックタイル	※300×300	・	屋外	・レジンコンクリート製	※300×300	・	・コンクリート製				・セラミックタイル	※300×300	・	・レジンコンクリート製	※300×300	・		・コンクリート製																																																				
		施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)																																																																												
屋内	・塩化ビニル製	※300×300	・7.0																																																																														
	・セラミックタイル	※300×300	・																																																																														
屋外	・レジンコンクリート製	※300×300	・																																																																														
	・コンクリート製																																																																																
	・セラミックタイル	※300×300	・																																																																														
	・レジンコンクリート製	※300×300	・																																																																														
	・コンクリート製																																																																																
13	鉄筋	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)																																																																															
		<table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び名</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※SD295A</td> <td>※D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>※D19以上</td> <td></td> </tr> </table>	種類の記号	呼び名	備考	※SD295A	※D16以下		※SD345	※D19以上																																																																							
種類の記号	呼び名	備考																																																																															
※SD295A	※D16以下																																																																																
※SD345	※D19以上																																																																																
14	溶接金網	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)																																																																															
		<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>網目寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※溶接金網</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考	※溶接金網			・鉄筋格子																																																																								
種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考																																																																															
※溶接金網																																																																																	
・鉄筋格子																																																																																	
15	鉄筋の継手及び定着	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)																																																																															
		<p>鉄筋の継手の方法等 ※重ね継ぎ手</p> <p>鉄筋の重ね継ぎ手の長さ ※40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする</p> <p>鉄筋の定着長さ ※柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による</p>																																																																															

16	コンクリートの気乾 単位容積質量による 種類及び強度等	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4)						
		<table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (Fc)</th> <th>スランブ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※2.4</td> <td>※標準仕様書表6.2.2による</td> <td>※コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)</td> </tr> </table>	設計基準強度 (Fc)	スランブ (cm)	適用箇所	※2.4	※標準仕様書表6.2.2による	※コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)
設計基準強度 (Fc)	スランブ (cm)	適用箇所						
※2.4	※標準仕様書表6.2.2による	※コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)						
17	セメント	種類 (6.3.1)						
		※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種						
18	型枠	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)						
		せき板の材料 ※合板 厚さ(※12mm) ・メッシュ型枠 ・断熱材を兼用した型枠 厚さ2.5mm以下かつ熱抵抗値1m ² h ² ℃/kCa1以上						
19	無筋コンクリート	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)						
		<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>設計基準強度 (Fc)</th> <th>スランブ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>※普通コンクリート</td> <td>※18</td> <td>※15</td> <td>※標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による</td> </tr> </table>	種類	設計基準強度 (Fc)	スランブ (mm)	施工箇所	※普通コンクリート	※18
種類	設計基準強度 (Fc)	スランブ (mm)	施工箇所					
※普通コンクリート	※18	※15	※標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による					
20	床コンクリート 直均し仕上げ	種類 (8.1.4)(表8.1.5)						
		仕上げの平坦さは、図示以外は下記による 改修標準仕様書表8.1.5に よる平坦さの種類別						
21	あと施工アンカー	種類 (14.1.3)						
		6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による あと施工アンカーの確認試験 ※行う 確認強度() ・行わない						
22	トイレブース	種類 (20.2.5)						
		<table border="1"> <tr> <th>表面材の材料</th> <th>脚部</th> <th>ドアエッジ</th> </tr> <tr> <td>※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>※幅木タイプ</td> <td>※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材</td> </tr> </table>	表面材の材料	脚部	ドアエッジ	※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ	※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材
表面材の材料	脚部	ドアエッジ						
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ	※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材						
(品質・性能)								
(1) パネル								
項目	品質・性能							
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。							
裏材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。							
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。							
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき							
エッジ材	処理を施した材料とする。							
小口	防水処理を施す。							
(2) 構造金物								
項目	品質・性能							
脚部	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、 (脚部、幅木) SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。							
(3) 付属金物								
項目	品質・性能							
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。							
ラッチセット								
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。							
(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。								
(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひびき性・開閉耐久性								
項目	品質・性能							
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引ひき性						
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧 (B法)」の規定を満足していること。	-						
塩化ビニル樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板バーティカルボードのいずれかの品質に適合していること。							
ポリエステル樹脂系化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐引ひき性試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。						
ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。							
ポリエステル樹脂系化粧板バーティカルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。							
(試験方法)								
(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部: ドア用金物」に規定する試験による。								
(2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。								
パネル材料のホルムアルデヒド放数量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上								

名称	A 表面劣化部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理																															
記号・仕様	A-1 打放し面表面劣化部処理 [サンダー工法]		A-2 モルタル面表面劣化部処理 [サンダー工法]		B-1 打放し面樹脂注入工法 [標仕4.3.4] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-2 打放し面Uカットシール材充てん工法 [標仕4.3.5(1)] ひび割れ幅 1.0mm以上		B-3 打放し面Uカットシール材充てん工法 [標仕4.3.5(1)] ひび割れ幅 0.2~1.0mm																															
改修前																																								
改修後																																								
工程	<p>①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面・部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>参考数量: 842m²</p>		<p>①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面・部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>参考数量: 57.9m²</p>		<p>①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、①、④の工程はA-1工法に含む。</p> <p>参考数量: ひび割れ幅 0.2~0.5mm 364m () ひび割れ幅 0.5~1.0mm 34.4m () ()内は挙動ひび割れ数量を示す</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し (ポリマーセメントモルタル) ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、②⑤の工程はA-1工法に含む。</p> <p>参考数量: 1.6m</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、②④の工程はA-1工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>																															
名称	B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理																															
記号・仕様	B-4 モルタル面樹脂注入工法 [共仕4.4.5] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-5 モルタル面樹脂注入工法 [標仕4.4.5] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-6 モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅 1.0mm以上		B-7 モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅 0.2~1.0mm		C-1 打放し面錆鉄筋部処理																															
改修前																																								
改修後																																								
工程	<p>①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、①、④の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量: ひび割れ幅 0.2~0.5mm () ひび割れ幅 0.5~1.0mm () ()内は挙動ひび割れ数量を示す</p>		<p>①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、⑥の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し (ポリマーセメントモルタル) ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、②⑤の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、②④の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>		<p>①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、③⑥の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量: 0.6m</p>																															
名称	C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理																															
記号・仕様	C-2 モルタル面錆鉄筋部処理		D-1 モルタル面はつり		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.10] D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.5.9]		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.10] D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.5.9]		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.10] D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.5.9]																															
改修前																																								
改修後																																								
工程	<p>①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、④⑦の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>		<p>①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、③⑤の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量:</p>		<p>①穿孔</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>②孔内エアークリーニング</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>③エポキシ樹脂注入</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>④ステンレスピン挿入</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table>		一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	<p>⑤穿孔跡埋戻し [バテ状エポキシ樹脂]</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm²) ⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量: ①一般部分: ②指定部分: ③狭幅部:</p>		一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	<p>①一般部分標準グリッド (250×250) ③狭幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所)</p> <p>②指定部分標準グリッド (200×200) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等)</p> <p>● アンカーピン固定部</p>	
一般部	16	ヶ所																																						
指定部	25	ヶ所																																						
一般部	16	ヶ所																																						
指定部	25	ヶ所																																						
一般部	16	ヶ所																																						
指定部	25	ヶ所																																						
一般部	16	ヶ所																																						
指定部	25	ヶ所																																						
一般部	16	ヶ所																																						
指定部	25	ヶ所																																						

名称	D 浮き部処理																																																			
記号・仕様	D-3 モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 11] D-3' タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 5. 10]																																																			
改修前																																																				
改修後																																																				
工程	<table border="0"> <tr> <td>①ピン固定部穿孔</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑥注入口穿孔</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td>⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑦孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③エポキシ樹脂注入</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑧エポキシ樹脂注入</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ステンレスピン挿入</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑩サンダーケレン</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：</p>		①ピン固定部穿孔	一般部 13ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 12ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			②孔内エアークリーニング	一般部 13ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			③エポキシ樹脂注入	一般部 13ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			④ステンレスピン挿入	一般部 13ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 13ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所		
①ピン固定部穿孔	一般部 13ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 12ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)																																																
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
②孔内エアークリーニング	一般部 13ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
③エポキシ樹脂注入	一般部 13ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
④ステンレスピン挿入	一般部 13ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 13ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
名称	D 浮き部処理																																																			
記号・仕様	D-4 モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 4. 12] D-4' タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 5. 11]																																																			
改修前																																																				
改修後																																																				
工程	<table border="0"> <tr> <td>①ピン固定部穿孔</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑥注入口穿孔</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td>⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑦孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ポリマーセメントスラリー注入</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑧ポリマーセメントスラリー注入</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ステンレスピン挿入</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑨穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]</td> <td>一般部 13ヶ所</td> <td>⑩サンダーケレン</td> <td>一般部 12ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 20ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：</p>		①ピン固定部穿孔	一般部 13ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 12ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			②孔内エアークリーニング	一般部 13ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			③ポリマーセメントスラリー注入	一般部 13ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			④ステンレスピン挿入	一般部 13ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所			⑤穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 13ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 12ヶ所		指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所		
①ピン固定部穿孔	一般部 13ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 12ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)																																																
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
②孔内エアークリーニング	一般部 13ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
③ポリマーセメントスラリー注入	一般部 13ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
④ステンレスピン挿入	一般部 13ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
⑤穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 13ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 12ヶ所																																																	
指定部 20ヶ所		指定部 20ヶ所																																																		
名称	D 浮き部処理																																																			
記号・仕様	D-5 モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 13] D-5' タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 5. 12]																																																			
改修前																																																				
改修後																																																				
工程	<table border="0"> <tr> <td>①穿孔</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]</td> <td>一般部 9ヶ所</td> </tr> <tr> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑥サンダーケレン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ステンレスピン (注入口付) 挿入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④エポキシ樹脂注入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：</p>		①穿孔	一般部 9ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 9ヶ所	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所		②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑥サンダーケレン		指定部 16ヶ所		⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)		③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)		指定部 16ヶ所				④エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所			指定部 16ヶ所																					
①穿孔	一般部 9ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 9ヶ所																																																	
指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																		
②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑥サンダーケレン																																																		
指定部 16ヶ所		⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)																																																		
③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)																																																		
指定部 16ヶ所																																																				
④エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所																																																			
指定部 16ヶ所																																																				

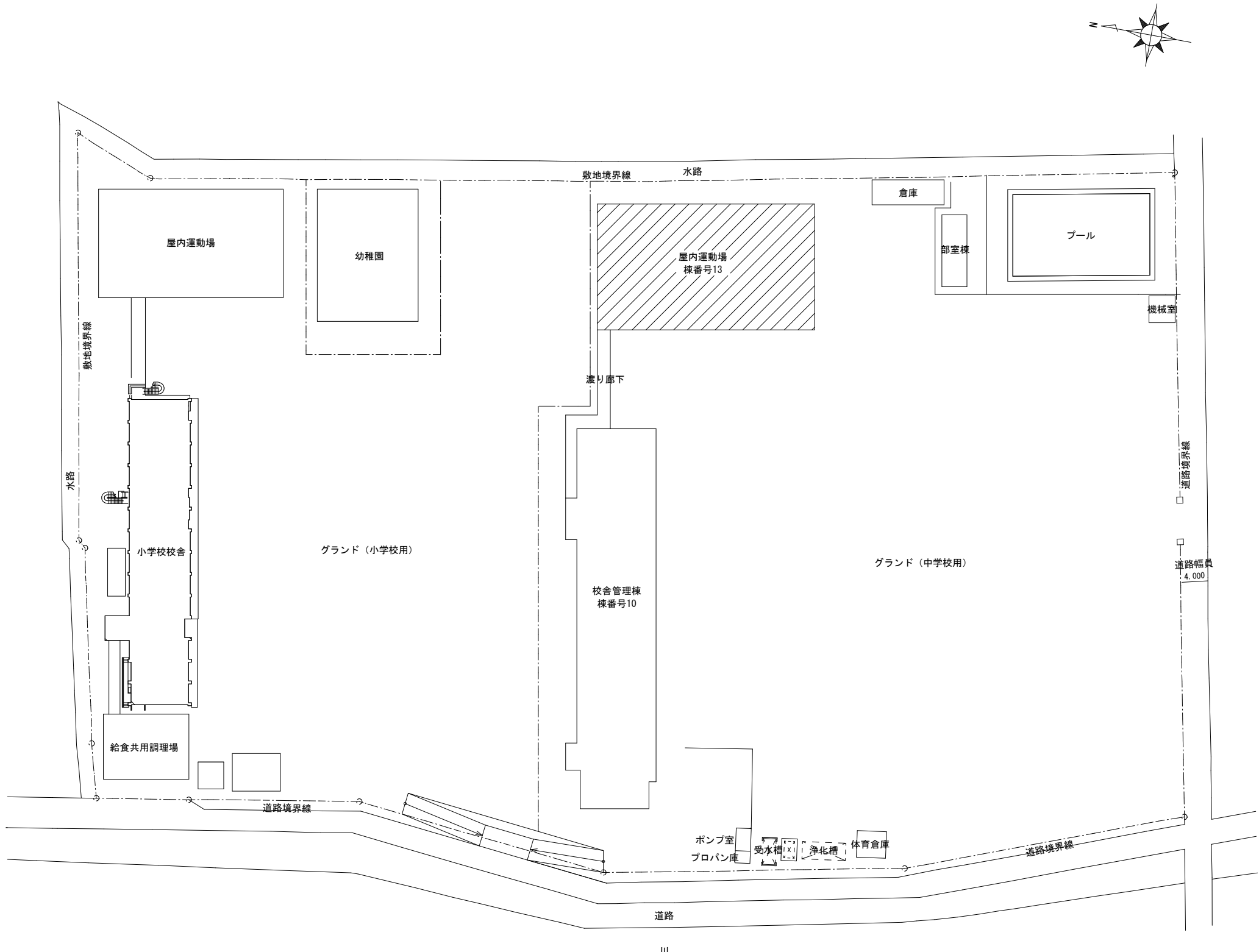


名称 D 浮き部処理		記号・仕様 D-6' モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.14] D-6' タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.5.13]																																																													
改修前	改修後																																																														
工程		<table border="0"> <tr> <td>①ピン固定部穿孔</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑩サンダーケレン</td> <td>一般部 9ヶ所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td>⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td>指定部 16ヶ所</td> </tr> <tr> <td>②孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑥注入口穿孔</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> <td>指定部 16ヶ所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ステンレスピン (注入口付) 挿入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑦孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td colspan="2"> ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部： </td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④エポキシ樹脂注入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑧エポキシ樹脂注入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		①ピン固定部穿孔	一般部 9ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 9ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 9ヶ所		指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所	⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	指定部 16ヶ所	②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 9ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所			③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：			指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所			④エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所				指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所														
①ピン固定部穿孔	一般部 9ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 9ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 9ヶ所																																																										
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所	⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	指定部 16ヶ所																																																										
②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 9ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	指定部 16ヶ所																																																										
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：																																																											
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
④エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 9ヶ所																																																												
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
名称 D 浮き部処理		記号・仕様 D-7' モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.4.15] D-7' タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.5.14] ※標準グリッド等は、D-6、D-6'と同じ																																																													
改修前	改修後																																																														
工程		<table border="0"> <tr> <td>①ピン固定部穿孔</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑥注入口穿孔</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> <td>一般部 9ヶ所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> </tr> <tr> <td>②孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑦孔内エアークリーニング</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td colspan="2"> ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部： </td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ステンレスピン (注入口付) 挿入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑧ポリマーセメントスラリー注入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ポリマーセメントスラリー注入</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑨穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td>⑩サンダーケレン</td> <td>一般部 9ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td>⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td>指定部 16ヶ所</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		①ピン固定部穿孔	一般部 9ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 9ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	一般部 9ヶ所		指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所	②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：			指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所			③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 9ヶ所				指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所			④ポリマーセメントスラリー注入	一般部 9ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]	一般部 9ヶ所				指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所			⑤穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]	一般部 9ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 9ヶ所				指定部 16ヶ所	⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	指定部 16ヶ所		
①ピン固定部穿孔	一般部 9ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 9ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	一般部 9ヶ所																																																										
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																										
②孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 9ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：																																																											
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 9ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 9ヶ所																																																												
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
④ポリマーセメントスラリー注入	一般部 9ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]	一般部 9ヶ所																																																												
	指定部 16ヶ所		指定部 16ヶ所																																																												
⑤穿孔跡埋戻し [※'リマセメントパテ]	一般部 9ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 9ヶ所																																																												
	指定部 16ヶ所	⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	指定部 16ヶ所																																																												
名称 E 欠損部処理		F 外壁複合改修工法																																																													
記号・仕様 E-1 打放し面充填工法 [標仕4.3.7] E-2 打放し面欠損部処理 [標仕4.3.3] E-3 モルタル面欠損部処理 [標仕4.4.3]		F 外壁複合改修工法 *印寸法は80程度とする																																																													
改修前	改修後																																																														
工程		<table border="0"> <tr> <td>①欠損部はつり等での整形</td> <td>②高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td>③欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]</td> <td>④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> ※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む 参考数量： </td> </tr> <tr> <td>①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形</td> <td>②錆落とし</td> <td>③高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td>④防錆処理</td> </tr> <tr> <td>⑤欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]</td> <td>⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> <td colspan="2"> ※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法に含む 参考数量： </td> </tr> <tr> <td>①カッター線切り</td> <td>②欠損部はつり等での整形</td> <td>③高圧水洗浄 (150~200kg/cm²)</td> <td>④欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]</td> </tr> <tr> <td>⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)</td> <td colspan="3"> (鉄筋の露出部がある場合はE-2による) ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む 参考数量： </td> </tr> </table>		①欠損部はつり等での整形	②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	③欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]	④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む 参考数量：				①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形	②錆落とし	③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	④防錆処理	⑤欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]	⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法に含む 参考数量：		①カッター線切り	②欠損部はつり等での整形	③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	④欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]	⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	(鉄筋の露出部がある場合はE-2による) ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む 参考数量：																																						
①欠損部はつり等での整形	②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	③欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]	④セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)																																																												
※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む 参考数量：																																																															
①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形	②錆落とし	③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	④防錆処理																																																												
⑤欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]	⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法に含む 参考数量：																																																													
①カッター線切り	②欠損部はつり等での整形	③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	④欠損部はつり部埋戻し [※'リマセメントパテ'・エポキシ樹脂モルタル]																																																												
⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1~2mm程度)	(鉄筋の露出部がある場合はE-2による) ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む 参考数量：																																																														
		下地補修後 ① プライマー下塗り ② ポリマーペースト中塗り ③ 三軸ネット張り ④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ ポリマーペースト中塗り ⑥ アルミ水切り取付け (L-30×15×2.0 ステンレスビス止@450) ⑦ シーリング打設 (MS-2)																																																													
		参考数量	ネット張り m ² 水切 m																																																												



付近見取図

工事概要	
長寿命化改修工事	
【屋内運動場(棟番号13)】	
・防水改修工事	・体育室床改修工事
・外壁改修工事	・体育室壁塗装改修工事





配置図 S=1:600

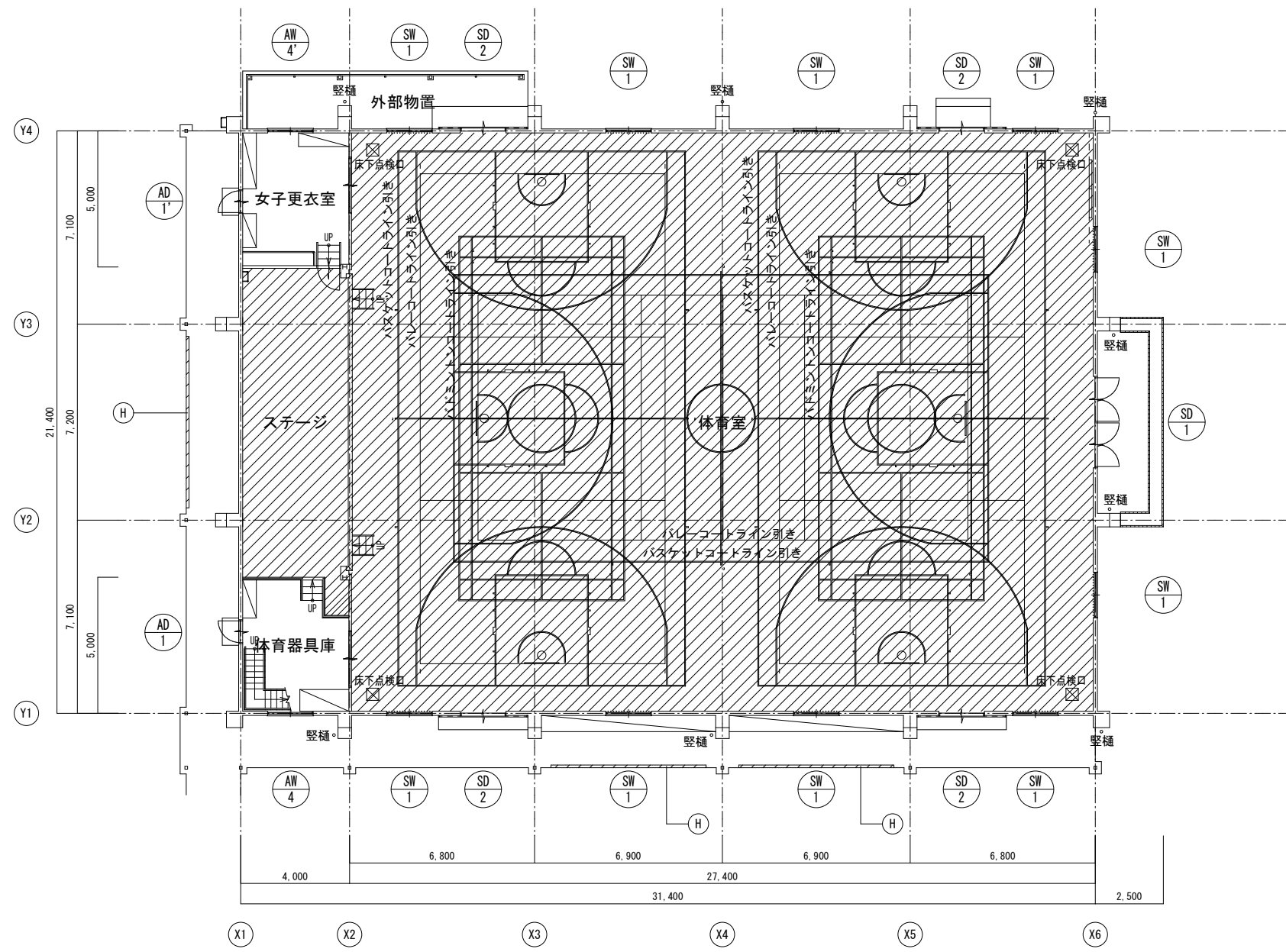
工事対象建物

外部仕上表															
部 位	部 分	改修前仕上	改修工法	改修内容	改修後仕上	備 考	部 位	部 分	改修前仕上	改修工法	改修内容	改修後仕上	備 考		
屋根	一般部	木毛マグネシウム板(t=25)		下地処理のうえ新設	超速硬化ウレタン塗膜防水		外部物置	屋根	木下地	撤去(下地共)	新設(下地共)	ガルバリウム鋼板(t=0.5) 瓦棒葺き			
		アスファルトルーフィング			(密着工法)					カラー鋼板 瓦棒葺き					
		塩ビ鋼板(t=0.4) 瓦棒葺き													
	溝部	オリエンタルメタル(t=0.6)加工			[既存のまま]			縦樋	VPφ65	撤去	新設(摺り金物共)	VPφ65カラー SUS製摺り金物共			
	笠木	塩ビ鋼板(t=0.4)加工		下地処理のうえ新設	DP塗			軒樋	塩ビ製角樋 90×60	撤去	新設(留め金物共)	塩ビ樹脂製角樋 120×90 SUS製留め金物共			
	落し口	φ100 ステンレス防虫網			[既存のまま]			壁	木下地 塩ビ波板張り			[既存のまま]			
樋	縦樋	VPφ100	撤去	新設(摺り金物共)	VPφ100カラー SUS製摺り金物共		床	モルタル塗			[既存のまま]				
軒	見付	防火サイディングボード(t=11)タテ張り	塗装改修	下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	軒裏	塩ビ鋼板(t=0.4)加工 スパンドレル	塗装改修	下地処理のうえ新設	DP塗										
外壁	根回り	防水モルタル塗	A-2	劣化部処理、下地調整のうえ新設	水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料塗										
	壁	コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	妻側上部壁	プラスチックボード(t=9)下張り 防火サイディングボード(t=11)タテ張り	塗装改修	下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	柱型	コンクリート打放し補修 AE塗	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	梁型見付	コンクリート打放し補修 AE塗	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	梁型天端	防水モルタル塗	A-2	劣化部処理、下地調整のうえ新設	塗膜防水(X-2工法)										
玄関庇	屋根	ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.5) H=86		下地処理のうえ新設	超速硬化ウレタン塗膜防水 (密着工法)										
	笠木	塩ビ鋼板(t=0.4)加工	塗装改修	下地処理のうえ新設	DP塗										
	見付	コンクリート打放し補修 AE塗	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	庇裏	塩ビ鋼板(t=0.4)加工 スパンドレル	塗装改修	下地処理のうえ新設	DP塗										
窓上庇	天端	防水モルタル塗	A-2	劣化部処理、下地調整のうえ新設	塗膜防水(X-2工法)										
	見付	コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	庇裏	コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	外装薄塗材E吹付										
渡り廊下	屋根	ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.6) H=86	撤去	新設	ガルバリウム鋼板(t=0.6) H=88 折板葺き										
	縦樋	VPφ65	撤去	新設(摺り金物共)	VPφ65カラー SUS製摺り金物共										
	軒樋	塩ビ製角樋 90×60	撤去	新設(留め金物共)	塩ビ樹脂製角樋 120×90 SUS製留め金物共										
	立上り壁	コンクリート打放し補修 VP塗	A-1	劣化部処理、下地調整のうえ新設	防水形複層塗材E吹付										
	床	モルタル塗			[既存のまま]										
	鉄骨			劣化部処理、下地調整のうえ新設	DP塗										
							略号凡例		特記事項						
							塗 装		そ の 他						
							SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	SUS	ステンレス					
							EP-G	つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り	≡	シーリング					
							EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	RD	ルーフドレン					
							DP	耐候性塗料塗り	FD	フロアドレン					
							AE	アクリル樹脂エナメル塗り	G.P	配管用炭素鋼管					
							VP	塩化ビニル樹脂エナメル塗り							

内部仕上表							
階	室名	床		巾木		備考	
		下地	仕上	下地	仕上		
1	体育室	改修前	C	鋼製床組 [下地既存のまま]	W	木製巾木(H=100)0S塗 [撤去]	床下点検口(600×600)4箇所 [撤去]
				コンパネ(t=12)のうえ複合ブナフローリング(t=15) ウレタン樹脂塗 [捨板・仕上撤去]			支柱金物6箇所 [撤去]
	改修後	C	既存鋼製床組	W	木製巾木(H=100)0S塗 [新設]	床下点検口(600×600)4箇所 [新設]	
			耐水合板(t=12)のうえ複合フローリング(t=15) ウレタン樹脂塗(3回塗、コートライン共) [新設]			支柱金物6箇所 [新設]	



記号	部位：仕上げ材(下地) (改修前)	部位：仕上げ材(下地) (改修後)
A	屋根：塩ビ鋼板(t=0.4) 瓦棒葺き [既存のまま]	屋根：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
B	溝部：オリエンタルメタル(t=0.6)加工 [既存のまま]	溝部： [既存のまま]
C	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工 [既存のまま]	笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
D	玄関庇：ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.5) H=86 [既存のまま]	玄関庇：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
E	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工 [既存のまま]	笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
F	屋根(渡り廊下)：ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.6) H=86 [撤去]	屋根(渡り廊下)：ガルバニウム鋼板(t=0.6) H=88 折板葺き [新設]
G	屋根(外部物置)：木下地 カラー鋼板 瓦棒葺き [木下地共撤去]	屋根(外部物置)：木下地 ガルバニウム鋼板(t=0.5) 瓦棒葺き [木下地共新設]
H	笠木：コンクリート打放し補修 VP塗 [既存のまま]	笠木：防水形複層塗材E吹付 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	落し口：φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]	落し口：φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]
	壁樋：VPφ100 ※渡り廊下はVPφ65 [撤去]	壁樋：VPφ100カラー SUS製掴み金物共 ※渡り廊下はVPφ65 [新設]

-  改修箇所を示す
-  建具周囲シーリング打替え 変成シリコン系(MS-2、10×10)

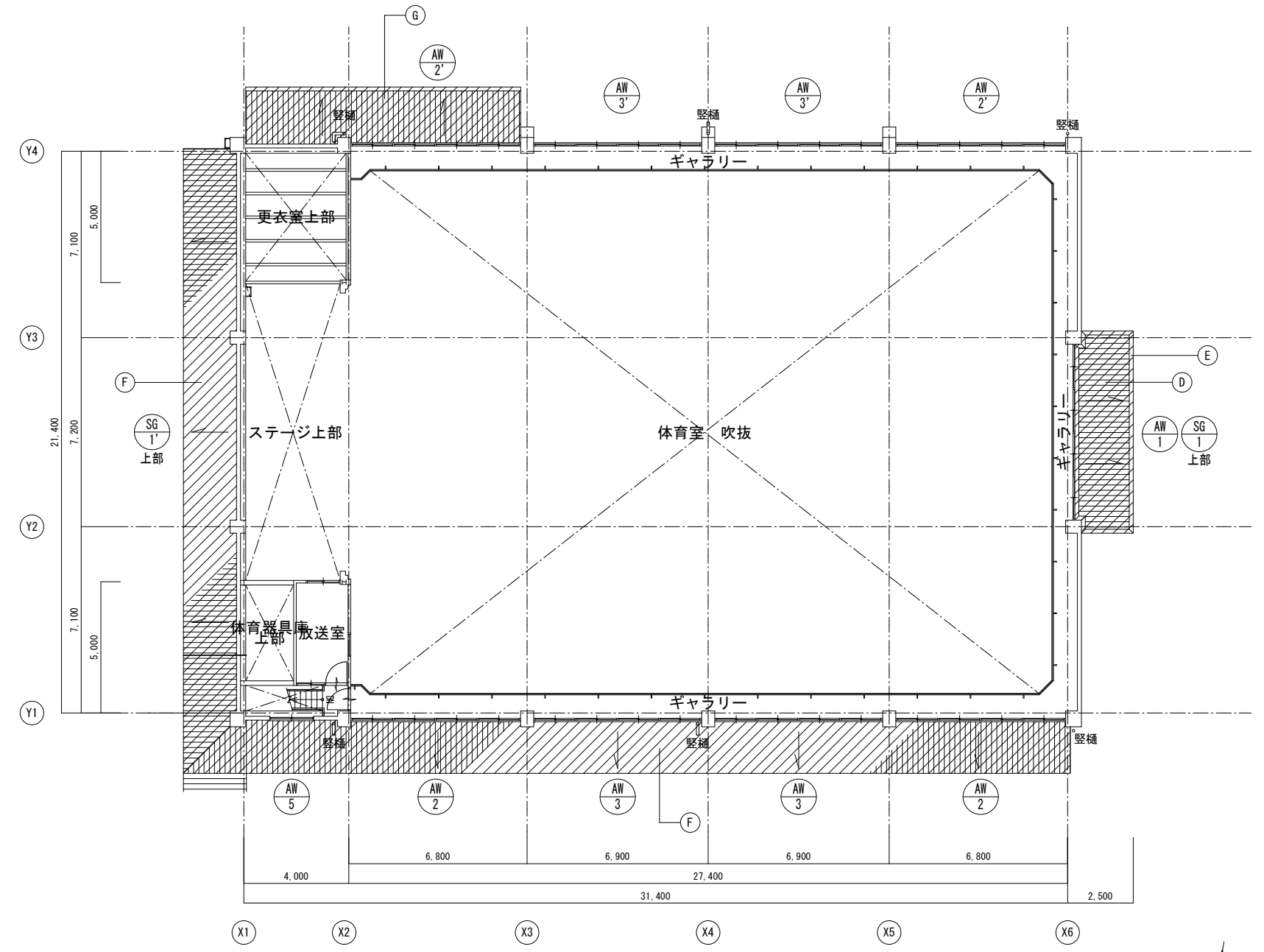


1階平面図(改修前・後) S=1:150

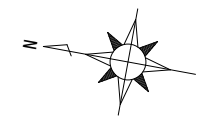
記号	部位：仕上げ材（下地）（改修前）	部位：仕上げ材（下地）（改修後）
A	屋根：塩ビ鋼板(t=0.4) 瓦棒葺き	[既存のまま] 屋根：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
B	溝部：オリエンタルメタル(t=0.6)加工	[既存のまま] 溝部： [既存のまま]
C	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工	笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
D	玄関庇：ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.5) H=86	[既存のまま] 玄関庇：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
E	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工	[既存のまま] 笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
F	屋根(渡り廊下)：ルーフデッキ 塩ビ鋼板(t=0.6) H=86	[撤去] 屋根(渡り廊下)：ガルバリウムカラー鋼板(t=0.6) H=88 折板葺き [新設]
G	屋根(外部物置)：木下地 カラー鋼板 瓦棒葺き	[木下地共撤去] 屋根(外部物置)：木下地 ガルバリウムカラー鋼板(t=0.5) 瓦棒葺き [木下地共新設]
H	笠木：コンクリート打放し補修 VP塗	[既存のまま] 笠木：防水形複層塗材E吹付 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	落し口：φ100 ステンレス防虫網	[既存のまま] 落し口：φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]
	壁樋：VPφ100 ※渡り廊下はVPφ65	[撤去] 壁樋：VPφ100カラー SUS製掴み金物共 ※渡り廊下はVPφ65 [新設]

-  改修箇所を示す
-  建具周囲シーリング打替え 変成シリコン系(MS-2、10×10)

シーリング工事
 ハゼ部 45m
 軒先・壁際 14.4m



2階平面図（改修前・後） S=1:100



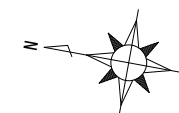
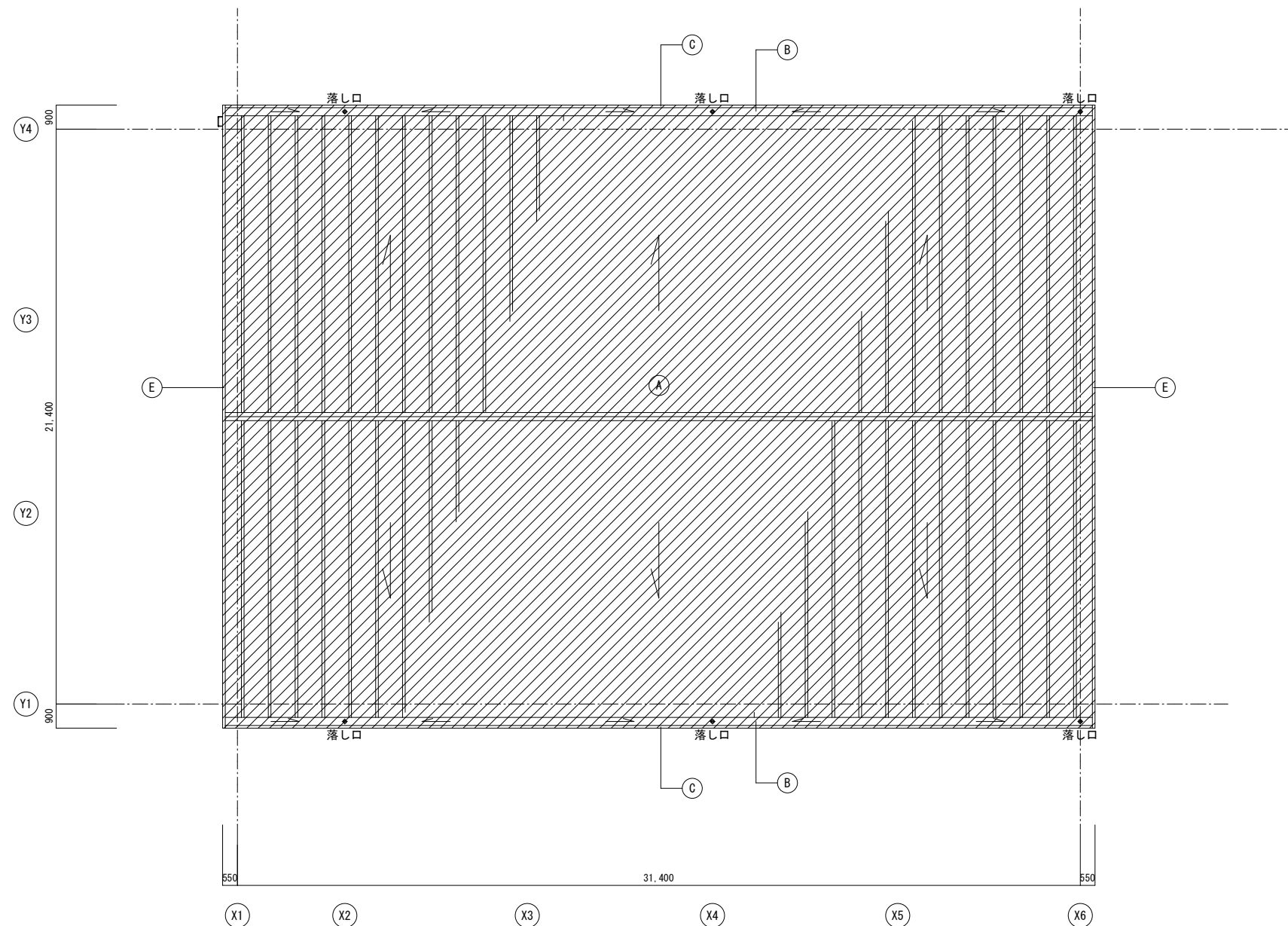
記号	部位：仕上げ材（下地）（改修前）	部位：仕上げ材（下地）（改修後）
A	屋根：塩ビ鋼板(t=0.4) 瓦棒葺き [既存のまま]	屋根：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
B	溝部：オリエントアルメタル(t=0.6)加工 [既存のまま]	溝部： [既存のまま]
C	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工 [既存のまま]	笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
D	玄関庇：ルーフトレッキ 塩ビ鋼板(t=0.5) H=86 [既存のまま]	玄関庇：超硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) [下地処理のうえ新設]
E	笠木：塩ビ鋼板(t=0.4)加工 [既存のまま]	笠木：DP塗 [下地処理のうえ新設]
F	屋根(渡り廊下)：ルーフトレッキ 塩ビ鋼板(t=0.6) H=86 [撤去]	屋根(渡り廊下)：ガルバリウム鋼板(t=0.6) H=88 折板葺き [新設]
G	屋根(外部物置)：木下地 カラー鋼板 瓦棒葺き [木下地共撤去]	屋根(外部物置)：木下地 ガルバリウム鋼板(t=0.5) 瓦棒葺き [木下地共新設]
H	笠木：コンクリート打放し補修 VP塗 [既存のまま]	笠木：防水形複層塗材E吹付 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	落し口：φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]	落し口：φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]
	縦樋：VPφ100 ※渡り廊下はVPφ65 [撤去]	縦樋：VPφ100カラー SUS製掴み金物共 ※渡り廊下はVPφ65 [新設]

改修箇所を示す

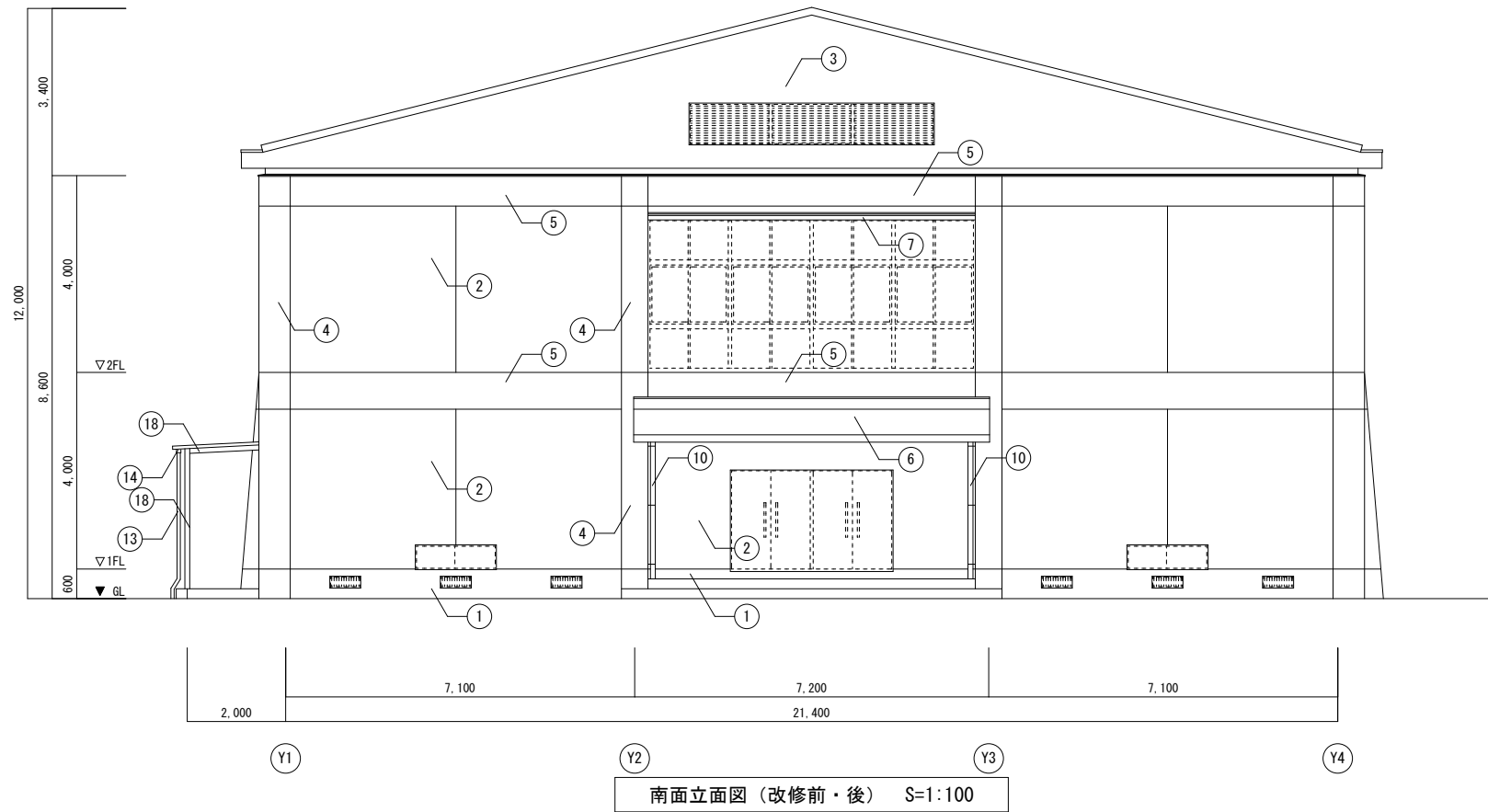
建具周囲シーリング打替え 変成シリコン系(MS-2、10×10)

シーリング工事

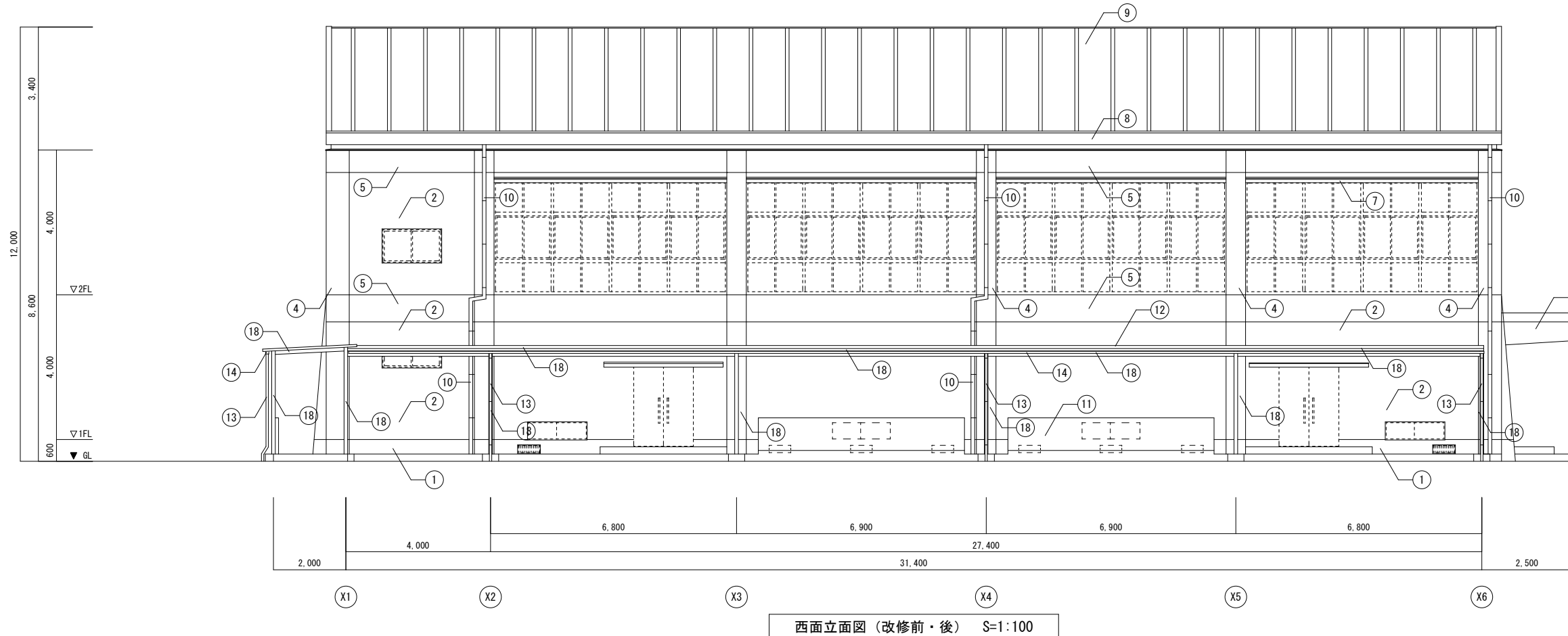
ハゼ部 1606m
棟包み部 65m
軒先部 65m

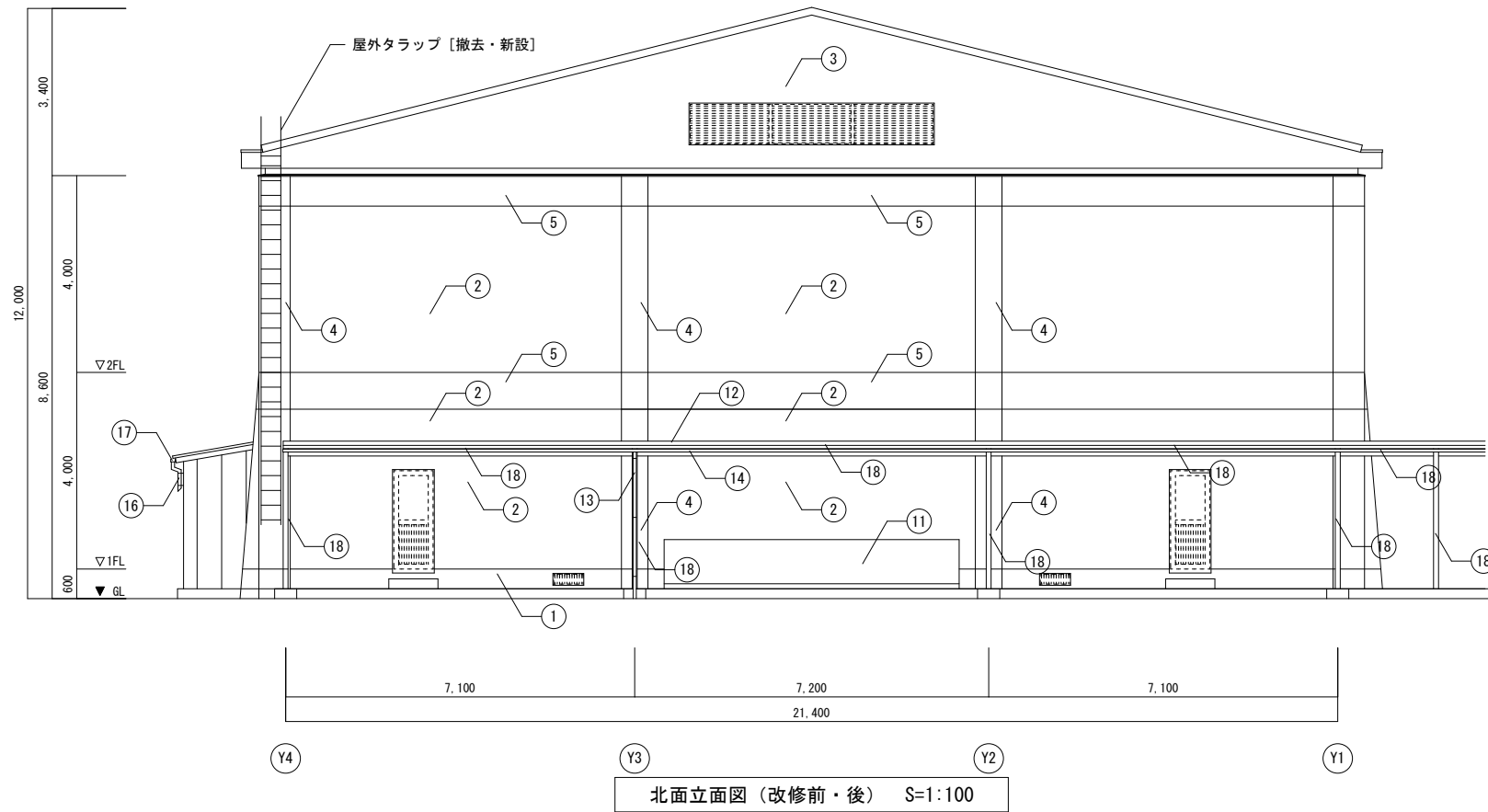


屋根伏図(改修前・後) S=1:150

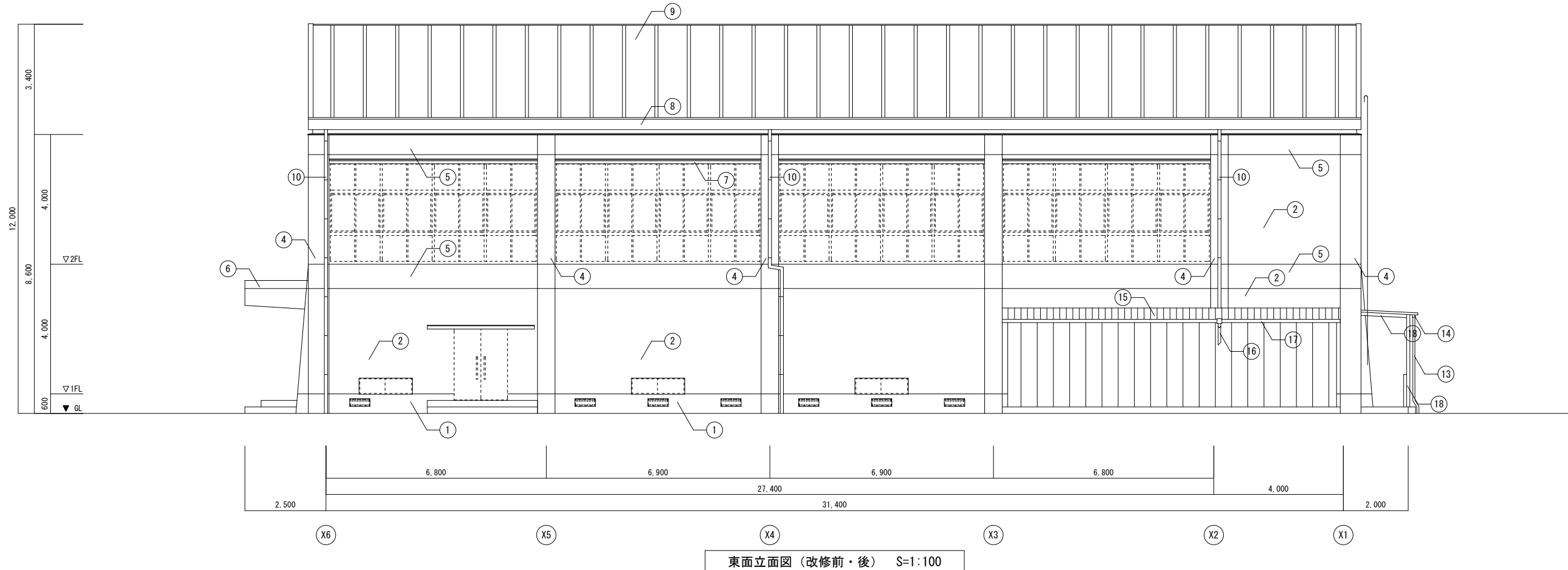


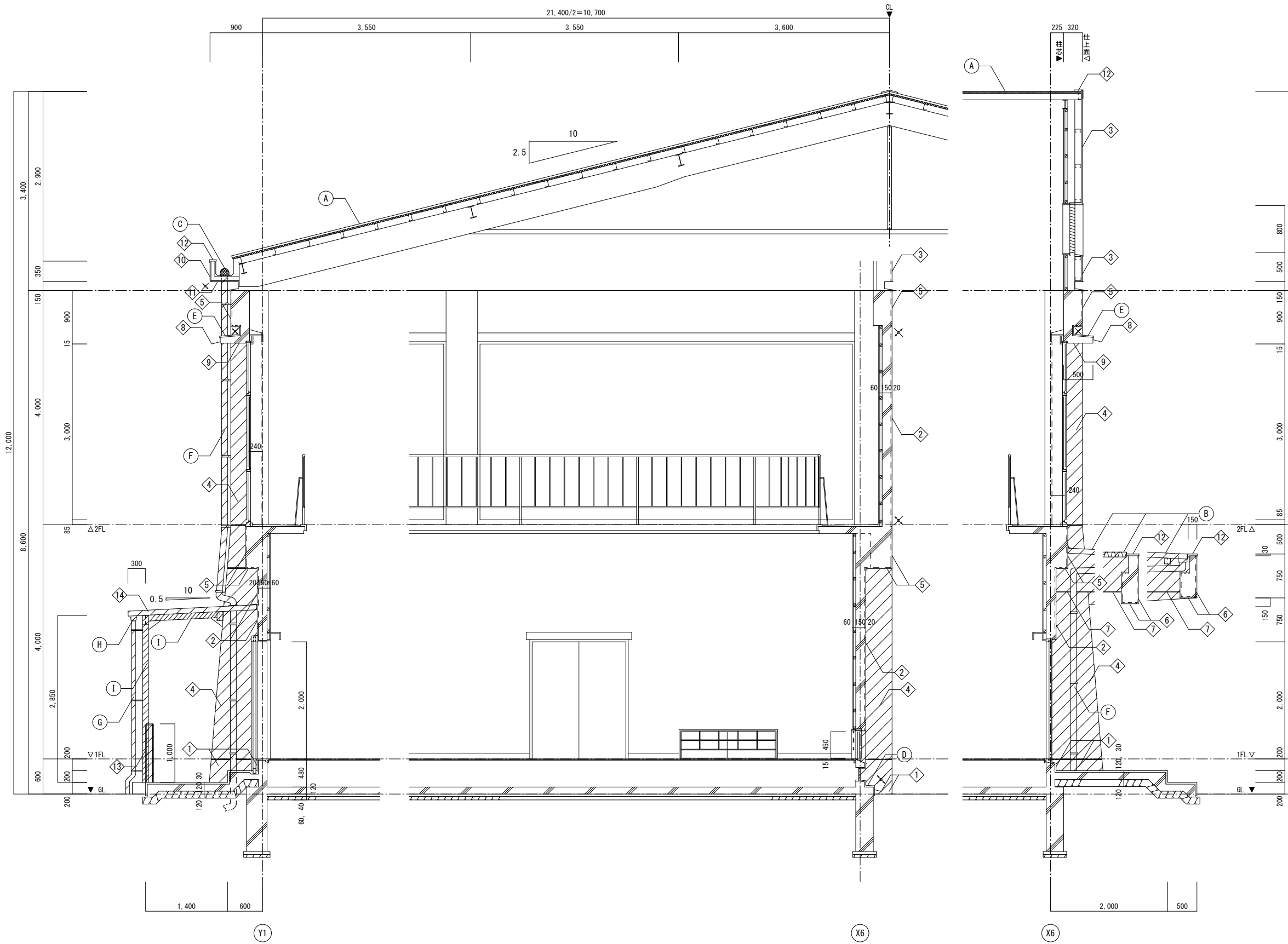
記号	部位：仕上げ材 (下地) (改修前)	部位：仕上げ材 (下地) (改修後)
①	根回り : 防水モルタル塗	根回り : 水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料塗 (M) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
②	壁 : コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付 [吹付材撤去]	壁 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
③	壁 : プラスターボード (t=9) 下張り 防火サイディングボード (t=11) タテ張り	壁 : 防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
④	柱型 : コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	柱型 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑤	梁型 : コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	梁型 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑥	玄関庇 : コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	玄関庇 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑦	窓上庇 : コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付 [吹付材撤去]	窓上庇 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑧	軒 : 防火サイディングボード (t=11) タテ張り [吹付材撤去]	軒 : 防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
⑨	屋根 : 木毛マグネシウム板 (t=25) アスファルトルーフィング 塩ビ鋼板 (t=0.4) 瓦棒葺き	屋根 : 超速硬化ウレタン塗膜防水 (密着工法) [下地調整のうえ新設]
⑩	縦樋 : VPφ100 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋 : VPφ100カラー [新設 (掴み金物共)]
⑪	立上り壁 : コンクリート打放し補修 VP塗 [塗膜撤去]	立上り壁 : 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑫	屋根 : ルーフデッキ 塩ビ鋼板 (t=0.6) H=86 [撤去]	屋根 : ガルバリウム鋼板 (t=0.6) H=88 折板葺き [新設]
⑬	縦樋 : VPφ65 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋 : VPφ65カラー [新設 (掴み金物共)]
⑭	軒樋 : 塩ビ製角樋 90×60 [撤去 (留め金物共)]	軒樋 : 塩ビ樹脂製角樋 120×90 [新設 (留め金物共)]
⑮	屋根 : 木下地 カラー鋼板 瓦棒葺 [撤去 (下地共)]	屋根 : ガルバリウム鋼板 (t=0.5) 瓦棒葺き (W) [新設 (下地共)]
⑯	縦樋 : VPφ65 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋 : VPφ65カラー [新設 (掴み金物共)]
⑰	軒樋 : 塩ビ製角樋 90×60 [撤去 (留め金物共)]	軒樋 : 塩ビ樹脂製角樋 120×90 [新設 (留め金物共)]
⑱	鉄骨 :	鉄骨 : DP塗 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	建具周囲 : 変成シリコーン系 (MS-2、10×10) [撤去]	建具周囲 : 変成シリコーン系 (MS-2、10×10) [新設]
	打継ぎ : ポリウレタン (20×20) [撤去]	打継ぎ : ポリウレタン (20×20) [新設]





記号	部位：仕上げ材 (下地) (改修前)	部位：仕上げ材 (下地) (改修後)
①	根回り：防水モルタル塗	根回り：水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料塗 (M) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
②	壁：コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付 [吹付材撤去]	壁：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
③	壁：プasterボード (t=9) 下張り 防火サイディングボード (t=11) タテ張り	壁：防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
④	柱型：コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	柱型：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑤	梁型：コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	梁型：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑥	玄関庇：コンクリート打放し補修 AE塗 [塗膜撤去]	玄関庇：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑦	窓上庇：コンクリート打放し補修 外装薄塗材E吹付 [吹付材撤去]	窓上庇：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑧	軒：防火サイディングボード (t=11) タテ張り [吹付材撤去]	軒：防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
⑨	屋根：木毛マグネシウム板 (t=25) アスファルトルーフィング 塩ビ鋼板 (t=0.4) 瓦棒葺き	屋根：超速硬化ウレタン塗膜防水 (密着工法) [下地調整のうえ新設]
⑩	縦樋：VPφ100 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋：VPφ100カラー [新設 (掴み金物共)]
⑪	立上り壁：コンクリート打放し補修 VP塗 [塗膜撤去]	立上り壁：防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
⑫	屋根：ルーフェデッキ 塩ビ鋼板 (t=0.6) H=86 [撤去]	屋根：ガルバリウム鋼板 (t=0.6) H=88 折板葺き [新設]
⑬	縦樋：VPφ65 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋：VPφ65カラー [新設 (掴み金物共)]
⑭	軒樋：塩ビ製角樋 90×60 [撤去 (留め金物共)]	軒樋：塩ビ樹脂製角樋 120×90 [新設 (留め金物共)]
⑮	屋根：木下地 カラー鋼板 瓦棒葺 [撤去 (下地共)]	屋根：ガルバリウム鋼板 (t=0.5) 瓦棒葺き (W) [新設 (下地共)]
⑯	縦樋：VPφ65 [撤去 (掴み金物共)]	縦樋：VPφ65カラー [新設 (掴み金物共)]
⑰	軒樋：塩ビ製角樋 90×60 [撤去 (留め金物共)]	軒樋：塩ビ樹脂製角樋 120×90 [新設 (留め金物共)]
⑱	鉄骨	鉄骨：DP塗 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	建具周囲：変成シリコーン系 (MS-2、10×10) [撤去]	建具周囲：変成シリコーン系 (MS-2、10×10) [新設]
	打継ぎ：ポリウレタン (20×20) [撤去]	打継ぎ：ポリウレタン (20×20) [新設]

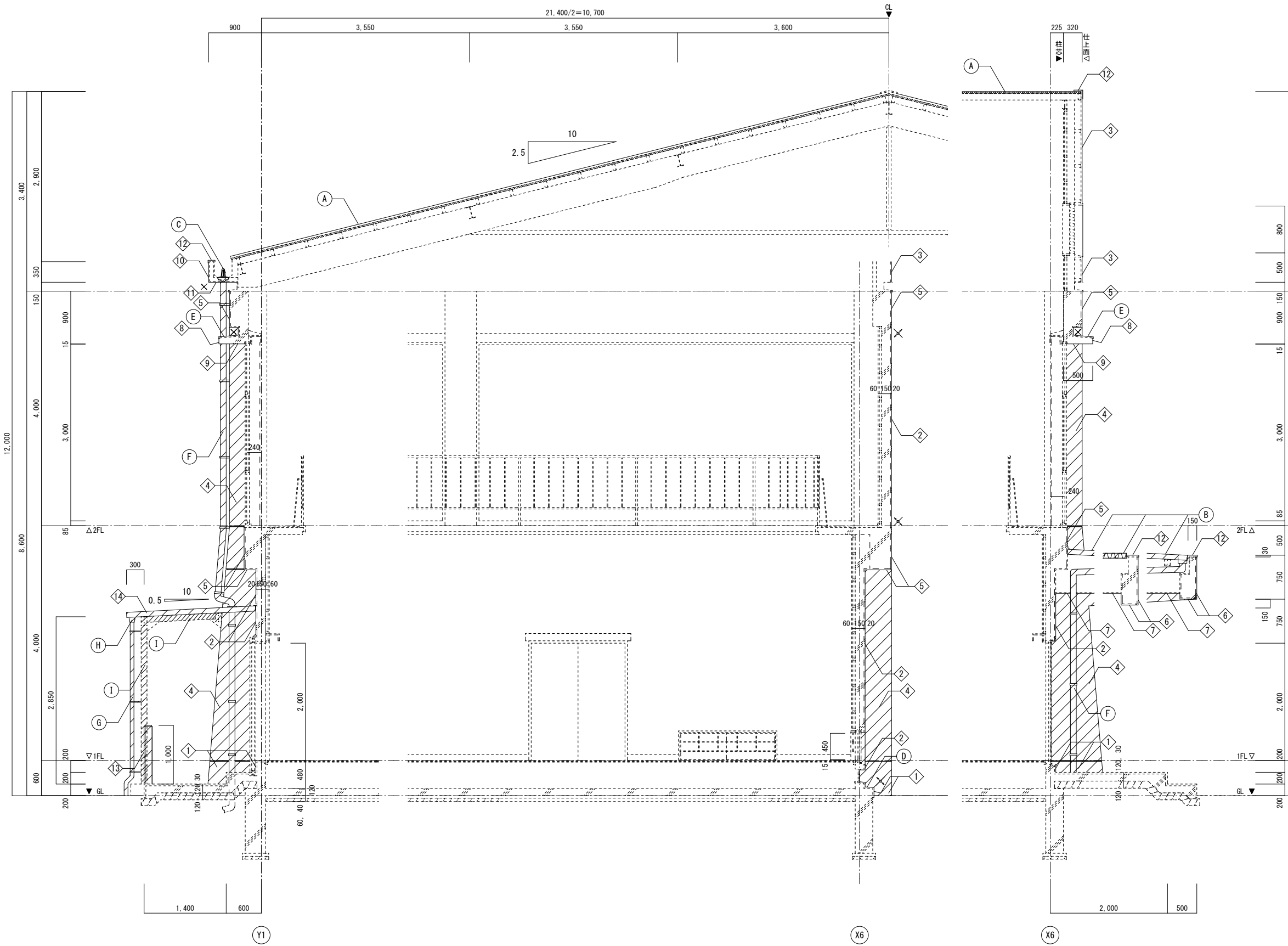




記号	部位：仕上げ材（下地）（改修前）
(X)	防水改修工事
(A)	屋根 : 木毛マグネシウム板 (t=25) アスファルトルーフィング 塩ビ鋼板 (t=0.4) 瓦棒葺き
(B)	屋根 : ルーフデッキ 塩ビ鋼板 (t=0.5) H=86
(C)	落し口 : φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]
(D)	梁型天端 : 防水モルタル塗
(E)	窓上庇 : 防水モルタル塗
(F)	壁柱 : VP φ100 [撤去 (掴み金物共)]
(G)	壁柱 : VP φ65 [撤去 (掴み金物共)]
(H)	軒樋 : 塩ビ製角樋 90×60 [撤去 (留め金物共)]
(I)	鉄骨 :
	建具周囲 : 変成シリコン系 (MS-2、10×10) [撤去]
(X)	外壁改修工事
(1)	根回り : 防水モルタル塗
(2)	壁 : 外装薄塗材E吹付 (C) [吹付材撤去]
(3)	壁 : プラスターボード (t=9) 下張り 防火サイディングボード (t=11) タテ張り
(4)	柱型 : AE塗 (C)
(5)	梁型 : AE塗 (C)
(6)	玄関庇 : AE塗 (C)
(7)	庇裏 : 塩ビ鋼板 (t=0.4) 加工 スパンドレル
(8)	窓上庇 : 外装薄塗材E吹付 (C) [吹付材撤去]
(9)	庇裏 : 外装薄塗材E吹付 (C) [吹付材撤去]
(10)	軒 : 防火サイディングボード (t=11) タテ張り
(11)	軒裏 : 塩ビ鋼板 (t=0.4) 加工 スパンドレル
(12)	笠木 : 塩ビ鋼板 (t=0.4) 加工
(13)	立上り壁 : VP塗 (C)
(14)	屋根 : ルーフデッキ 塩ビ鋼板 (t=0.6) H=86 [撤去]

凡例
 X …仕上げ見切りを示す

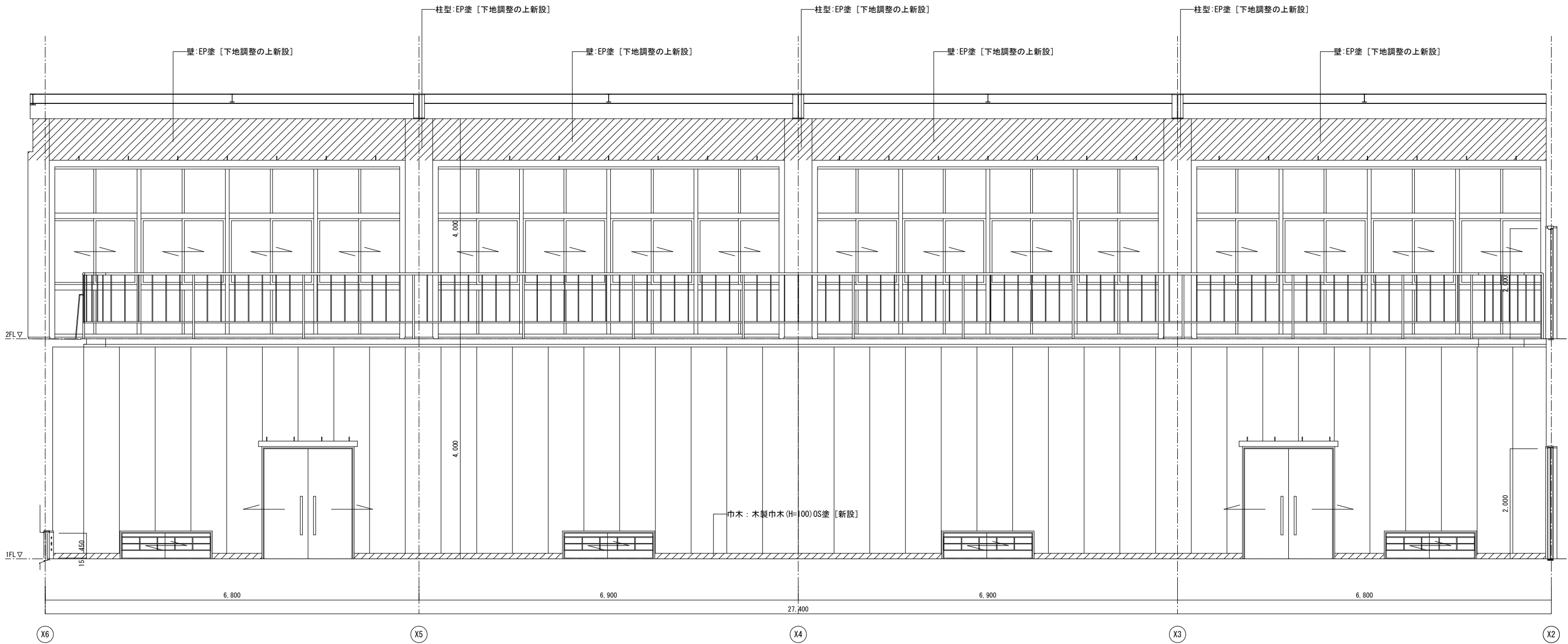
矩計図 (改修前) S=1:50



短計図 (改修後) S=1:50

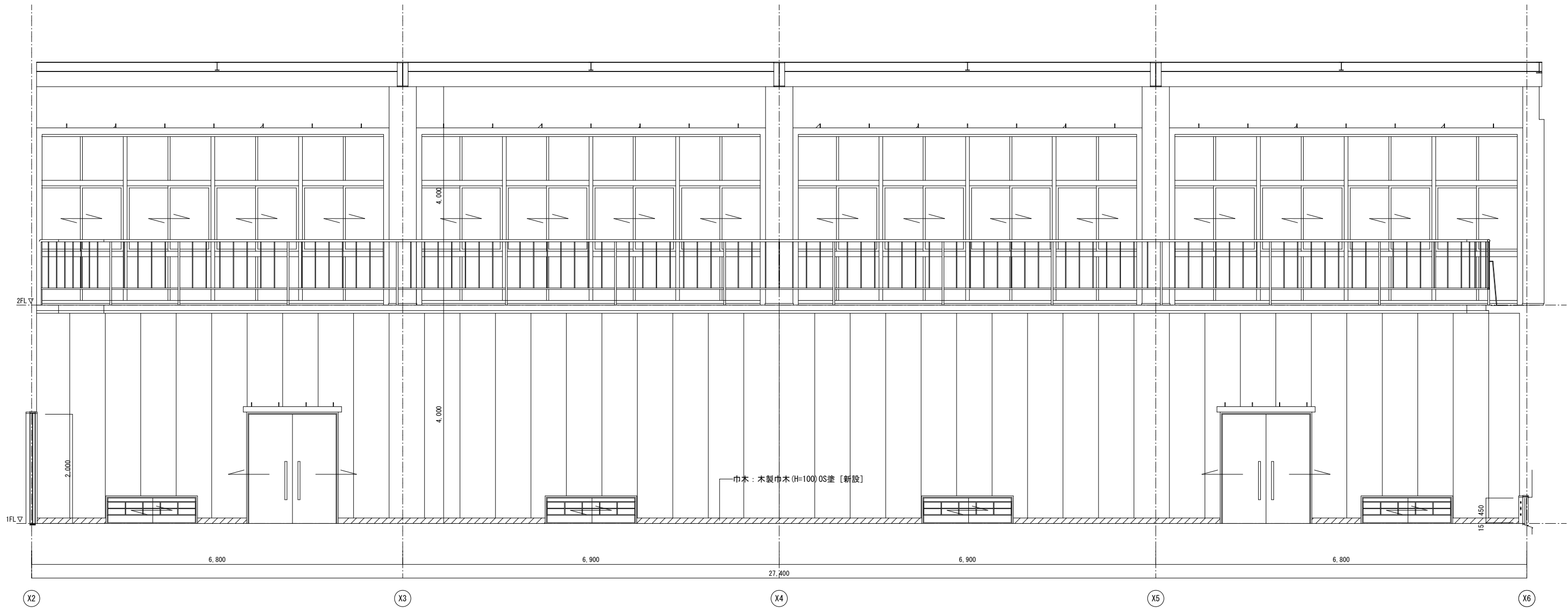
記号	部位: 仕上げ材 (下地) (改修後)
(X)	防水改修工事
(A)	屋根: 超速硬化ウレタン塗膜防水 (密着工法) [下地処理のうえ新設]
(B)	屋根: 超速硬化ウレタン塗膜防水 (密着工法) [下地処理のうえ新設]
(C)	落し口: φ100 ステンレス防虫網 [既存のまま]
(D)	梁型天端: 塗膜防水 (X-2工法) (M) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(E)	窓上庇: 塗膜防水 (X-2工法) (M) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(F)	壁樋: VP φ100カラー [新設 (挿み金物共)]
(G)	壁樋: VP φ65カラー [新設 (挿み金物共)]
(H)	軒樋: 塩ビ樹脂製角樋 120×90 [新設 (留め金物共)]
(I)	鉄骨: DP塗 [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
	建具周囲: 変成シリコーン系 (MS-2、10×10) [新設]
(◇)	外壁改修工事
(◇)	根回り: 水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料塗 (M) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(2)	壁: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(3)	壁: 防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
(4)	柱型: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(5)	梁型: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(6)	玄関庇: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(7)	庇裏: DP塗 [下地処理のうえ新設]
(8)	窓上庇: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(9)	庇裏: 外装薄塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(10)	軒: 防水形複層塗材E吹付 [下地調整のうえ新設]
(11)	軒裏: DP塗 [下地処理のうえ新設]
(12)	笠木: DP塗 [下地処理のうえ新設]
(13)	立上り壁: 防水形複層塗材E吹付 (C) [劣化部処理、下地調整のうえ新設]
(14)	屋根: ガルバリウム鋼板 (t=0.6) H=88 折板葺き [新設]

凡例
 X ...仕上げ見切りを示す



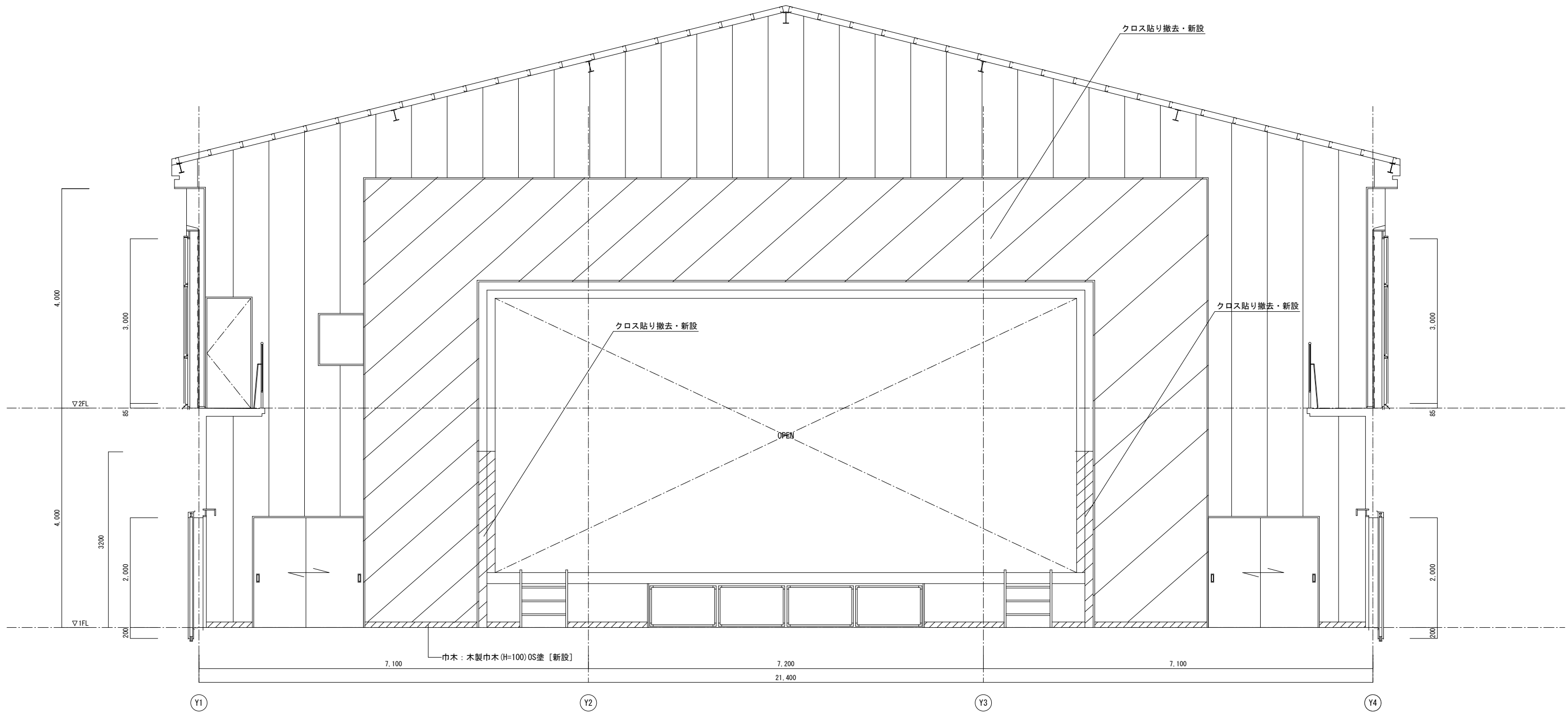
西面展開図 S=1:50





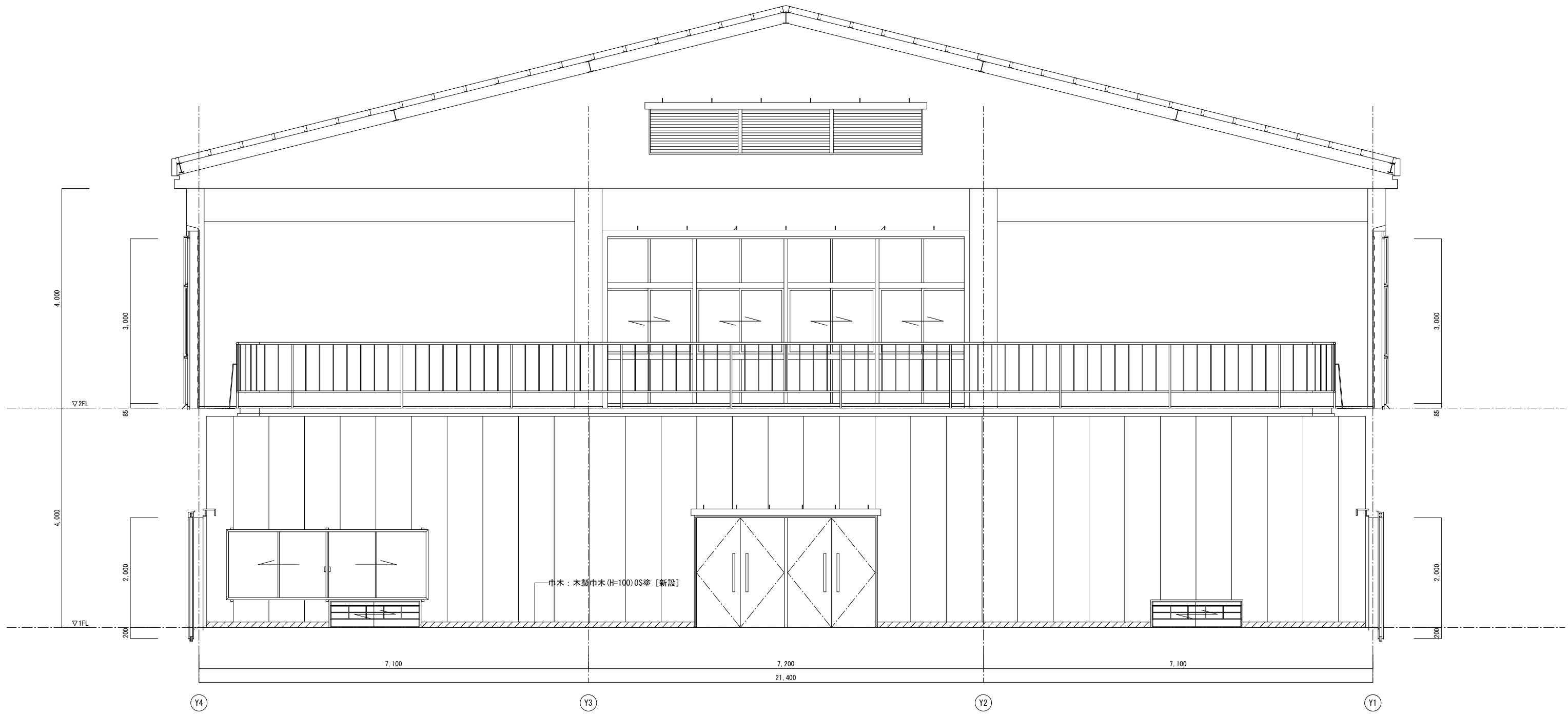
東面展開図 S=1:50





北面展開図 S=1:50





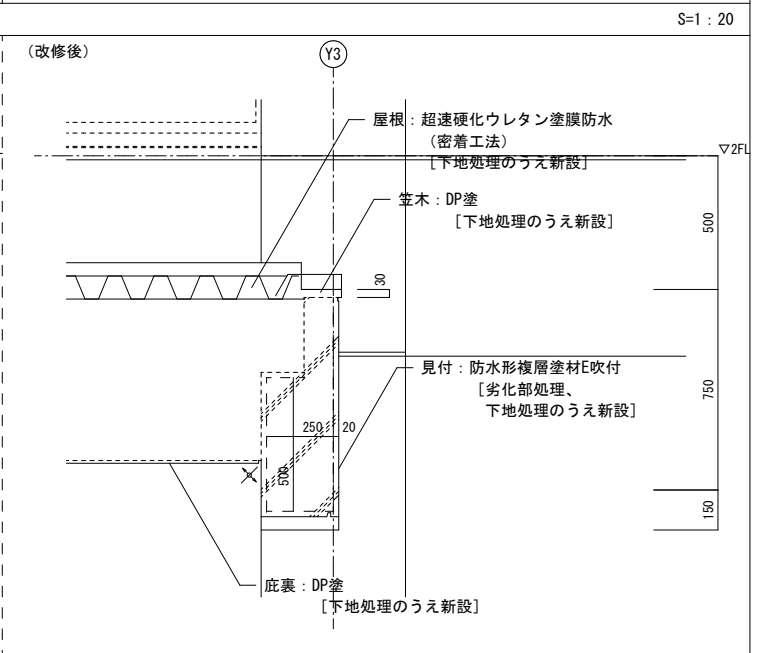
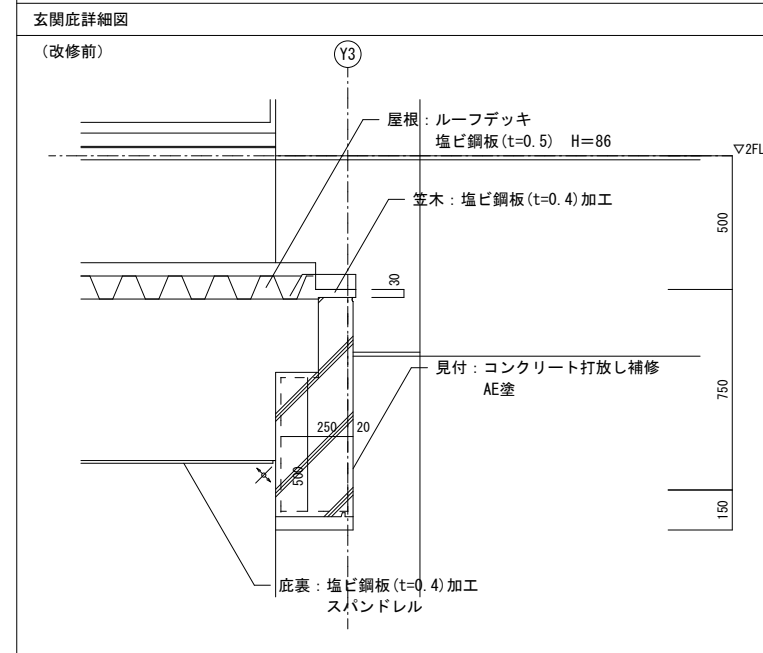
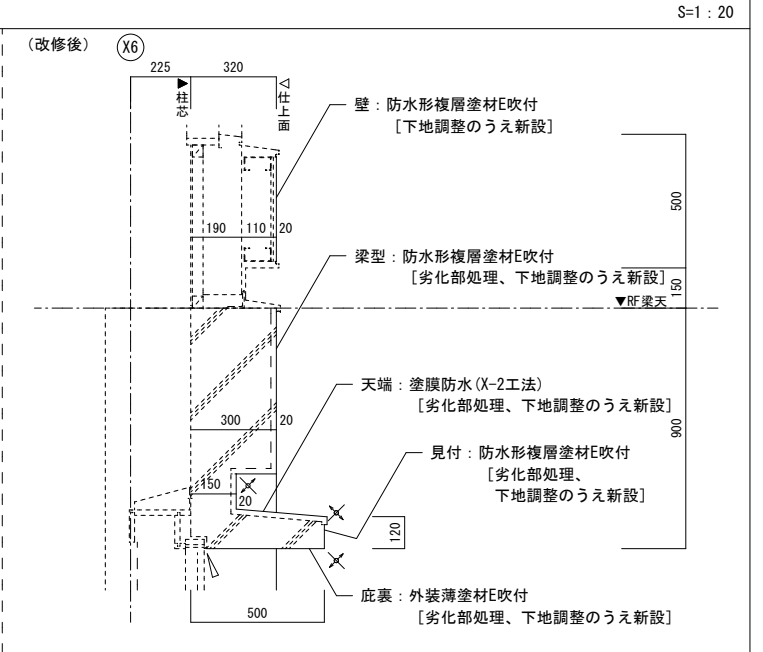
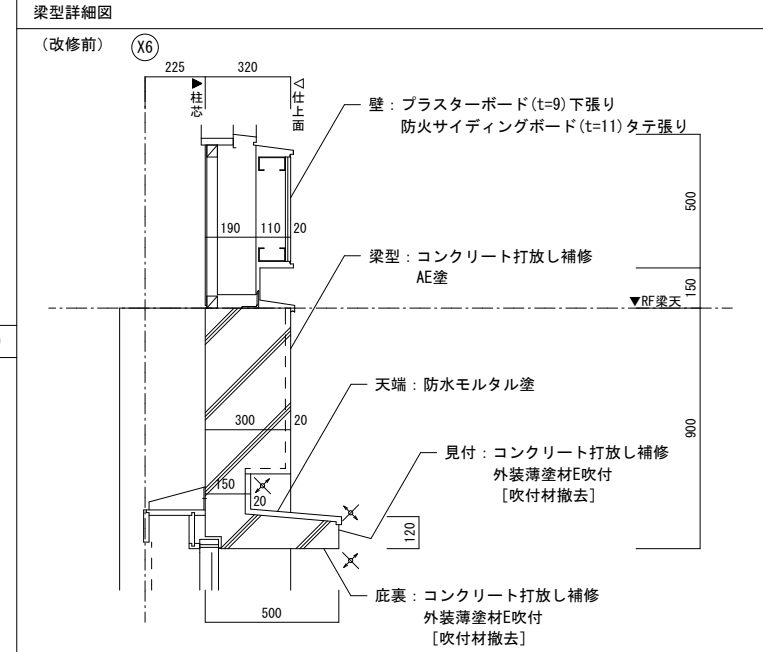
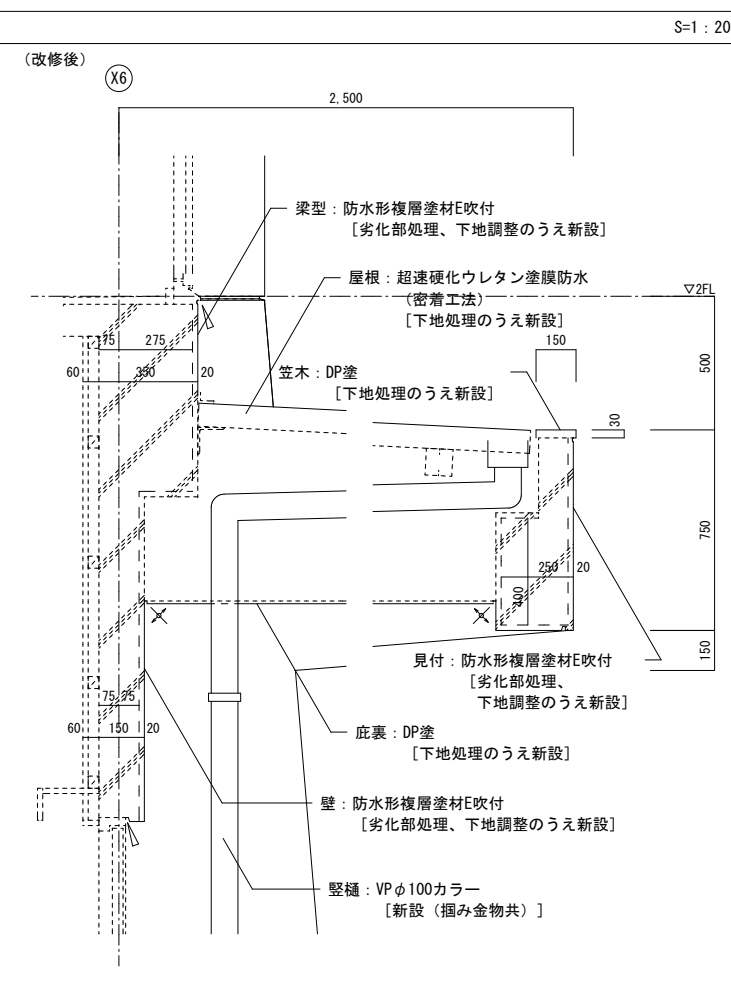
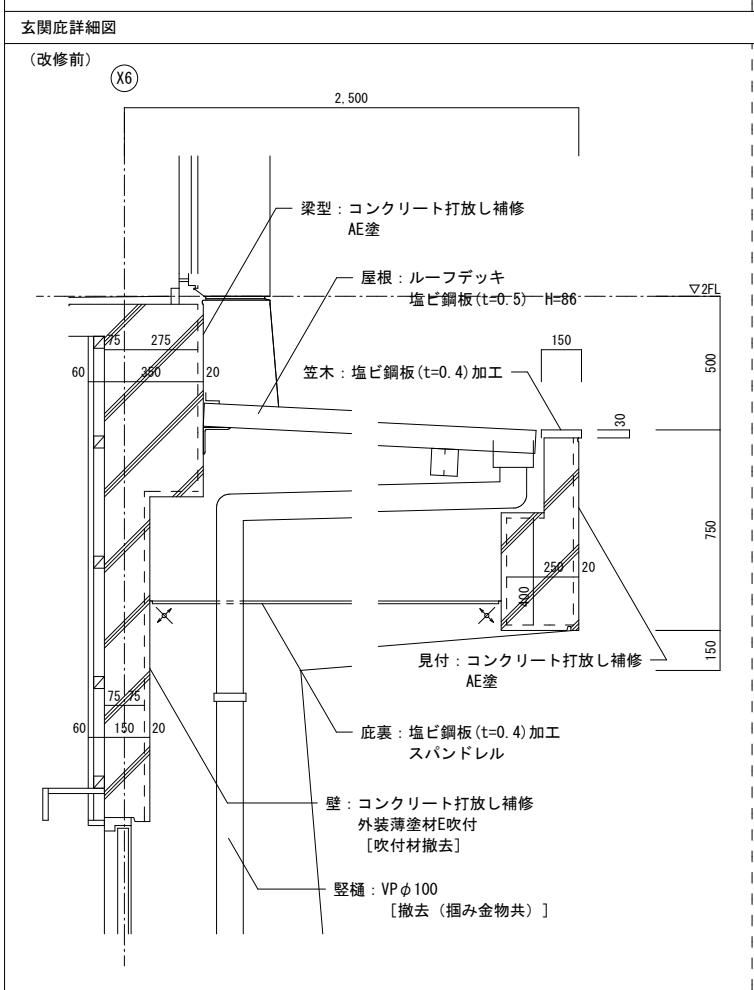
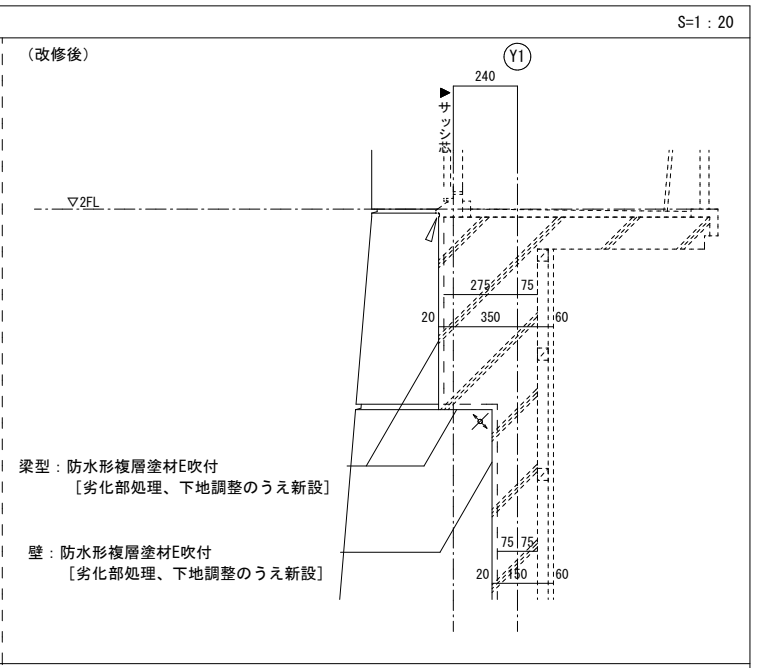
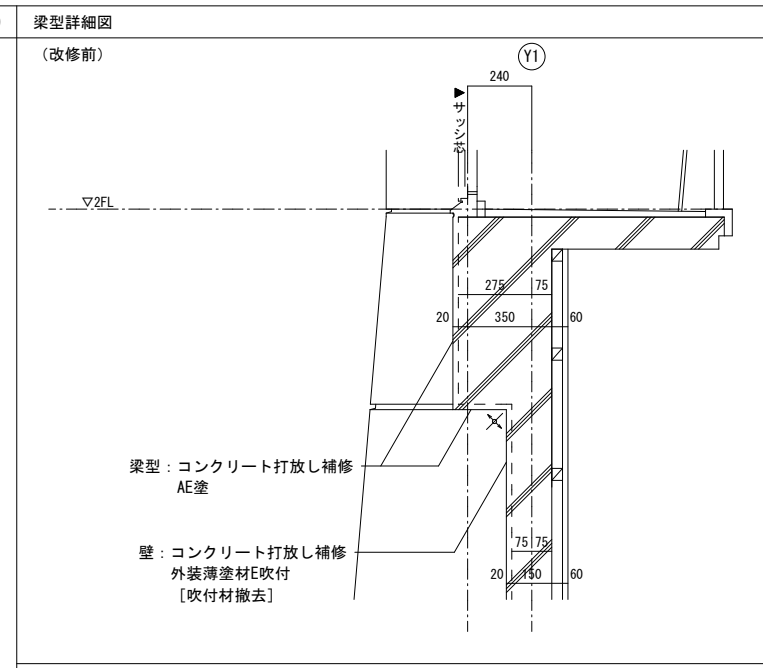
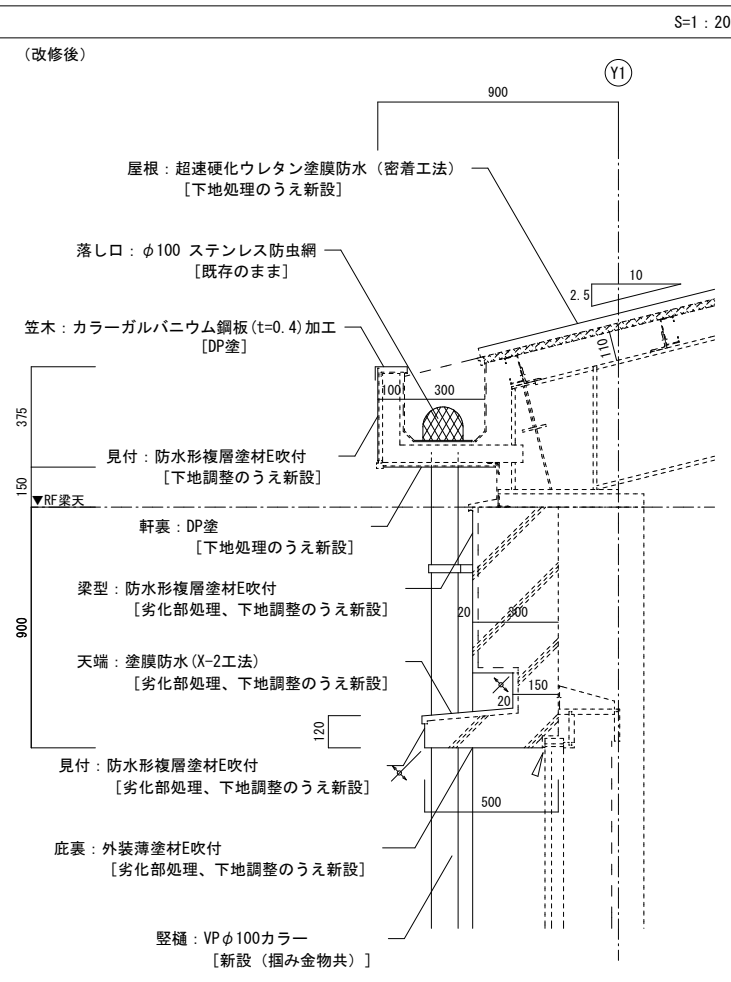
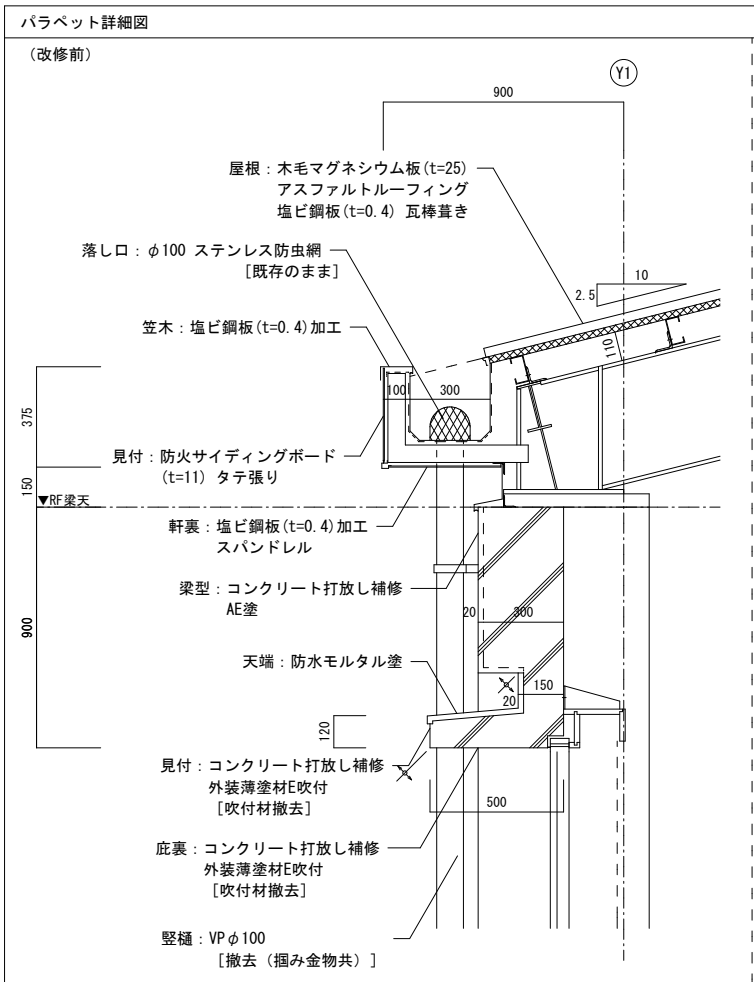
南面展開図 S=1:50

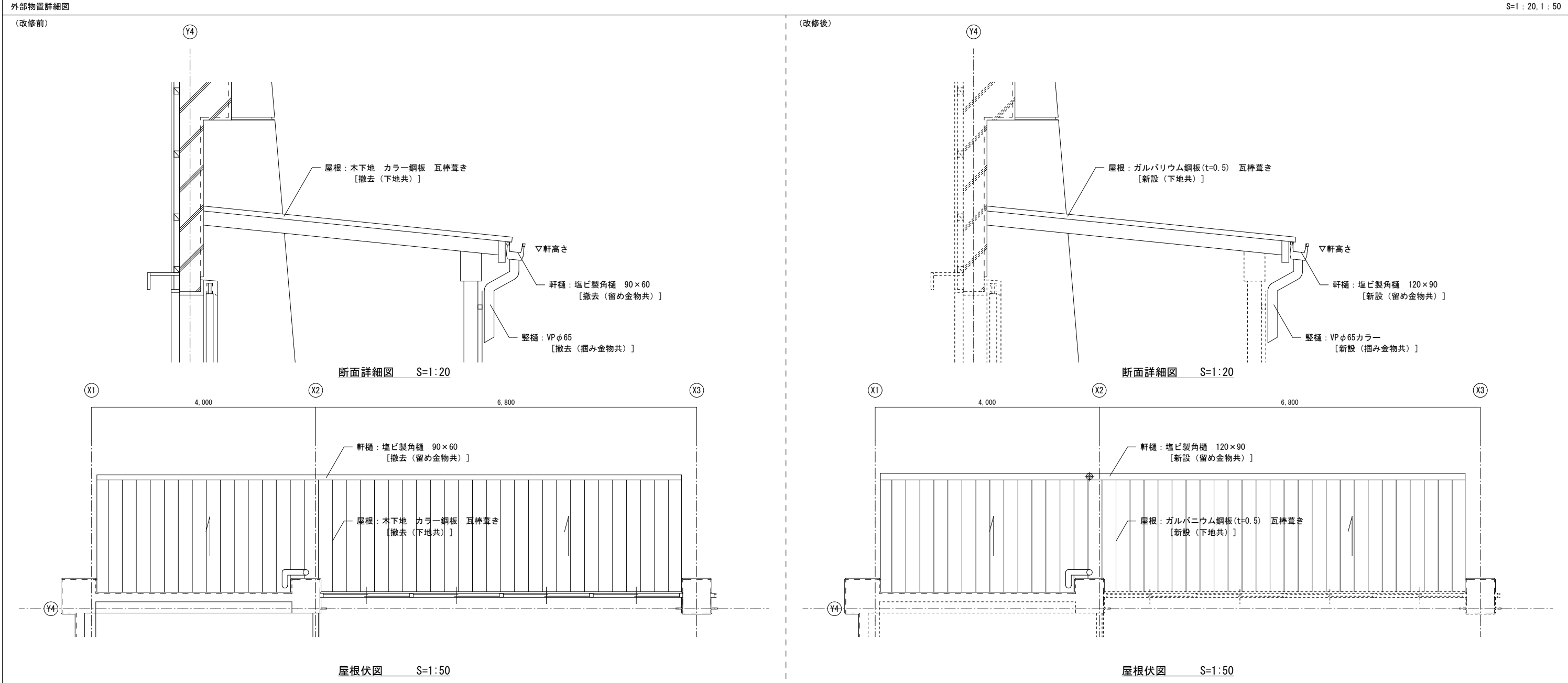
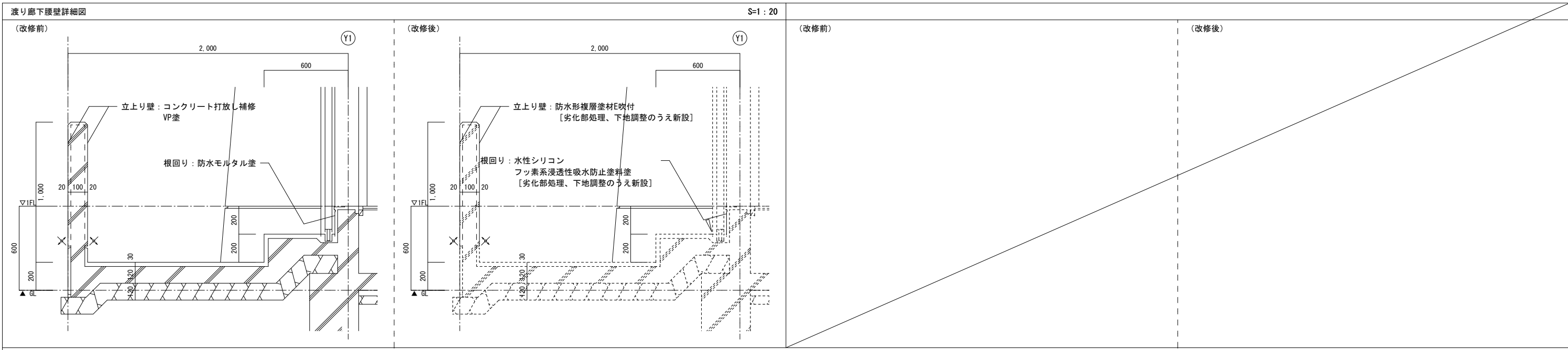


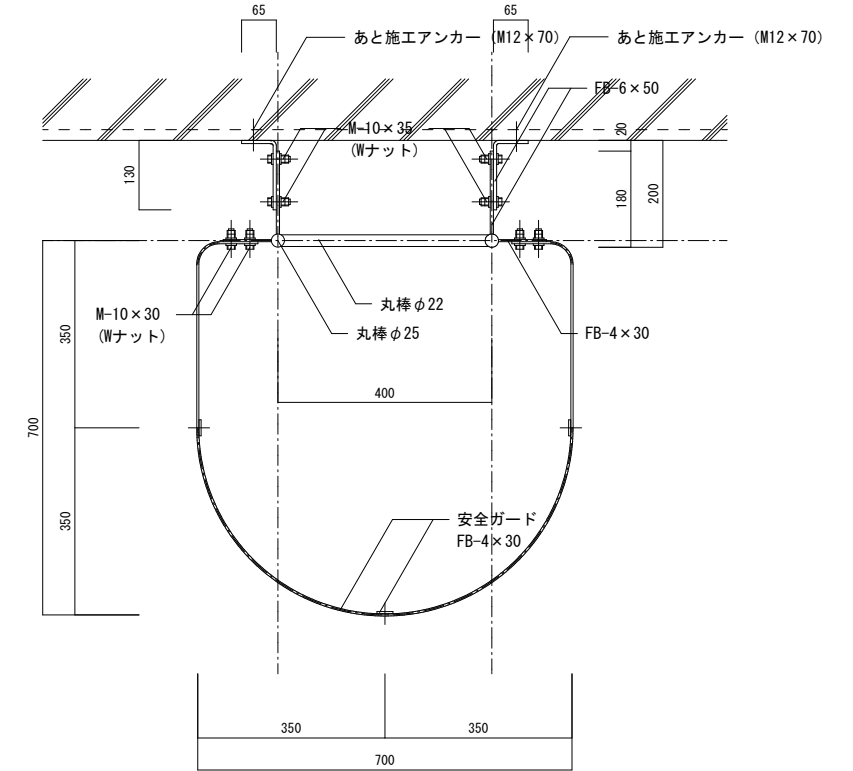
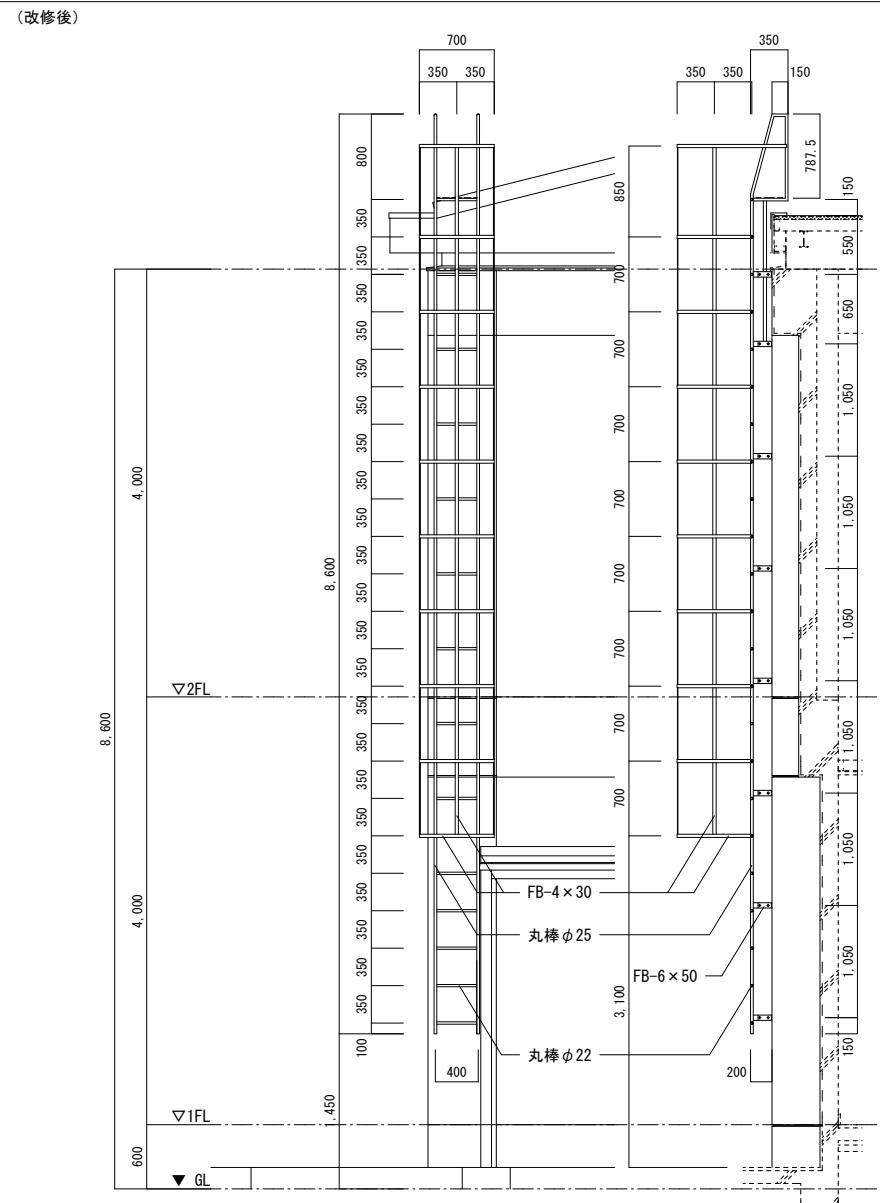
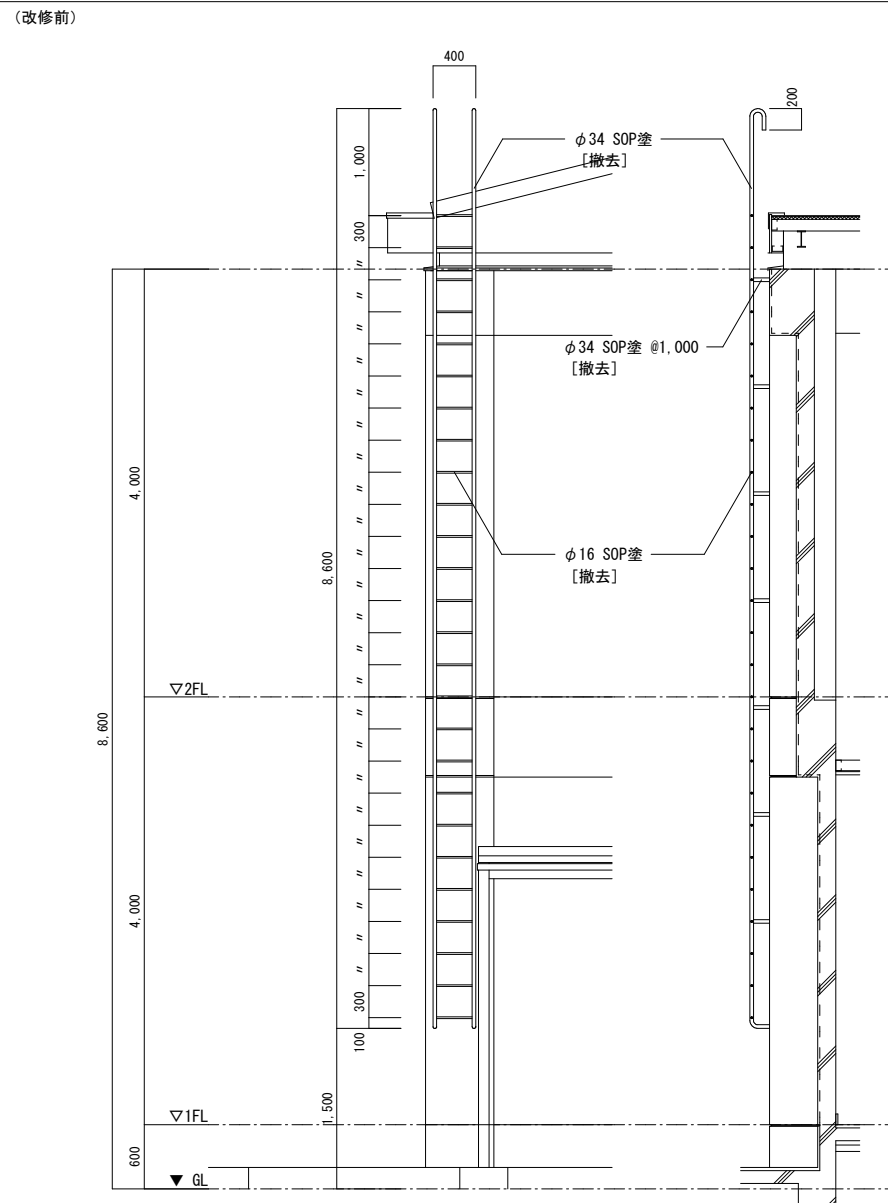
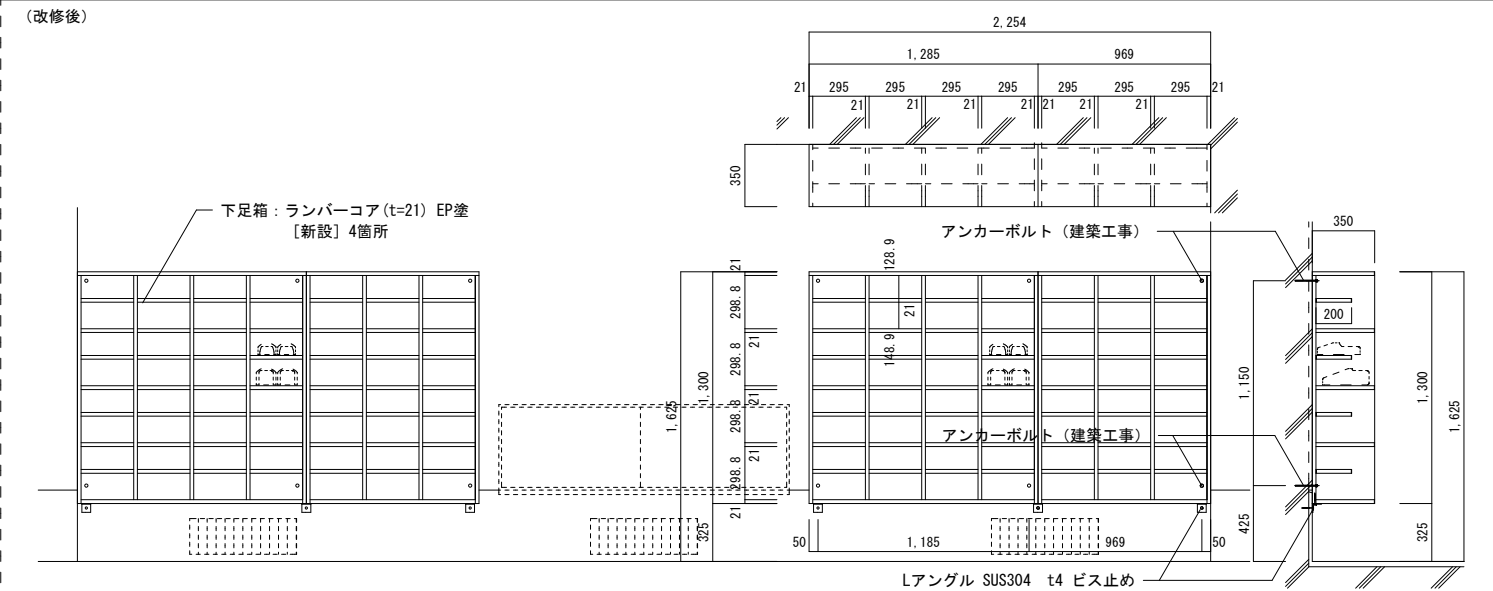
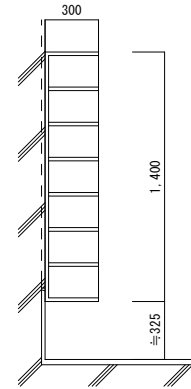
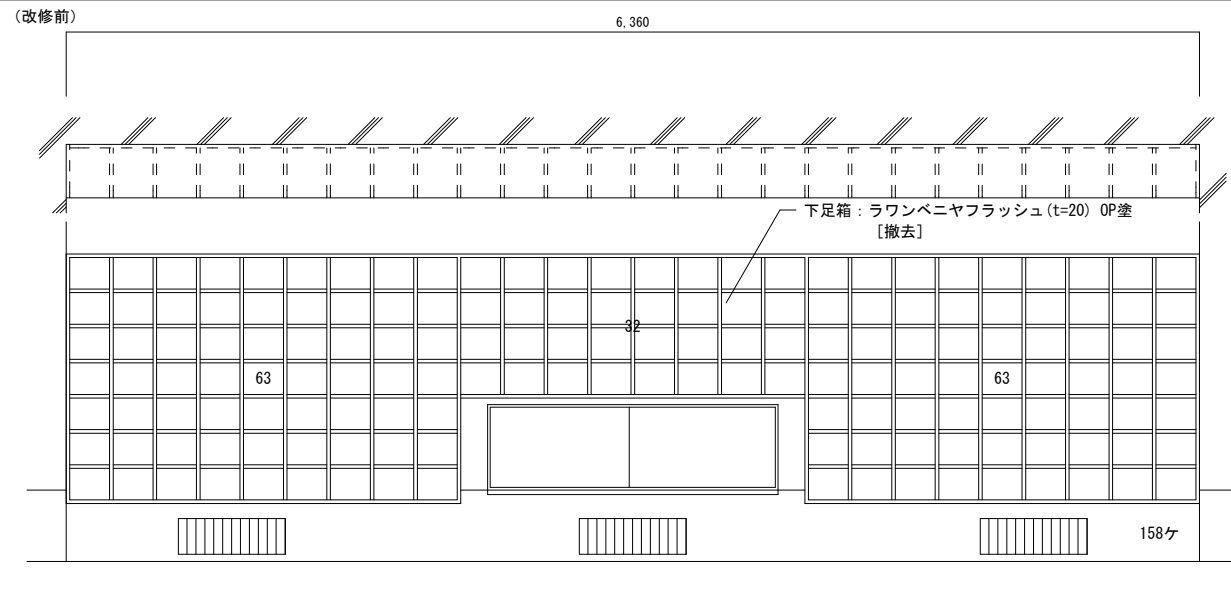
符号・名称	AD-1 アルミ製片開き戸	AD-1' [周囲シーリング打替え]	SD-1 鋼製両開き戸	SD-2 [周囲シーリング打替え]	AM-1 アルミ製引違い窓・上下はめごころ窓	AM-1' [周囲シーリング打替え]
位置・数量	1階：体育器具庫、女子更衣室	AD-1:1、AD-1':1	1階：体育室	1階：体育室	2階：ギャラリー	1
姿図						
▽FL	アルミパネル					
扉仕上・扉厚	アルミ製 扉：アルミパネル t=4	-	鋼製フラッシュ SOP塗	鋼製フラッシュ SOP塗	-	-
枠仕上・枠見込	-	70	-	86	-	70
番番・水切	SUS製	SUS製	-	-	-	-
硝子	AD-1:F4 AD-1':NF6.8	-	-	-	ST(FL)4	-
金物	ステンレスT番 モノロック ドアチェック	-	ピボットヒンジ ステンレス押棒 シリンダー錠 フランス差し ドアチェック	ドアハンガー トラック ブラケット ストップバー 中央戸当り 引手 ガイドローラー ガイドレール シリンダー錠	額縁用アングル 付属金物一式	-
備考	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-

符号・名称	AM-2 アルミ製引違い窓・上下はめごころ窓	AM-2' [周囲シーリング打替え]	AM-3 アルミ製引違い窓・上下はめごころ窓	AM-3' [周囲シーリング打替え]	AM-4 アルミ製引違い窓	AM-4' [周囲シーリング打替え]	AM-5 アルミ製引違い窓	AM-5' [周囲シーリング打替え]
位置・数量	2階：ギャラリー	AM-2:2、AM-2':2	2階：ギャラリー	AM-3:2、AM-3':2	1階：体育器具庫、女子更衣室	AM-4:1、AM-4':1	階段室	1
姿図								
▽FL								
扉仕上・扉厚	-	-	-	-	-	-	-	-
枠仕上・枠見込	アルミ製	70	アルミ製	70	アルミ製	70	アルミ製	70
番番・水切	-	-	-	-	-	-	-	-
硝子	AM-2:ST(FL)4 AM-2':NF6.8	-	AM-3:ST(FL)4 AM-3':NF6.8	-	AM-4:ST(FL)4 AM-4':NF6.8	-	ST(FL)4	-
金物	額縁用アングル 付属金物一式	-	額縁用アングル 付属金物一式	-	付属金物一式	-	付属金物一式	-
備考	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-

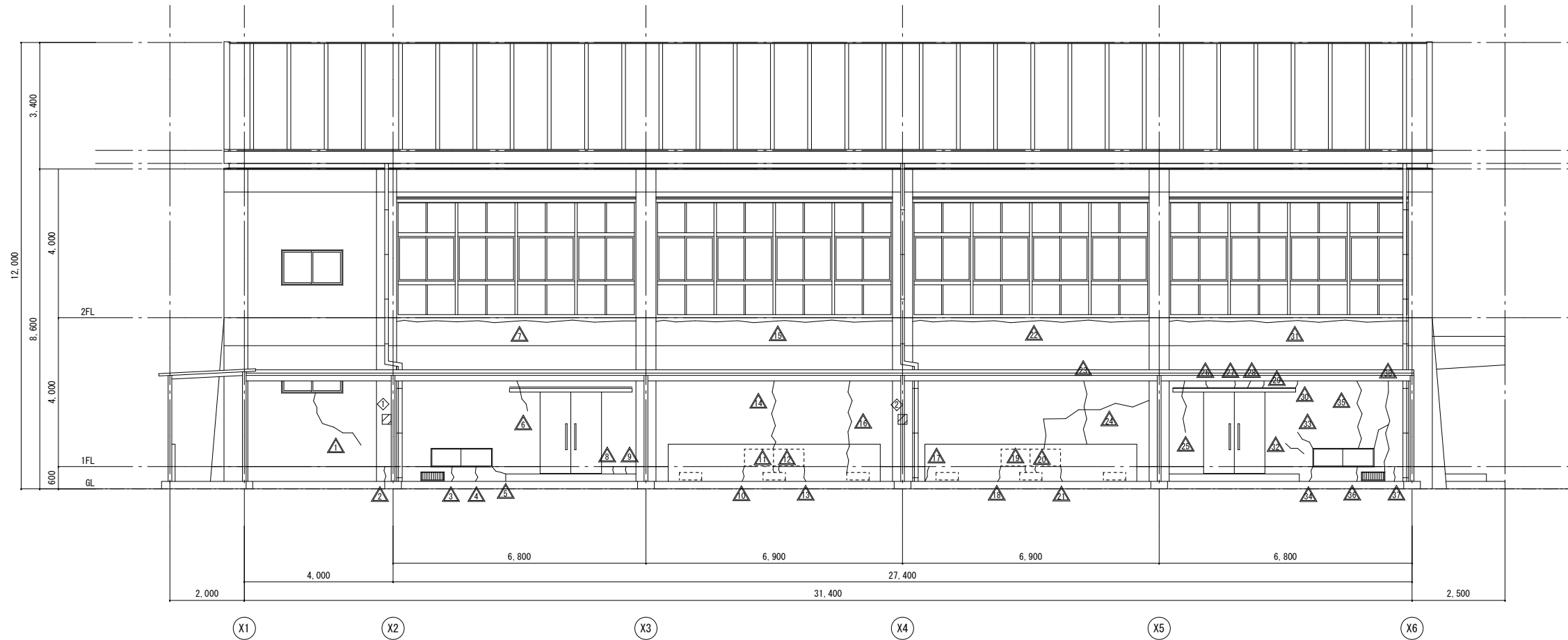
符号・名称	SW-1 鋼製引違い窓	SG-1 鋼製ガラリ	特記事項
位置・数量	1階：体育室	10	SG-1:1 SG-1':1
姿図			<p>・姿図は外観図。</p> <p>・建具製作にあたってはよく現場を調査し、施工作成のうえ監督員の承認を得た後製作すること。</p> <p>・引き違い建具は全て網戸レールを具備してあるものとし、落下防止又はハズレ防止付とする。</p> <p>・シリンダー錠は、全て既存マスターキーに合わせる。</p> <p>・ハキ出し部分の既存番番りは撤去し、ステンレス(SUS304)厚2.0mm製を取付けるものとし、研り部分は現状仕上に準じ補修すること。(出入口ドア下枠もこれに準ずる。)</p> <p>床研りは最小限にし、必要に応じてカッターを使用すること。</p> <p>・寸法は既存建具内寸法を示す</p> <p>・ガラス留め材は、網入り・FIXはシーリング(SR-1シリコン系)を使用すること。</p> <p>・アルミ水切は建具同材とし、小口はエンドキャップを使用すること。</p> <p>・アルミ製建具には二次電解着色・高耐候性アクリルクリアー電解塗装(SGコート)をすること。</p> <p>・アルミ製建具のクレセントは、中型以上とする。</p> <p>・クレセントの取付位置は、特記なき場合、FL+80mm以上1,500mm以下とする。</p> <p>・クレセント、レバーハンドルは抗菌仕様とする。</p> <p>・FL-アルミプレート3mmを使用、FIX-ガラス</p> <p>・ --- ステンレス製番番 (t=2.0) を示す。</p> <p>・ --- 特記なき場合、AD、AMの場合は7A:額縁(厚=25~350)、</p> <p>LSD、SDの場合はF4:額縁(厚=25~350)焼付け、STDの場合はF7A:額縁(厚=25)、</p> <p>WDの場合は木製額縁(厚=25)を示す。</p>
▽FL			<p>□ 建具形式</p> <p>D ドア</p> <p>W 窓</p> <p>G ガラリ</p> <p>S シャッター</p> <p>F ふすま</p> <p>SJ 障子</p> <p>□ 材種</p> <p>S スチール</p> <p>ST ステンレス</p> <p>A アルミ</p> <p>W 木</p> <p>P 合成樹脂</p> <p>□ ガラス</p> <p>FL フロート板ガラス</p> <p>P 磨き板ガラス</p> <p>F 型板ガラス</p> <p>NP 網入磨き板ガラス</p> <p>NF 網入型板ガラス</p> <p>HAFL 熱線吸収フロート板ガラス</p> <p>A 空気層</p> <p>Ar アルゴン</p> <p>□ 閉金物</p> <p>T () 強化 (材料板ガラス)</p> <p>ST () 学校用強化 (材料板ガラス)</p> <p>HR () 熱線反射 (材料板ガラス)</p> <p>IG () 複層 (材料板ガラス)</p> <p>DS () 倍強度 (材料板ガラス)</p> <p>L () 合わせ (材料板ガラス)</p> <p>□ 鍵金物 他</p> <p>H 丁番</p> <p>PH ピボットヒンジ</p> <p>FH フローアヒンジ</p> <p>LH ラバトリーヒンジ</p> <p>GH グレビティヒンジ</p> <p>DCS ドアクローザー (ストップ付)</p> <p>DC ドアクローザー (ストップなし)</p> <p>Lh レバーハンドル</p> <p>Kh カムラッチハンドル</p> <p>Gh グレモンハンドル</p> <p>Oh オペレーターハンドル</p> <p>C シリンダー錠</p> <p>S サムターン錠</p> <p>H 表示錠</p> <p>L 空錠</p> <p>CU ロック付クレセント</p> <p>NCU ロックなしクレセント</p> <p>KCU キー付クレセント</p>
扉仕上・扉厚	鋼製フラッシュ SOP塗	30	鋼製 SOP塗
枠仕上・枠見込	-	100	鋼製 SOP塗
番番・水切	-	-	-
硝子	-	-	-
金物	クレセント 戸車 レール 引手	-	付属金物一式 額縁用アングル ファイアーダンパー(SG-1')
備考	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)	-	周囲シーリング：変成シリコン系(NS-2.10×10)



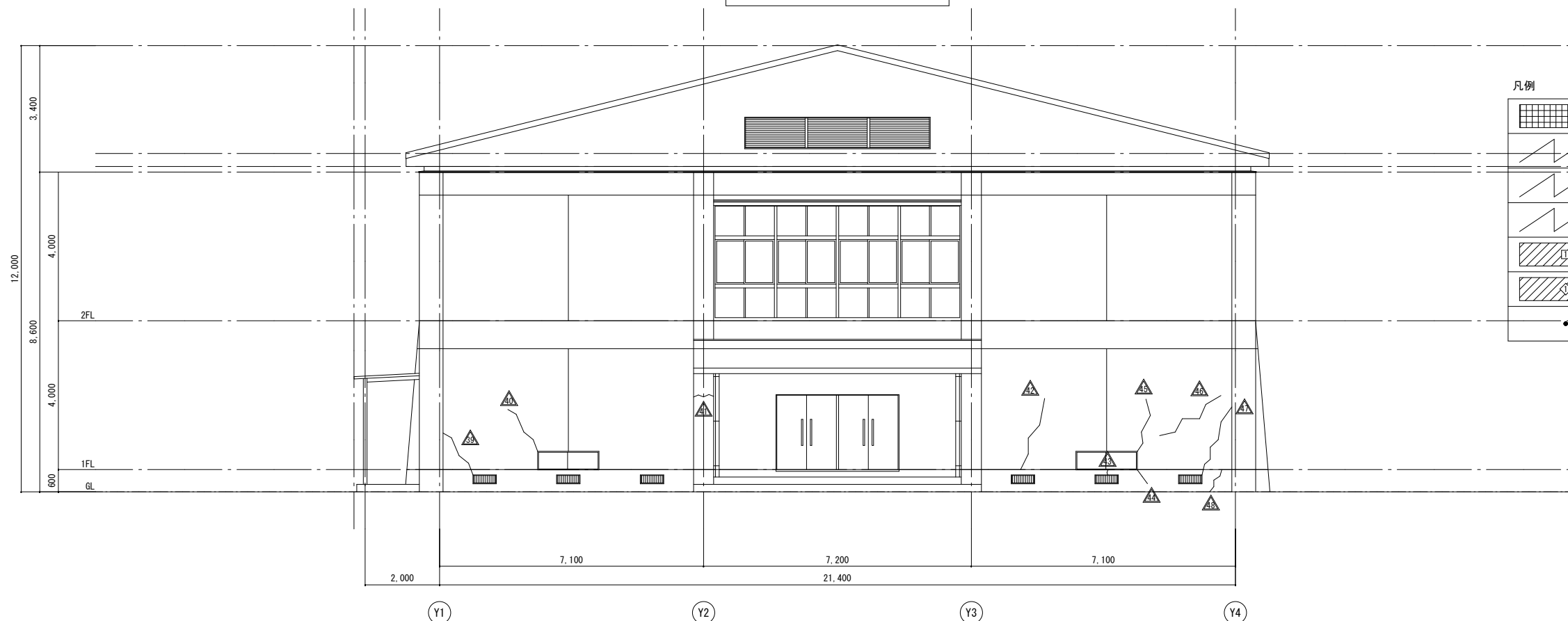




SUS304バフ研磨#400仕上



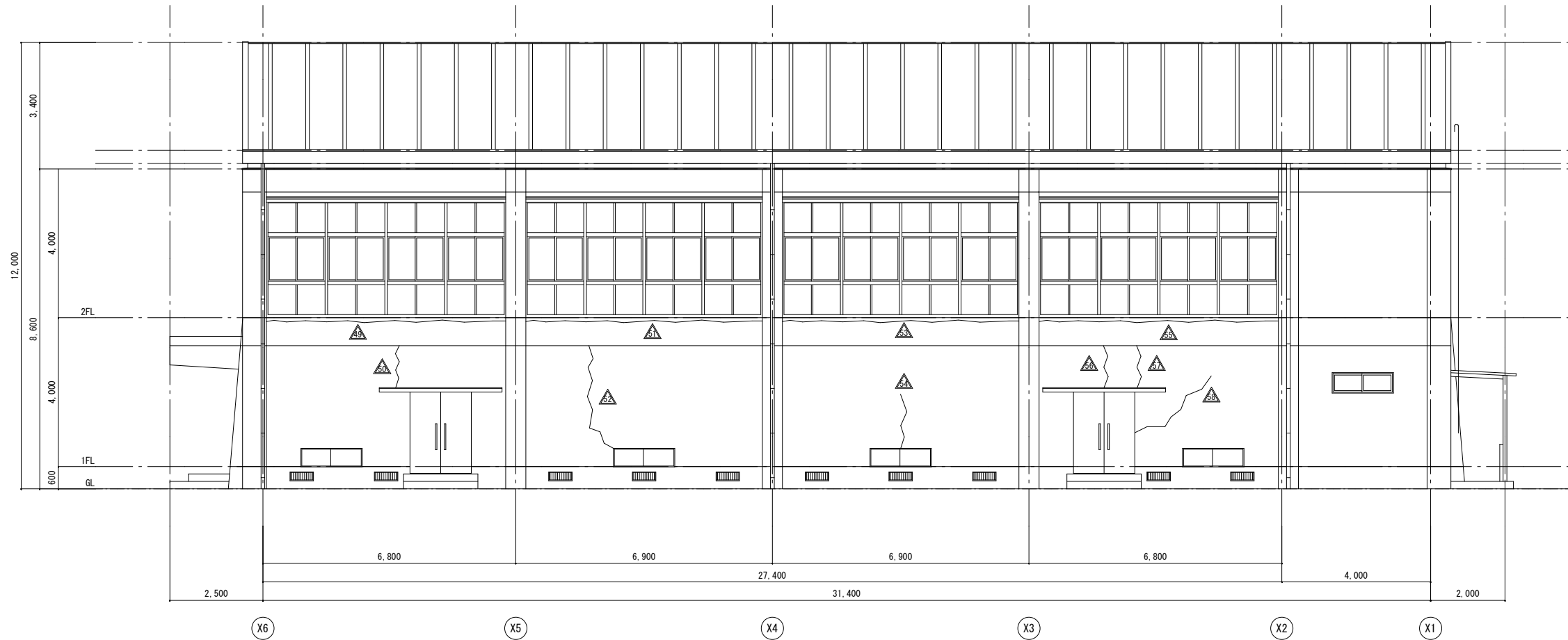
西面立面図 S=1:100



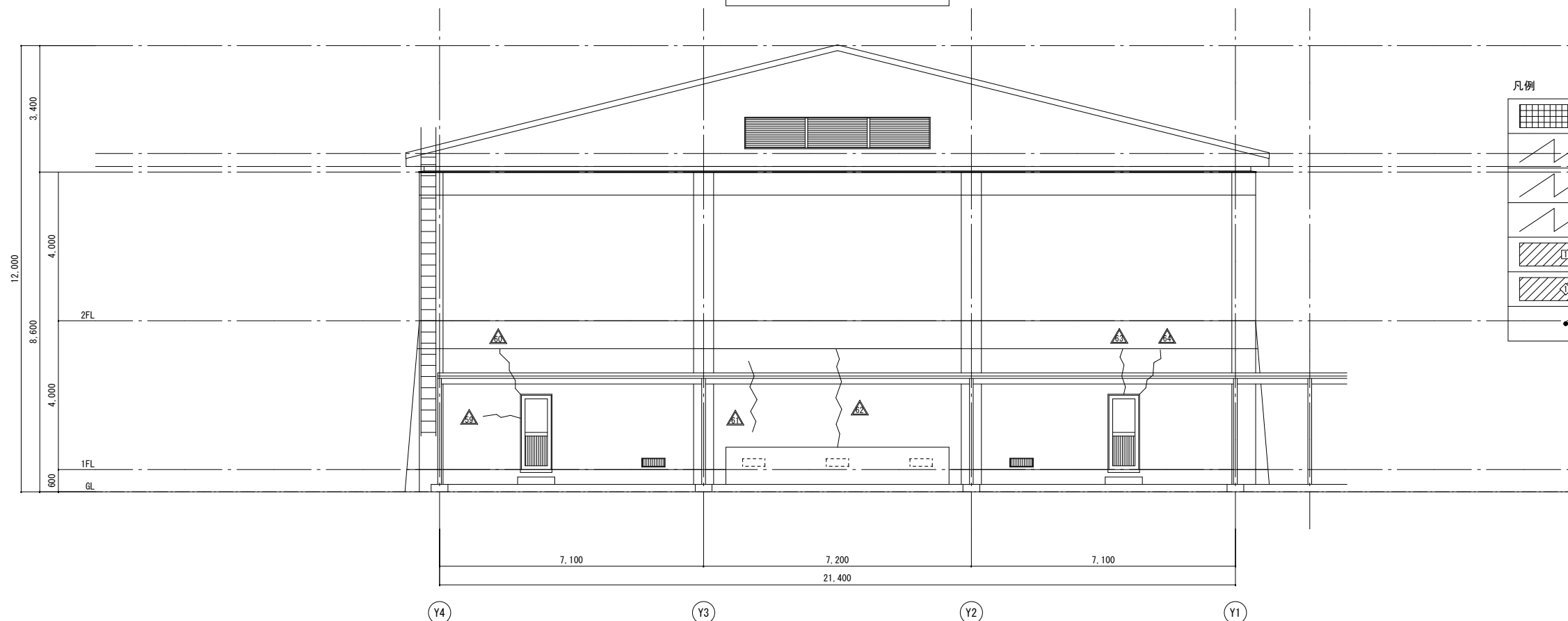
南面立面図 S=1:100

凡例

	塗膜劣化
	B-2 ひび割れ (打放し面)
	B-6 ひび割れ (モルタル面)
	C-1 錆鉄筋
	D-2 モルタル浮き
	E-1 欠損部
	木跡部



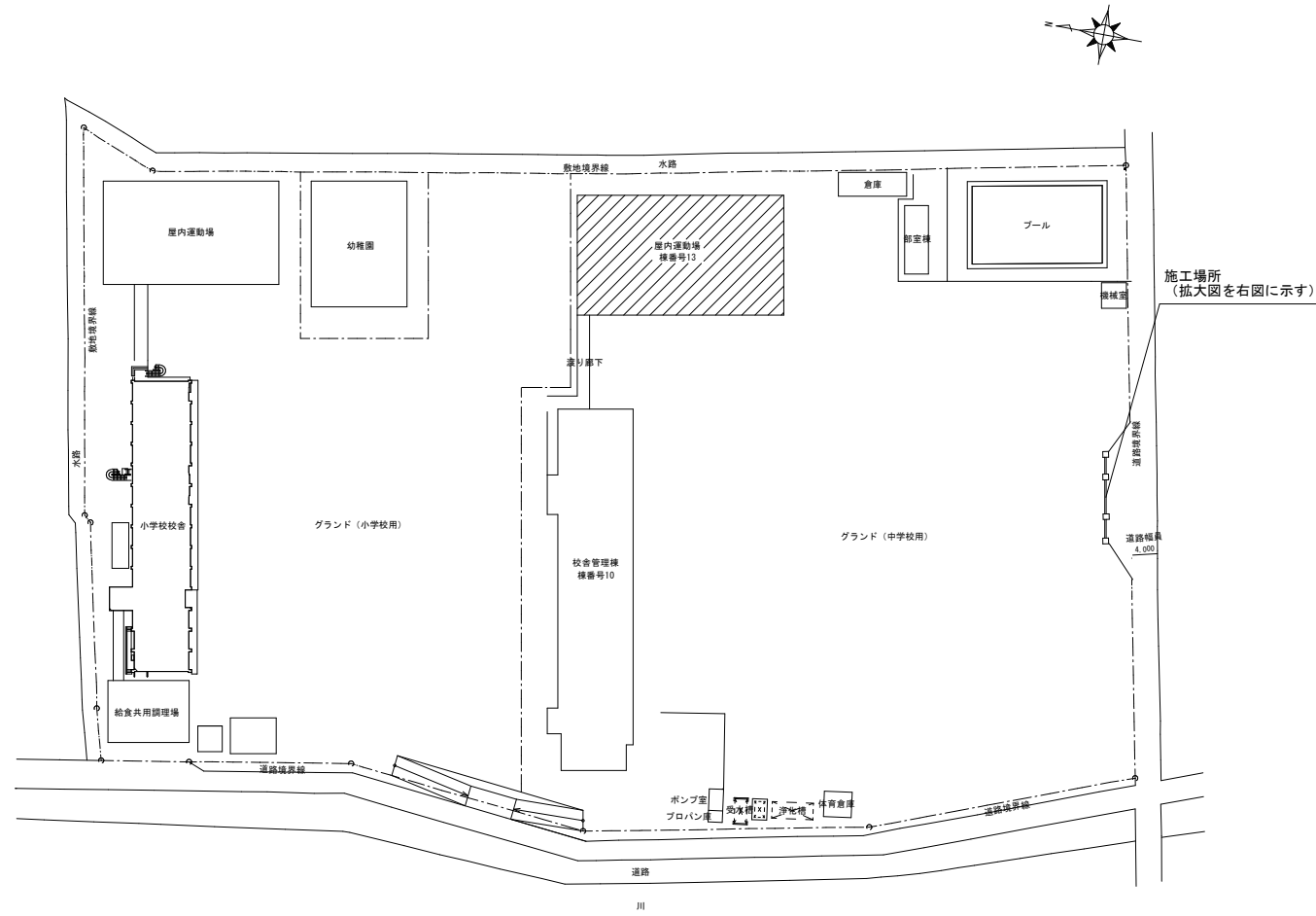
東面立面図 S=1:100



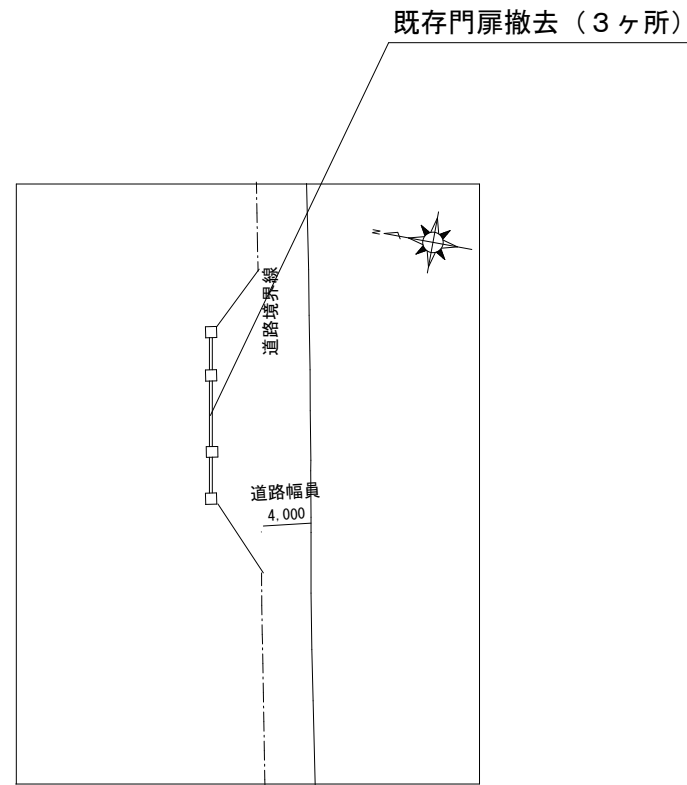
北面立面図 S=1:100

凡例

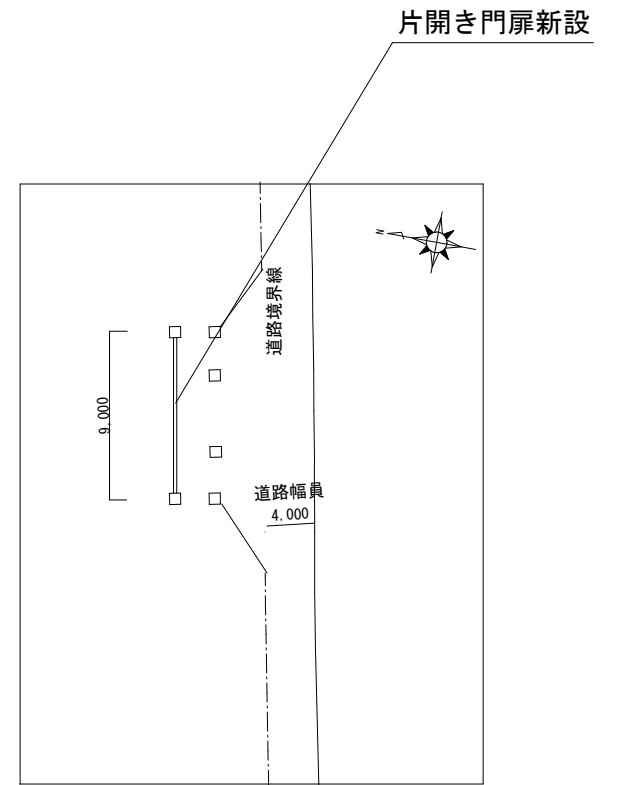
	塗膜劣化
	B-2 ひび割れ (打放し面)
	B-6 ひび割れ (モルタル面)
	C-1 錆鉄筋
	D-2 モルタル浮き
	E-1 欠損部
	木跡部



配置図

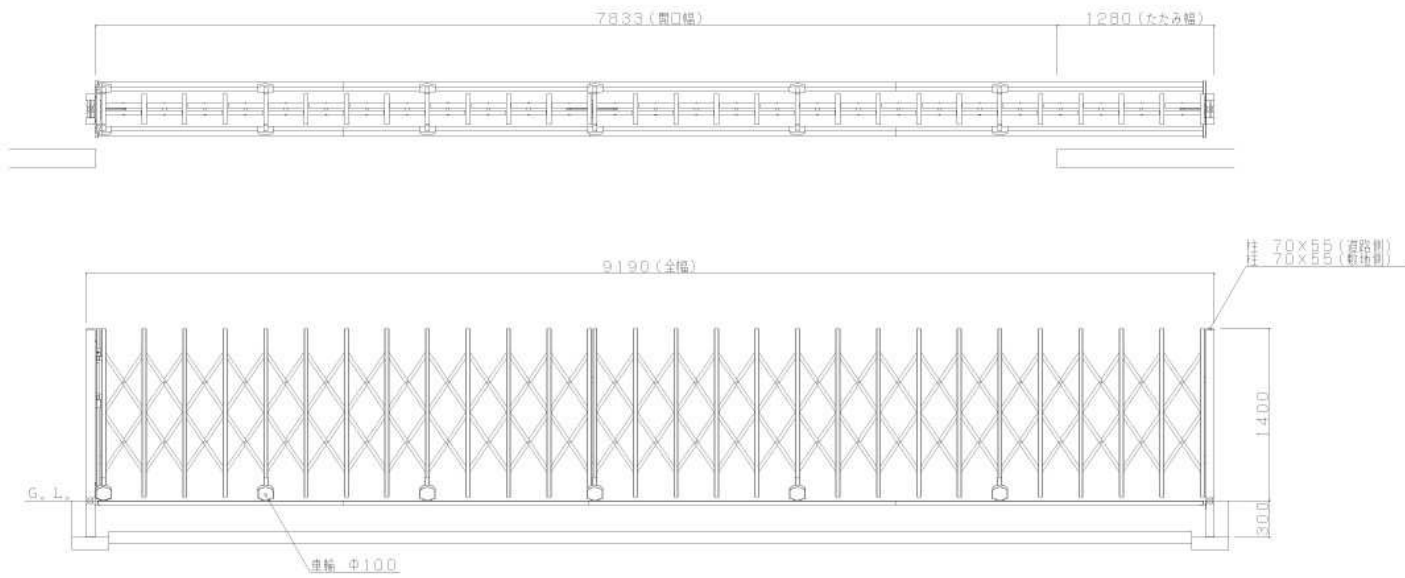


平面図 (改修前)



平面図 (改修後)

LIXIL グランシャイン0タイプフラットレールタイプ 同等品



立面図 LIXIL グランシャイン0タイプフラットレールタイプ 同等品

三原市役所
三原市港町3丁目5番1号 TEL (0848) 64-2111

課長	係長	設計	校閲	日付	

備考

工事名

幸崎中学校屋内運動場長寿命化改修工事 (建築主体工事)

図面名称

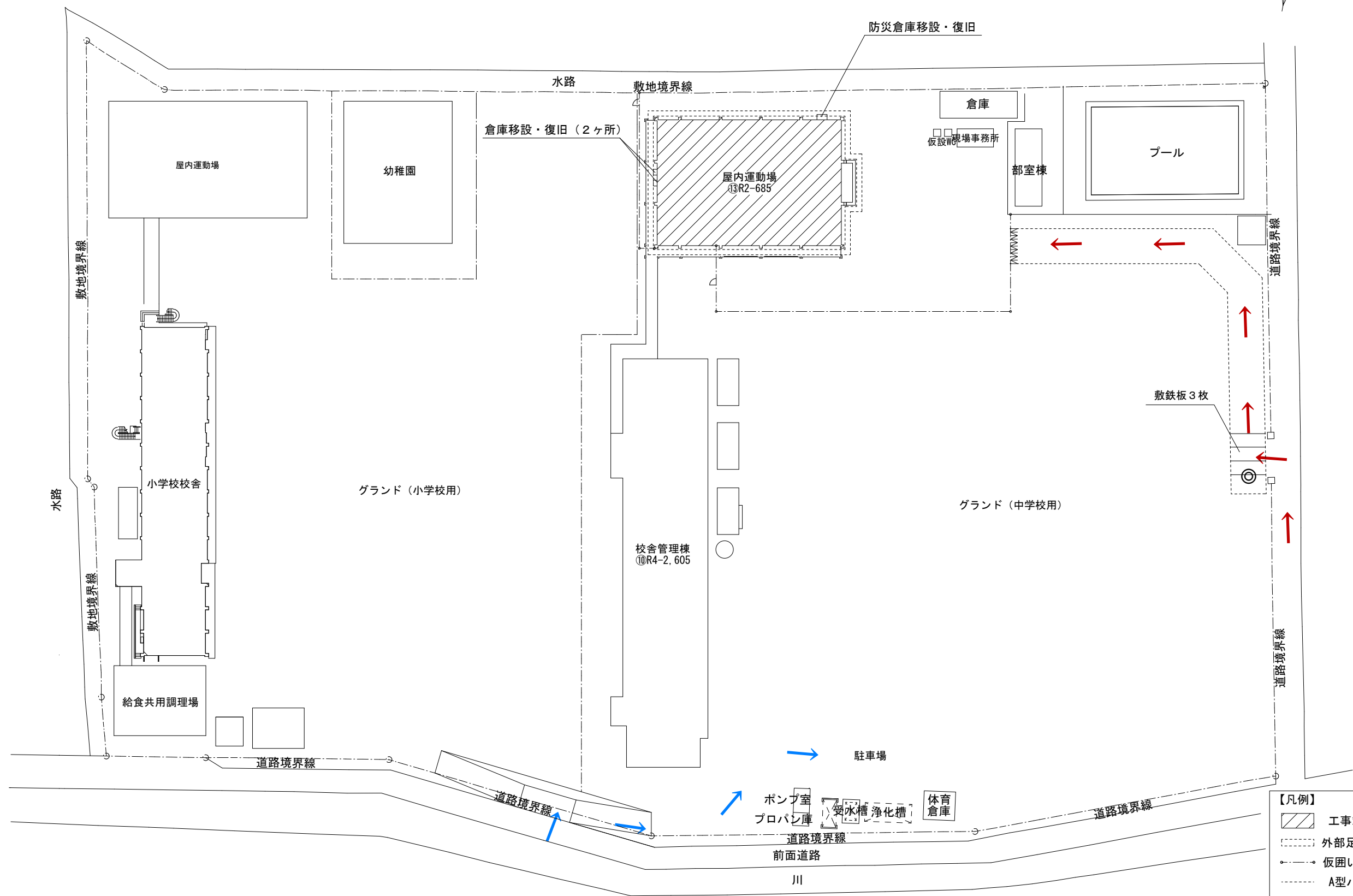
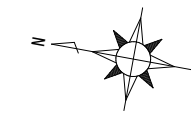
門扉設置図

縮尺

N.S.

図面番号

A-32



配置図 S=1:500

- 【凡例】
- 工事範囲を示す
 - 外部足場 枠組本足場 W=900
 - 仮囲い 成形鋼板 H=3.0m
 - A型バリケード
 - キャスターゲート W6.0m×H2.0m
 - 工事車両動線
 - 学校動線
 - 交通誘導員

参 考 数 量 書

工 事 名 称 幸崎中学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

工 事 場 所 三原市幸崎能地三丁目

[工 事 概 要]

用途、構造、面積

屋内運動場、鉄筋コンクリート造2階建て、床面積946.55㎡

工 事 範 囲

改修工事一式（建築主体工事）

別 途 発 注 工 事

幸崎中学校屋内運動場長寿命化改修工事（電気設備工事）

工 期

契約締結日の翌日 ～ 令和9年6月30日

一 般 事 項

《 工事予算内訳 》

合 計 金 額

〈内 訳〉

区 分

金 額

概 要

設 計 金 額

消 費 税 額

合 計 金 額

工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		
調査基準価格	1	式		
調査基準価格の100/110	1	式		

建築工事 中科目別内訳

屋内運動場					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
防水改修	撤去	1	式		
防水改修	改修	1	式		
計					
外壁改修	改修	1	式		
計					
建具改修	撤去	1	式		
建具改修	改修	1	式		
計					
内装改修	撤去	1	式		
内装改修	改修	1	式		
計					
塗装改修	改修	1	式		
計					

建築工事 中科目別内訳

屋内運動場					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
渡り廊下	撤去	1	式		
渡り廊下	新設	1	式		
計					
外部物置	撤去	1	式		
外部物置	新設	1	式		
計					
門扉		1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		防水改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(屋根)						
下地処理	全面ケレン3種B	751	m ²			
高圧洗浄	150～200kg/cm2	751	m ²			
シーリング	一般部ポリウレタン系(PU-2)30×10 (ハゼ部)	1,606	m			
シーリング	一般部ポリウレタン系(PU-2)30×30 (棟包み部)	65	m			
シーリング	一般部ポリウレタン系(PU-2)10×10 (軒先部)	65	m			
既存横葺緩衝絶縁 処理		64.8	m			
既存横葺根巻シーリ ング処理	ホルト部ポリウレタン系シーリング PU-2	250	か所			
超速硬化ウレタン塗膜 防水	密着工法 全面t=2.0	751	m ²			
(玄関底)						
下地処理	全面ケレン3種B	17	m ²			
高圧洗浄	150～200kg/cm2	17	m ²			
シーリング	一般部ポリウレタン系(PU-2)30×10 (ハゼ部)	45	m			
シーリング	一般部ポリウレタン系(PU-2)10×10 (軒先・壁際)	14.4	m			
超速硬化ウレタン塗膜 防水	密着工法 全面t=2.0	17	m ²			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
施工数量調査 (外壁改修)	打放し面・仕上塗材改修	842	m ²			
施工数量調査 (外壁改修)	タイル・モルタル塗替改修	57.9	m ²			
A-1 打放し面表面劣化 処理		842	m ²			
A-2 モルタル面表面劣化 処理		57.9	m ²			
B-1 打放し面樹脂注入	0.5~1.0mm 手動 挙動 無し	399	m			
B-2 打放し面Uカットシー ル材充填工法	1.0mm以上 挙動 無し	1.6	m			
C-1 クラック部打放し面サ ビ鉄筋処理		8.7	m			
D-2 モルタル面アン カーピンキング部分注 入エポキシ樹脂	0.25m ² 以下 一般部(16カ所/m ²)	0.6	m ²			
E-1 打放し面充填工法	樹脂モルタル	0.2	m ²			
E-3 モルタル面欠損部処理	樹脂モルタル	0.2	m ²			
水性シリコン・フッ素系 浸透性吸水防止塗 料	根廻り	57.9	m ²			
防水形 複層塗材 E	コンクリート面 凹凸状 吹付け アクリル系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	910	m ²			
外装薄塗材 E	コンクリート面 砂壁状 吹付け 下地調整費(C-1)共	26	m ²			
屋外タフ	安全ガード付 (アンカー共)	1	式			
下足箱	2260×350×1300 (EP塗り共)	4	か所			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(床)						
耐水合板	t=15	626	m ²			
複合フローリング [°]	t=15 カ [°]	626	m ²			
カ [°] 樹脂塗装	研磨含む	626	m ²			
床下点検口	600角	4	か所			
(幅木・壁)						
木製幅木	米梅 H=100	76	m			
O S 塗り (糸幅300mm以下)	木部 素地B種	76	m			
壁クロス新設		57	m ²			
E P 塗り		21	m ²			
(その他)						
コートライン引き	バスケットコート	3	面			
コートライン引き	バレーコート	3	面			
コートライン引き	バドミントンコート	2	面			
バレー床金具		6	か所			

建築工事 別紙明細

屋内運動場		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
養生		1	式			別紙 00-0007
養生(外壁改修)		236	m ²			
養生(内部改修)	個別改修	626	m ²			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0008
整理清掃後片付け (外壁改修)		236	m ²			
整理清掃後片付け (内部改修)	個別改修	626	m ²			
計						
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠900×1700 布枠500+240 22m未満	1	式			別紙 00-0009
枠組本足場 (手すり先行方式)	材工共	1,416	m ²			
計						

建築工事 別紙明細

屋内運動場		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
安全手すり (手すり先行方式)	枠組み本足場用	1	式			別紙 00-0010
安全手すり (手すり先行方式)	材工共	118	m			
計						
災害防止		1	式			別紙 00-0011
防音シート張り	掛払い手間 - -	1,416	m ²			
防音シート張り	供用1日賃料 修理費含む - -	1,416	m ²			
防音シート張り	基本料 修理費含む - -	1,416	m ²			
計						
仮設材運搬		1	式			別紙 00-0012
仮設材運搬 (枠組み本足場) (手すり先行方式)	建枠幅900(二枚布)	1,416	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組み本足場用(手すり先行方式)	118	m			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		1,416	m ²			
計						

共通仮設費(積上) 明細

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮囲い	仮囲鉄板 H=3.0m	1	式			別紙 00-0019
A型ハリケート		1	式			別紙 00-0020
パネルゲート	W5.4×H4.5 鋼製複層板 存置6ヶ月	1	か所			
交通誘導警備員B	常時	210	人			
交通誘導警備員B	大型車両進入時	20	人			
敷鉄板		3	か所			
現場事務所		1	か所			
仮設便所	くみ取り式	2	か所			
ラフテレンクレーン (油圧伸縮ジブ型)	25t吊り 標準 ハレタ付き 賃料	4	日			
アスベスト調査費	定性分析	4	か所			
計						

